

短期大学学生に関する調査研究  
-2010年JJCSS調査全体結果報告-

2011年10月

財団法人短期大学基準協会

JCIRP 短期大学学生調査チーム

(研究総括:山田礼子)

# 目次

## 巻頭言

まえがき .....	1
------------	---

第1部 図と文章で示す集計結果 .....	3
-----------------------	---

1 性別 .....	3
2 年齢 .....	3
3 入学年度 .....	4
4 在学状況(学年等) .....	4
5 居住形態 .....	5
6 通学時間 .....	5
7 高校での成績 .....	6
8(1) 出身校の種別(国立・公立・私立) .....	6
8(2) 共学・別学の別 .....	7
9-1 経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金) .....	7
9-2 経済的援助の有無(地方自治体の奨学金) .....	8
9-3 経済的援助の有無(民間団体の奨学金) .....	8
9-4 経済的援助の有無(短大の奨学金や授業料免除) .....	9
9-5 経済的援助の有無(その他) .....	9
10-1 単位を取得できなかった授業の有無 .....	10
10-2 補習授業の履修経験の有無 .....	10
10-3 人権や民族に関する授業の履修経験の有無 .....	11
10-4 女性学の授業の履修経験の有無 .....	11
10-5 リーダー養成やキャリア開発訓練への参加経験の有無 .....	12
10-6 海外研修プログラムへの参加経験の有無 .....	12
10-7 他高等教育機関での履修科目の卒業単位算入の有無 .....	13
10-8 他高等教育機関からの転学の有無 .....	13
11 進学理由と重要度 .....	15
12 留学生か否かの別 .....	16
13 特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望 .....	17
14 入学後における諸活動の経験の程度 .....	19
15 専門分野の別 .....	21
16 進学志向 .....	21
17 今年度諸活動に費やした時間 .....	22
18 今年度経験したことがらの程度 .....	24
19 同年齢者と比較しての自己評価 .....	25

20	設備やサービスに対する満足度 .....	27
21	教員の提供する支援活動の程度 .....	29
22	入学時からの能力、知識の変化 .....	30
23	入学後の適応度 .....	32
24	成績 .....	33
25	人生の価値観 .....	34
26	女性の生き方についての考え .....	36
27	就職予定者における現況 .....	37
28	将来希望する職業及びキャリア .....	39
29	キャリア選択において重視する要素 .....	40
30	教育全般に対する満足度 .....	41
31	志望順位 .....	43
32	進学時の入試方式 .....	44
33	受験決定時期 .....	46
34-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無 .....	47
34-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄 .....	47
35	学生生活の充実度 .....	48
36	選び直せるとしたときの進学志望 .....	49
第2部	集計一覧 .....	50
1	性別 .....	50
2	年齢 .....	50
3	入学年度 .....	50
4	在学状況(学年等) .....	50
5	居住形態 .....	51
6	通学時間 .....	51
7	高校での成績 .....	51
8(1)	出身校の種別(国立・公立・私立) .....	51
8(2)	共学・別学の別 .....	51
9-1	経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金) .....	52
9-2	経済的援助の有無(地方自治体の奨学金) .....	52
9-3	経済的援助の有無(民間団体の奨学金) .....	52
9-4	経済的援助の有無(短大の奨学金や授業料免除) .....	52
9-5	経済的援助の有無(その他) .....	52
10-1	単位を取得できなかった授業の有無 .....	52
10-2	補習授業の履修経験の有無 .....	53
10-3	人権や民族に関する授業の履修経験の有無 .....	53

10-4	女性学の授業の履修経験の有無	53
10-5	リーダー養成やキャリア開発訓練への参加経験の有無	53
10-6	海外研修プログラムへの参加経験の有無	53
10-7	他高等教育機関での履修科目の卒業単位算入の有無	53
10-8	他高等教育機関からの転学の有無	54
11	進学理由と重要度	54
12	留学生か否かの別	54
13	特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望	55
14	入学後における諸活動の経験の程度	56
15	専門分野の別	57
16	進学志向	57
17	今年度諸活動に費やした時間	57
18	今年度経験したことがらの程度	58
19	同年齢者と比較しての自己評価	59
20	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を欠損値扱い)	60
	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を有効回答扱い)	61
21	教員の提供する支援活動の程度	62
22	入学時からの能力、知識の変化	63
23	入学後の適応度	64
24	成績	64
25	人生の価値観	65
26	女性の生き方についての考え	66
27	就職予定者における現況	67
28	将来希望する職業及びキャリア	68
	将来希望する職業及びキャリア(上位10位まで)	69
29	キャリア選択において重視する要素	69
30	教育全般に対する満足度(「わからない」を欠損値扱い)	70
	教育全般に対する満足度(「わからない」を有効回答扱い)	71
31	志望順位	72
32	進学時の入試方式	72
33	受験決定時期	73
34-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無	73
34-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄	73
35	学生生活の充実度	74
36	選び直せるとしたときの進学志望	74
第3部 参加校の意見		75

## 巻頭言

本冊子は、平成 22（2010）年度に短期大学基準協会調査研究委員会が、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」（JCIRP）の研究開発に協力して実施した「短期大学学生調査 2010 年（JJCSS2010）」の、全体集計結果であり、本調査の報告書です。JCIRP の開発してきた四年制大学を対象とした学生調査には、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所（HERI）が行ってきた調査をもとに日本版として開発された、新入生を対象とした JFS と、高学年を対象とした JCSS とがあります。JJCSS は、この内の JCSS を、学習効果測定法に主眼をおきつつ、短期大学に適合するものとして開発したもので、平成 20（2008）年度以来第 3 回目の実施となりました。

調査の実施に当たっては、予算枠等から算定して調査件数 10,000 件を上限とし、平成 22 年 10 月 19 日に本調査の概要を説明した文書及び調査票の見本を全会員校に送付し、参加を募りました。その結果、上限を超える申し込みがあり、調整によって 24 校を実施校とし、11 月 19 日に調査票の発送を、12 月末に同票の回収（うち途中辞退が 1 校）をいたしました。その後、データ入力作業等の整理を行い、平成 23 年 3 月に短期大学ごとの集計結果を参加短期大学にご提供いたしました。さらに、得られたデータ全体を用いての分析が、山田教授のもとに JCIRP 内に組織された「短期大学学生調査チーム」により進められ、9 月には全体集計結果を中間報告として参加各校にお送りし、個別のデータとの比較等に活用していただくとともに、アンケートをお願いして本調査に関するご意見を伺いました。

この調査では、参加した個々の短期大学は、自校のデータを得るほか、それと全体集計結果や山田教授の研究チームメンバーによる全体データを用いた学術研究（本協会ウェブサイトで提供予定）とを付き合わせることで吟味された項目によって、精度の高い自己評価資料が得られることから認証評価への対応に役立つでしょう。また、標準化された調査に参加することによって国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となり、さらにはマーケティングへの利用などのメリットがあると考えられます。また、全体結果自体は、短期大学の実績を社会に示すことになると考えられます。

調査研究委員会では今回の結果を踏まえ、改良版の「短期大学学生調査 2011 年」を実施することとしています。また、2011 年度からはすべての会員校からの参加のご希望に応え、各校における毎年の継続実施を可能とする体制を構築したいと考えております。

本調査にご協力いただきました関係各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用され、本調査が発展して日本の高等教育の展開に資するようになることを願ってやみません。

平成 23 年 10 月  
調査研究委員会委員長  
館 昭

## まえがき

山田礼子（調査研究委員会委員／同志社大学）

私ども JCIRP(Japanese Cooperative Institutional Research Program)研究グループは財団法人短期大学基準協会のご協力と支援を得て、日本版短期大学学生調査(JJCSS=Japanese Junior College Student Survey)を開発し、2008年の12月に初めての調査を実施して以来、毎年調査を実施し、本年度予定している調査を含めると4度目の調査になる。

本報告書は、2010年の調査結果についてまとめたものであり、各質問項目をそれぞれグラフ(第1部)と資料の表(第2部)で提示することにより、調査への参加者のプロフィールや回答傾向がわかりやすいように示している。また、2009年から、中間報告時点で参加大学からの調査や調査結果に対するアンケートによるフィードバックをいただき、その結果を最終報告書に反映するような工夫を行っている。

調査は2010年11月下旬から12月下旬の1ヶ月間で実施され、参加短期大学は、23校、参加人数は7369名であった。

回答者の専攻分野別内訳は、教育が最も多く37.8%、続いて、栄養が20.3%、人文が16.5%である。以下経営6.4%、看護5.0%、家政4.5%、その他1.9%、芸術1.7%、比率が低いため数値は省略するが、農工、保健衛生の順番になっている。本調査の看護を保健に、経営と福祉を社会に、栄養を家政に含めると2010年度の学校基本調査のデータとそれほど大きな隔たりはないと思われる。

なお、本報告書の「第2部 集計一覧」では、質問項目〔20〕及び〔30〕の「わからない」が欠損値として扱われた場合(〔20〕:頁60、〔30〕:頁70)と有効回答扱いの場合(〔20〕:頁61、〔30〕:頁71)の2つがそれぞれ表として掲載されている。日本版短期大学生調査が後述するようにアメリカ版の学生調査と互換性を保つために、できるだけ同じ内容の質問項目については回答に関する選択肢も同じように設定した。しかし、日本人短期大学生は、「わからない」を選択する比率が米国人学生と比べるとかなり高かったために、あえて、2つのパターンを表を作成した次第である。この点は、今後の質問項目の改善課題としたい。各短大は、必要に応じて、それぞれの表を参照していただければ幸いである。

短期大学学生調査(JJCSS)は、これまでにJCIRP研究グループが実施してきた大学生調査(JCSS=Japanese College Student Survey)と新入生調査(JFS=Japanese Freshman Survey)の知見をベースに開発した調査である。短期大学は四年制大学と比較すると2年間という短い課程のなかでの学生の成長を検証していくことが必要となる。しかし、逆に2年間という教育課程であるがゆえに、教育目標を設定することにより、カリキュラムの改革に着手しやすい。それゆえ、四年制大学以上に間接調査としての学生調査結果を教員が共有し、教育方法やカリキュラム改革に結果を利用することが可能であると期待できる。

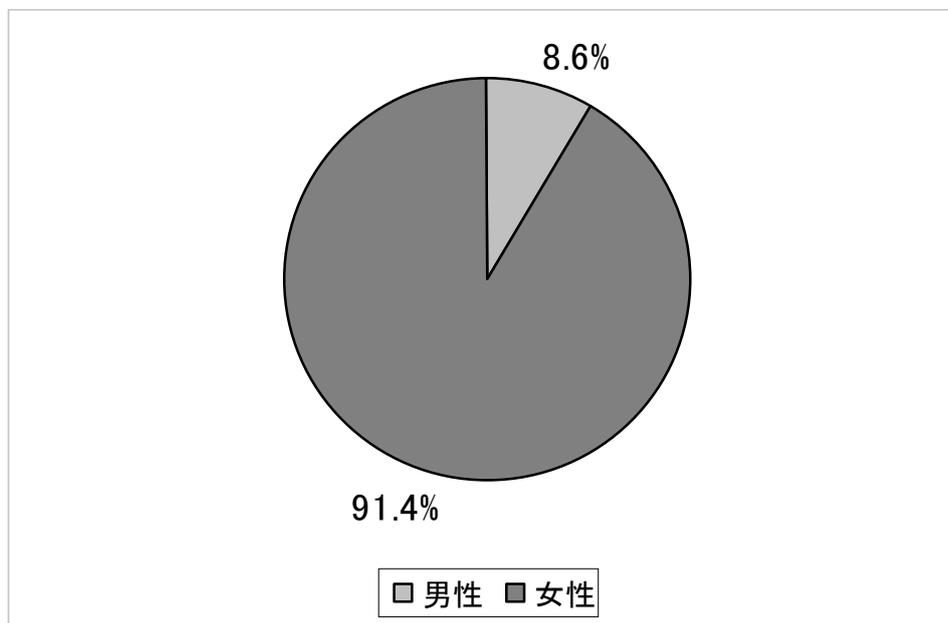
それでは、私どもが開発した間接評価としての学生調査全体のプログラムを紹介し、短期大学学生調査の開発とその意義について述べておきたい。Japanese Cooperative Institutional Research Program(JCIRP)(大学生調査研究プログラム)は新入生調査(JFS)、大学生調査(JCSS)と短期大学学生調査(JJCSS)の 3 つの学生調査からなるプログラムである。JFS と JCSS は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所(UCLA-HERI)の許諾を得て、HERI が行ってきた CIRP Freshman Survey と College Student Survey(CSS)をもとに日本用の独自項目を加えて開発されている。JJCSS は JCSS などを参照しながら、日本で短期大学用に独自に開発した調査である。それぞれの調査票は、学生の入学以前の背景、大学や短期大学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学・短期大学の学生の全体像が把握できるようになっている。JCIRP プログラムに参加した場合、参加大学・短期大学の個別調査データを返却することにより、参加機関にとっては、当該大学・短期大学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学を含む全体の学生の統計データとの比較が可能になる。このことにより、①大学教育改革のために役立つ、②入学志願のマーケティングに役立つ、③ア kredィテーション（認証評価）対策として役立つ、④ベンチマークとして役立つ、⑤国際比較ができる、⑥共同研究に参加できるというようなメリットがある。

調査結果から得られた学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなる。JJCSS 調査の開発に当たっては、四年制大学生調査との違いを把握しながら、質問項目を考察してきた。たとえば、短期大学は 2 年間という短期の教育課程であることから、四年制大学での正規課程外での活動に関わったり、活動時間を長くとることはできない。また、インターンシップに長時間行く時間や異文化間の体験をする期間が、カリキュラムの中で位置づけられる余裕は四年制大学と比べると時間的にも限られている。一方で、資格や職業に直結したカリキュラムが丁寧に構築されているなど、四年制大学とは異なるカリキュラム構造となっている。こうした点を反映するように試みている。

今回 JJCSS に参加された短期大学あるいは今後 JJCSS への参加を企図している短期大学は、是非 JJCSS の分析結果、あるいはデータを利用していただき、より良い短期大学の教育プログラム、学生支援プログラム、そして教員の教育方法の改善など FD にもつなげていただきたいと開発者一同願っている。開発して間もないことから、まだまだ不十分な点が少なくないが、より多くの短期大学の参加と継続して調査をすることを通じて、精緻な分析と短期大学の実態に基づいた調査を開発し、多くの短期大学が利用できるような標準化した調査にしていきたい。

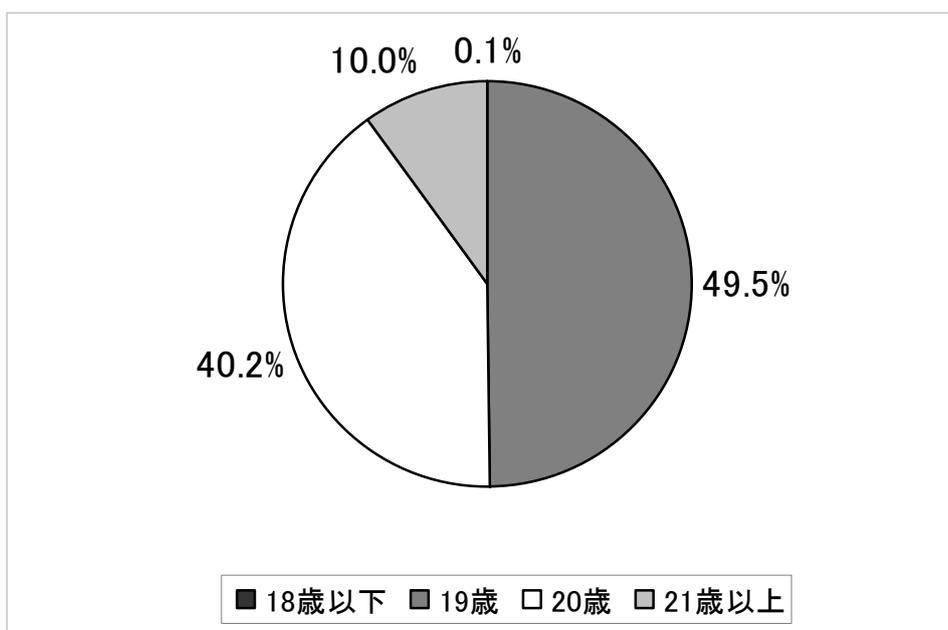
## 第1部 図と文章で示す集計結果

[1] あなたの性別をお答えください。



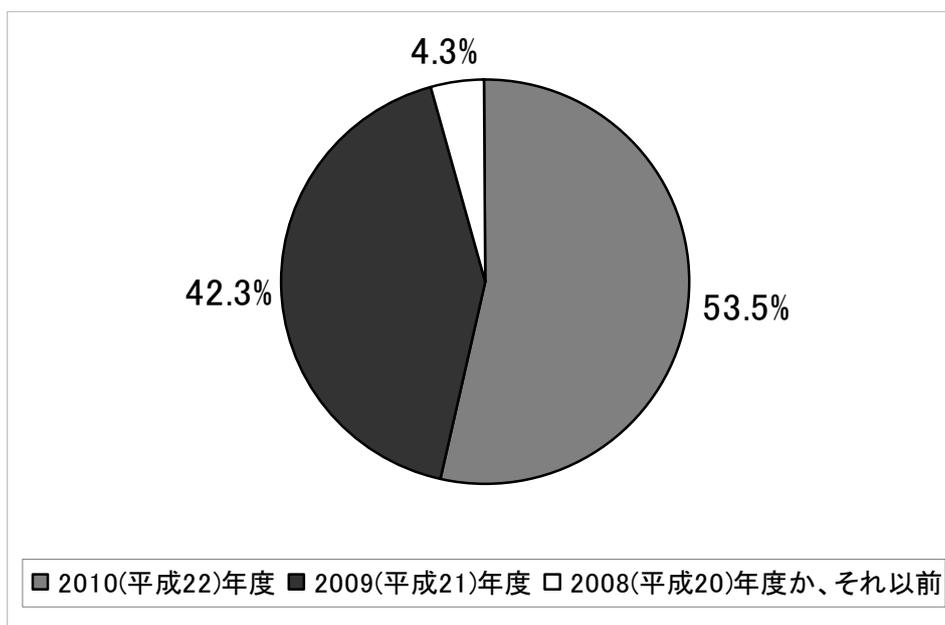
学生のうち、91.4%が女性であり、男性は8.6%である。平成22年度の学校基本調査における短期大学学生数の男女比を見ると、女性がおおよそ88%となっており、本調査とほぼ同様の傾向にあるといえる。

[2] 今年度（2010年4月～2011年3月）、あなたは何歳になりますか。



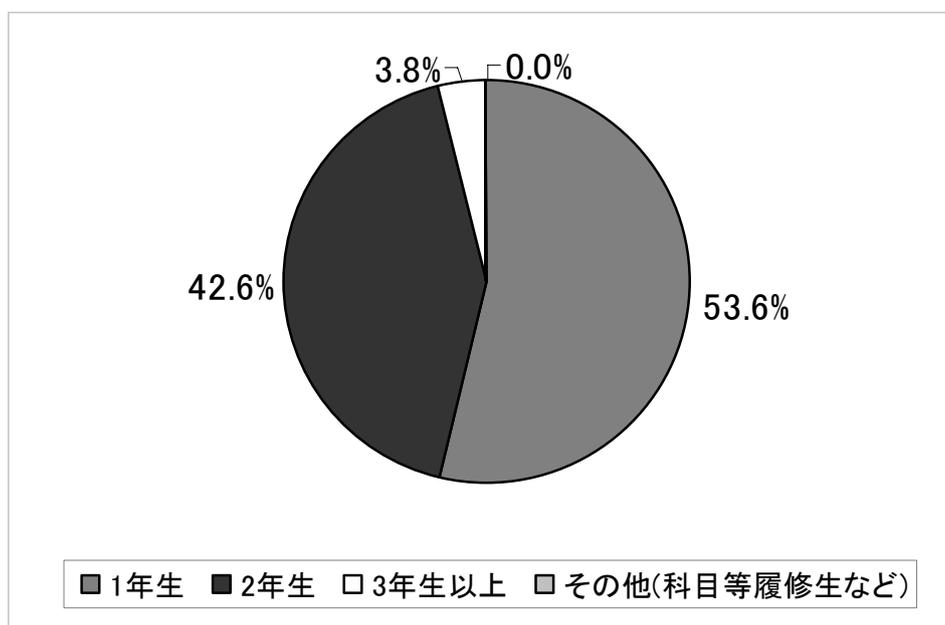
学生の年齢は、19歳と20歳に集中している。

[3] あなたは本学に何年度に入学しましたか。



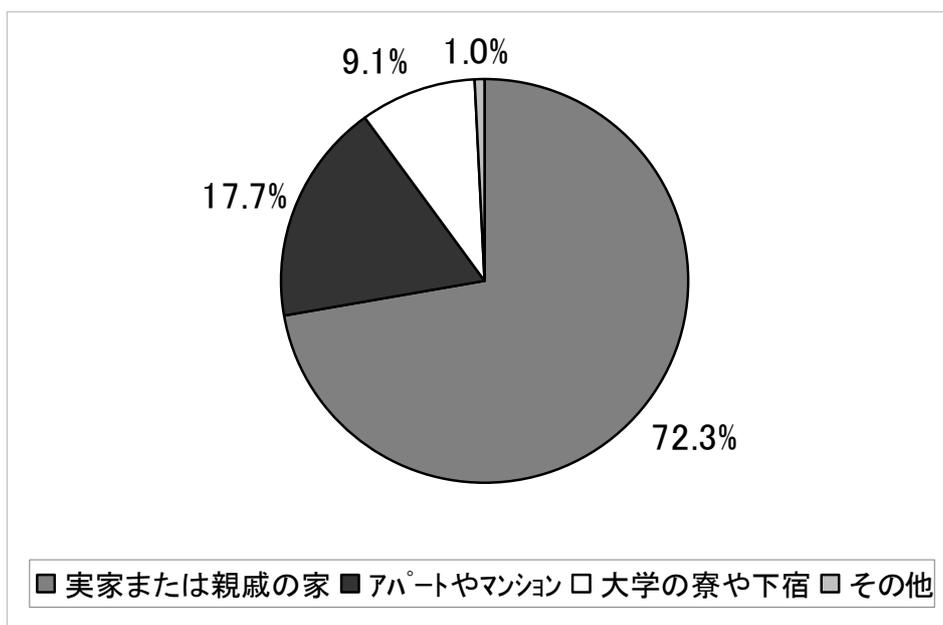
2010年度入学者が53.5%、2009年度入学者が42.3%となっている。2008年度以前入学者も4.3%いる。

[4] あなたの現在の在学状況を教えてください。



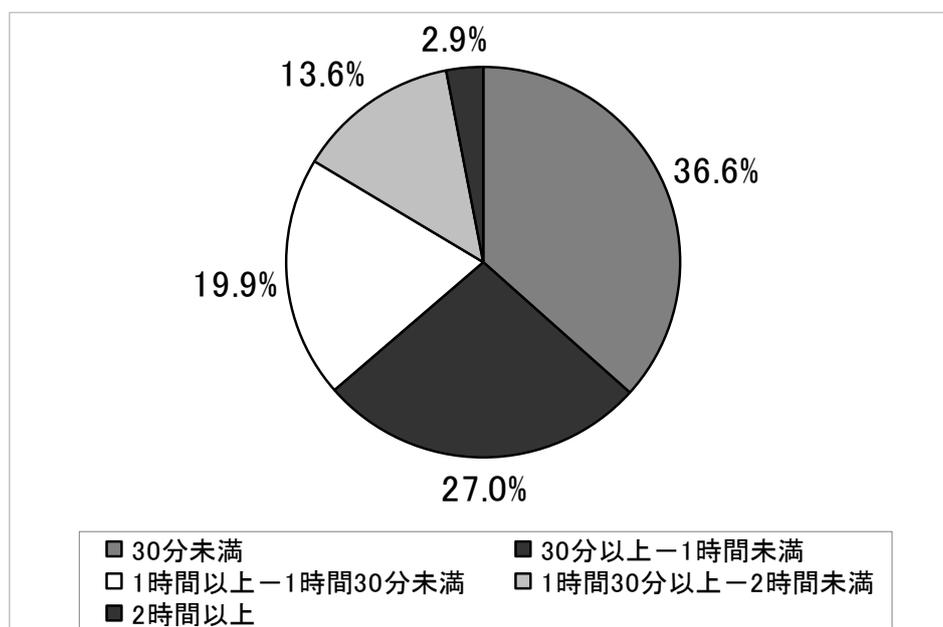
多くの学生が正規学生であり、その他に該当する科目等履修生などの学生はほとんどいなかった。

〔5〕 あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。



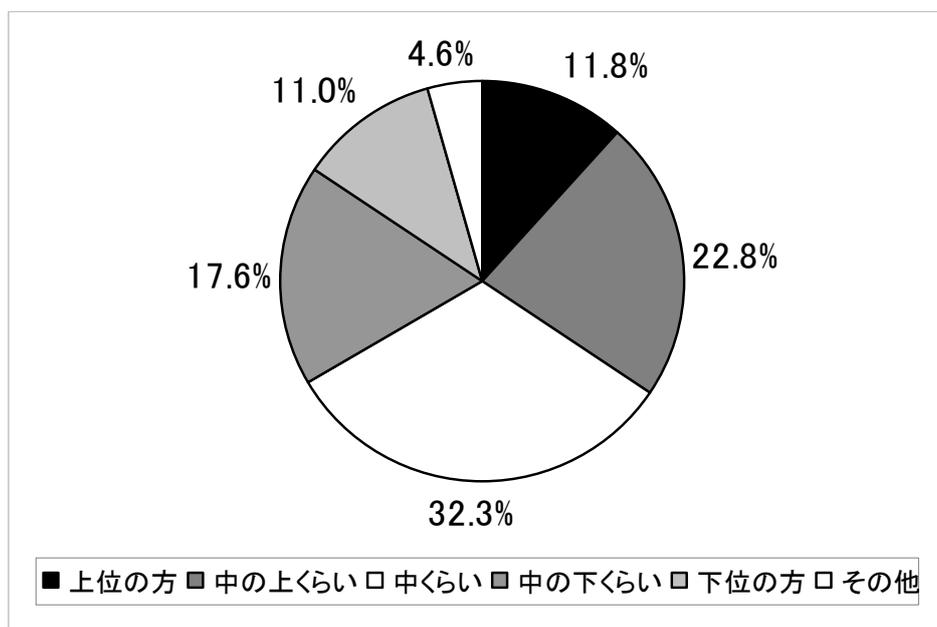
学生の多くが、家族または親戚と暮らしている。アパートやマンション、大学の寮や下宿といった形態で、家族の元から離れて生活しているものも 26.8%いる。

〔6〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



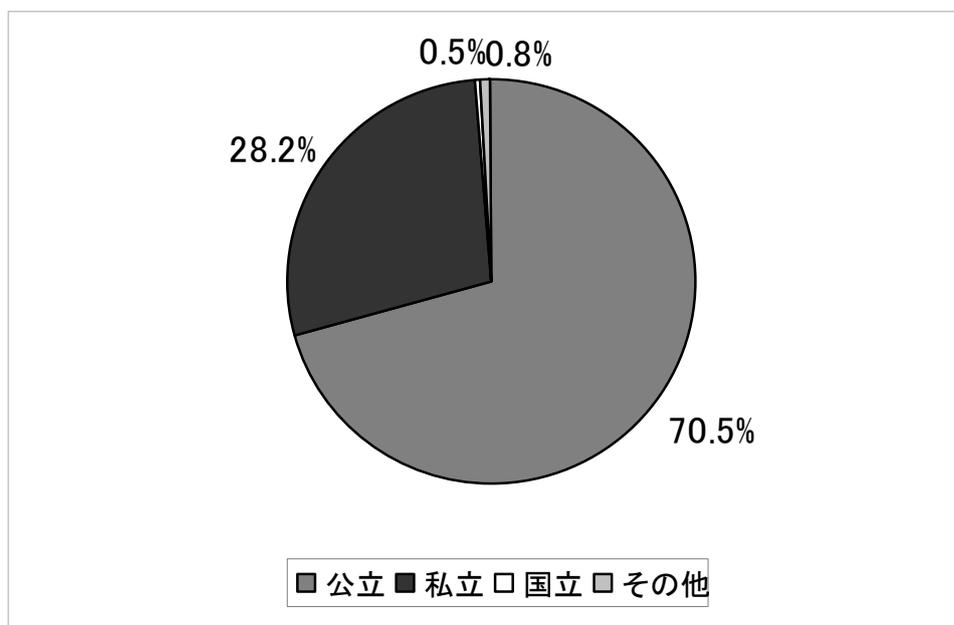
通学時間の分布を見ると、1時間未満の学生が 63.6%となっている。1時間以上かけて通学する学生も 36.4%おり、これは、実家または親戚の家から通う学生が多いことが影響していると予測できる。

[7] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



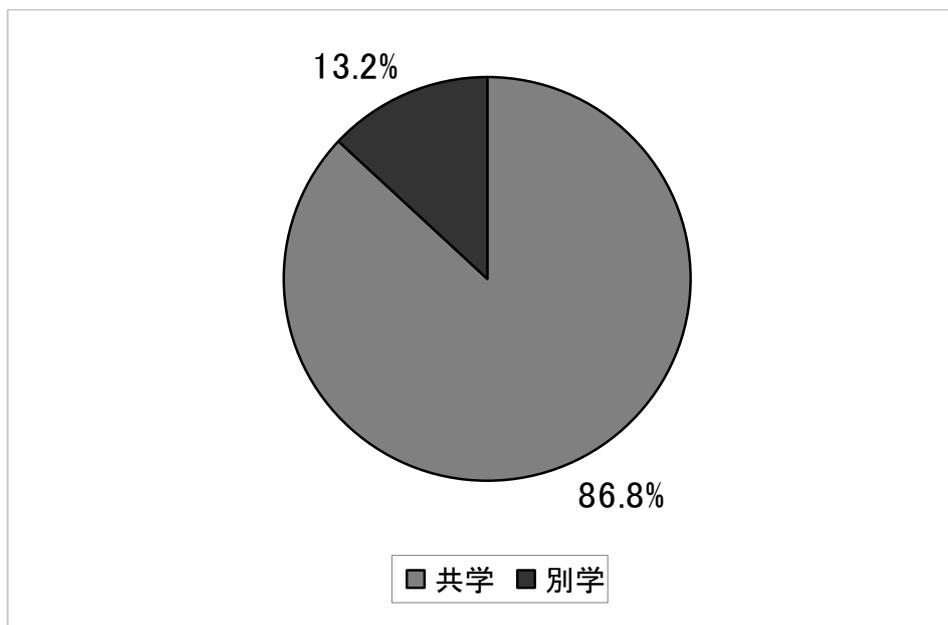
中くらいと回答した者が最も多く 32.3%いる。上位の方と中の上くらいを合わせると 34.6%、中の下くらいと下位の方を合わせると 28.6%となり、やや高校での成績が上位の学生が多くなっている。

[8(1)] あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。



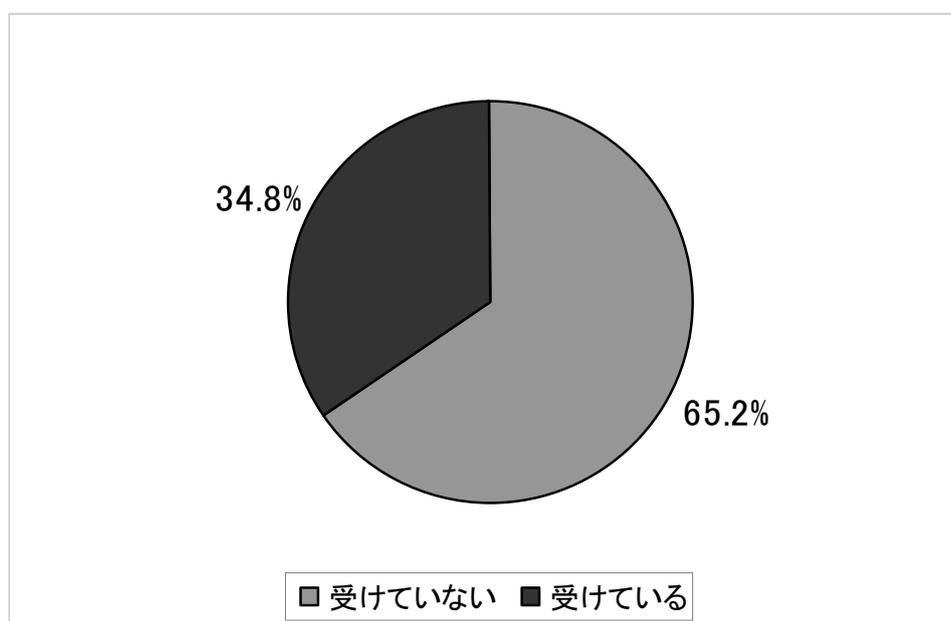
学生の多くは、公立高校の出身である。

[8(2)] あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

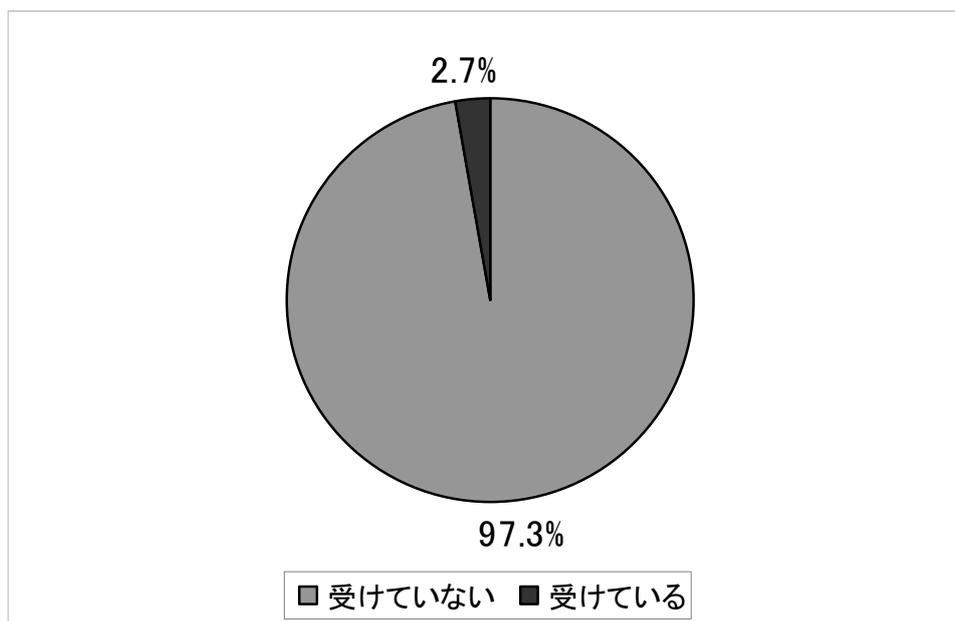


学生の多くは、男女共学の高校を卒業している。

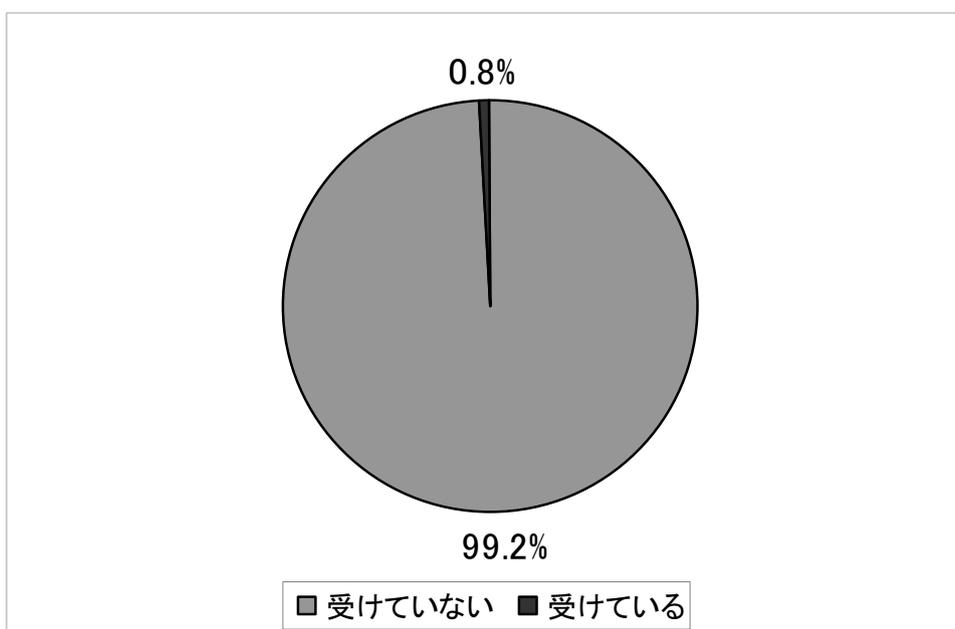
[9-1] あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（日本学生支援機構の奨学金）。



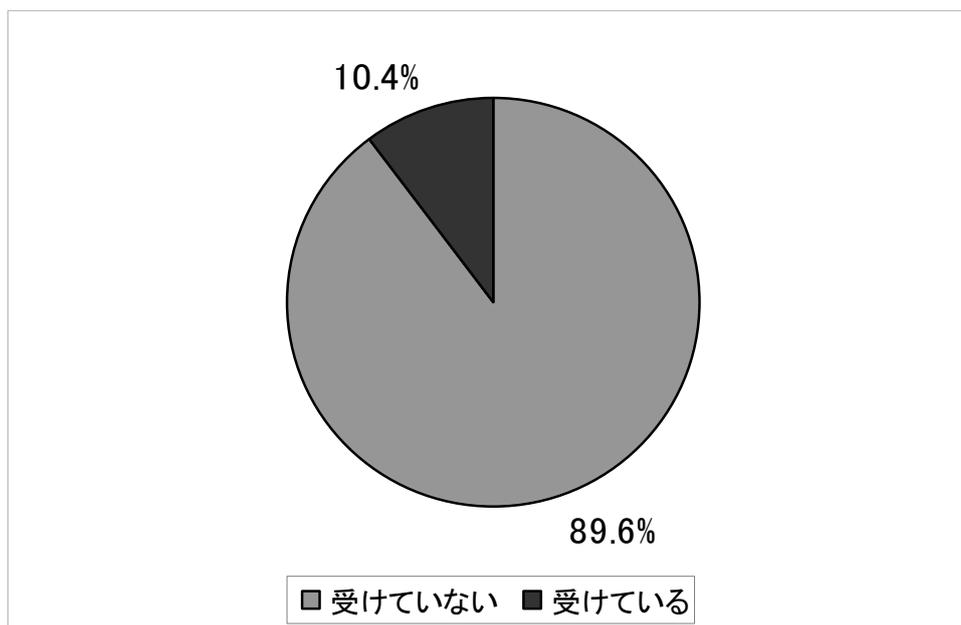
〔9-2〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（地方自治体の奨学金）。



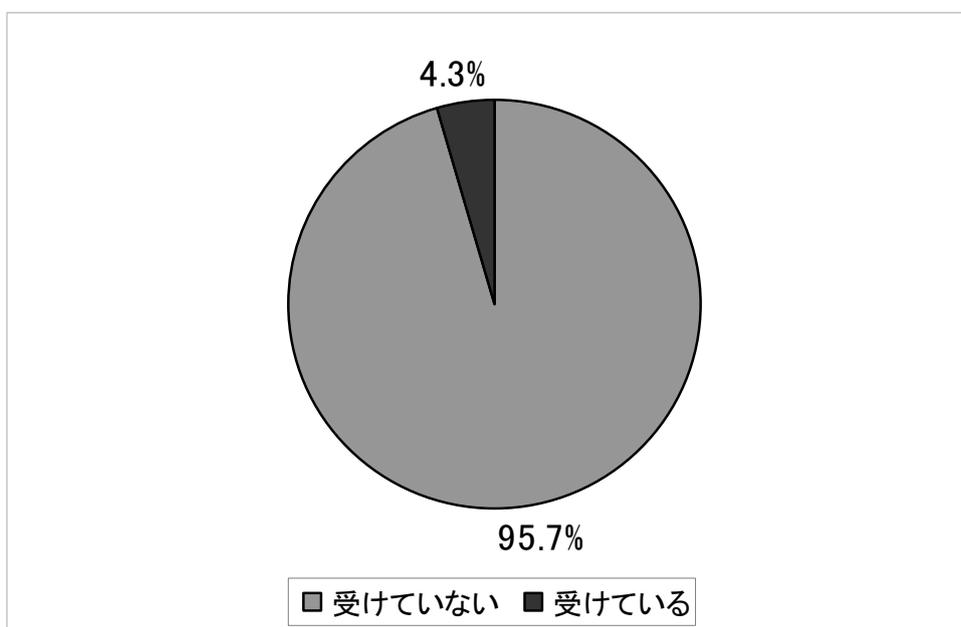
〔9-3〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（民間団体の奨学金）。



〔9-4〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（短大の奨学金や授業料免除）。

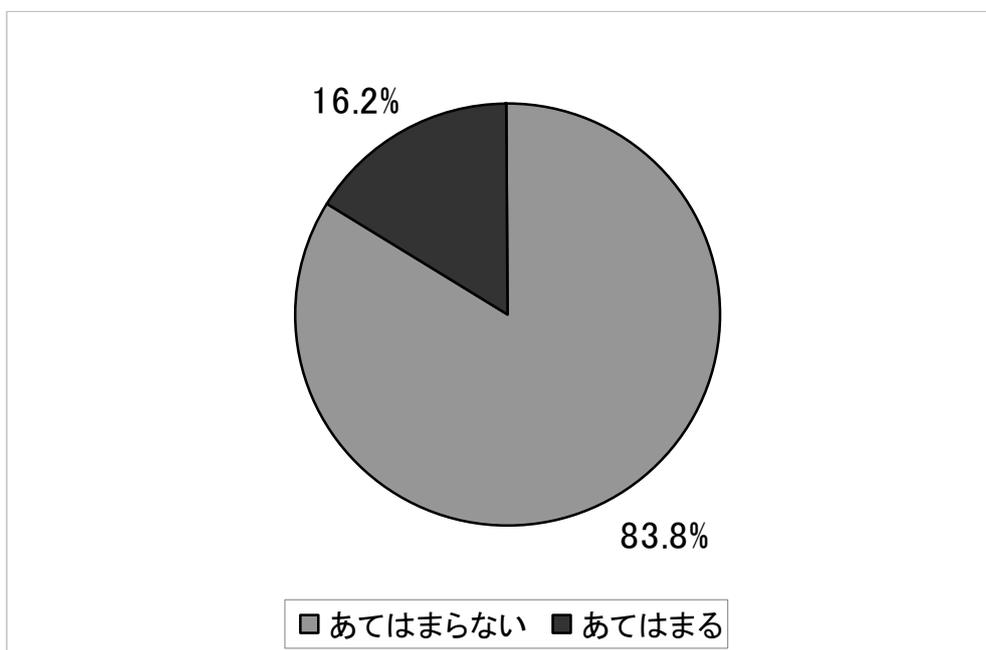


〔9-5〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（その他の経済的援助）。

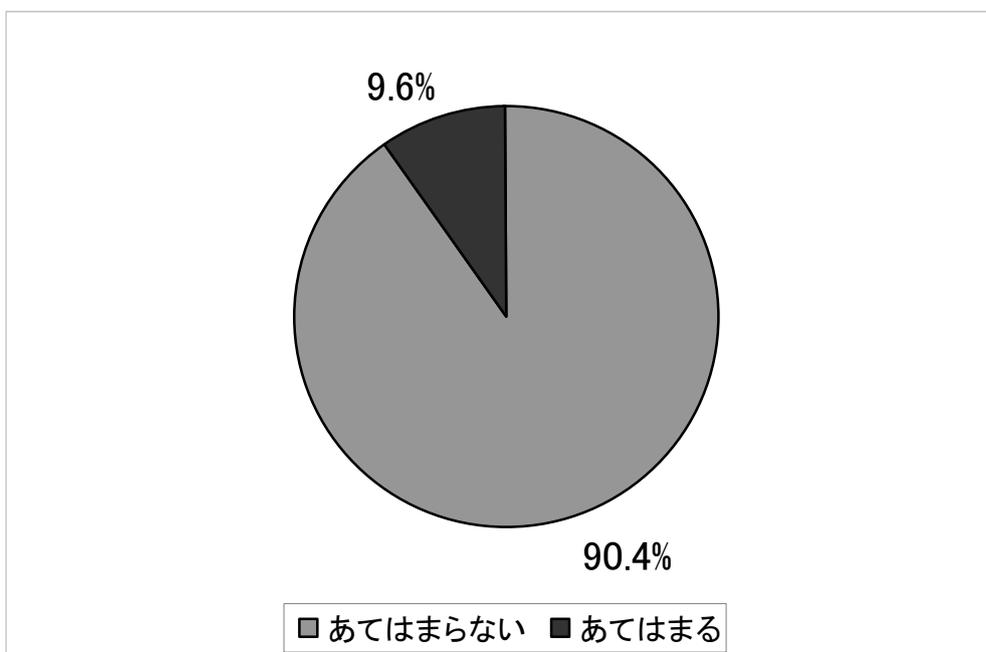


〔9-1~5〕は奨学金などの経済的援助に関する問いである。日本学生支援機構の奨学金の利用が最も多く、34.8%の学生が援助を受けていた。次いで、短大の奨学金や授業料免除の10.4%であった。それ以外の経済的援助は、いずれもあまり利用されていなかった。

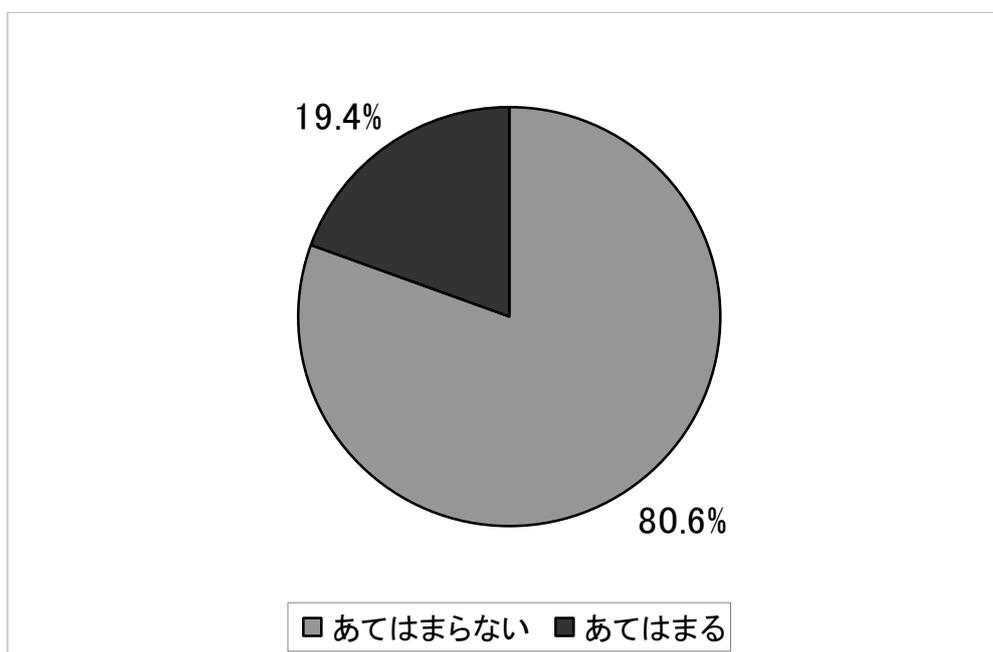
〔10-1〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（単位を取得できなかった授業があった）。



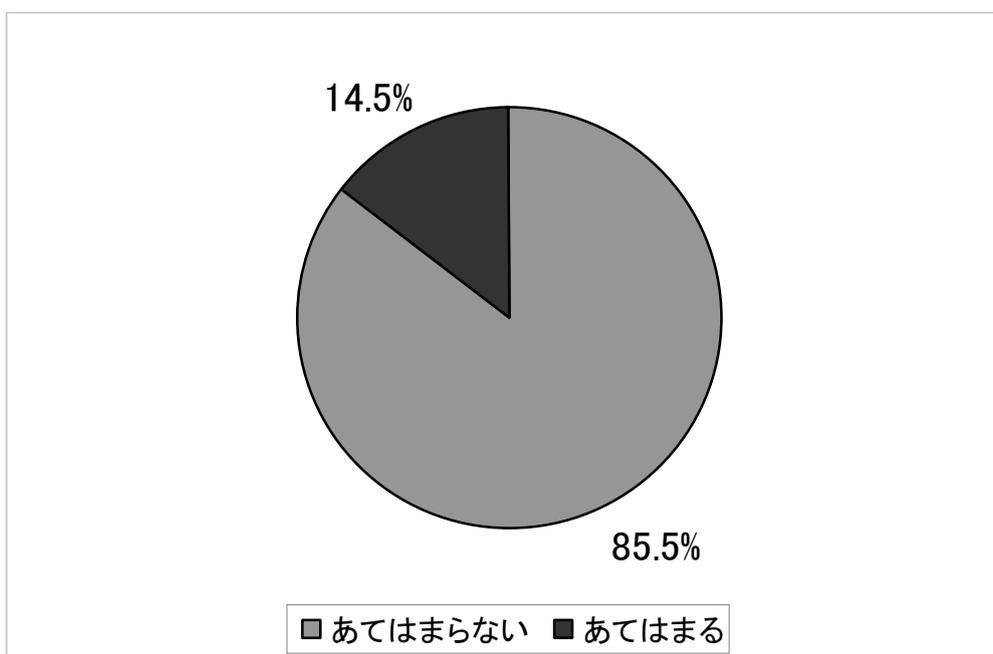
〔10-2〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（学力不足を補うため補習授業を履修した）。



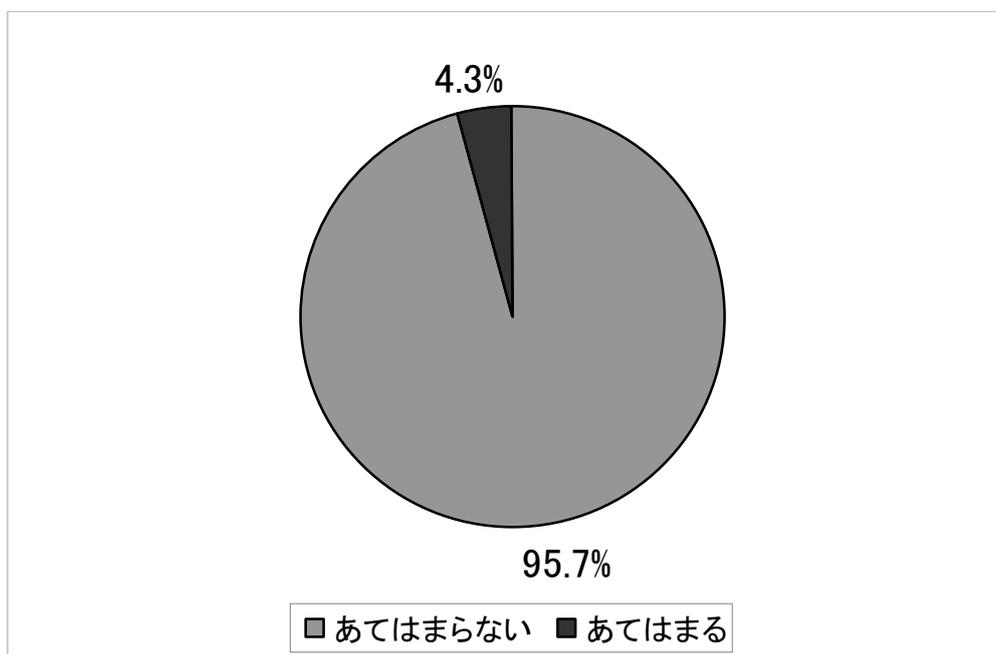
〔10-3〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（人権や民族に関する授業を履修した）。



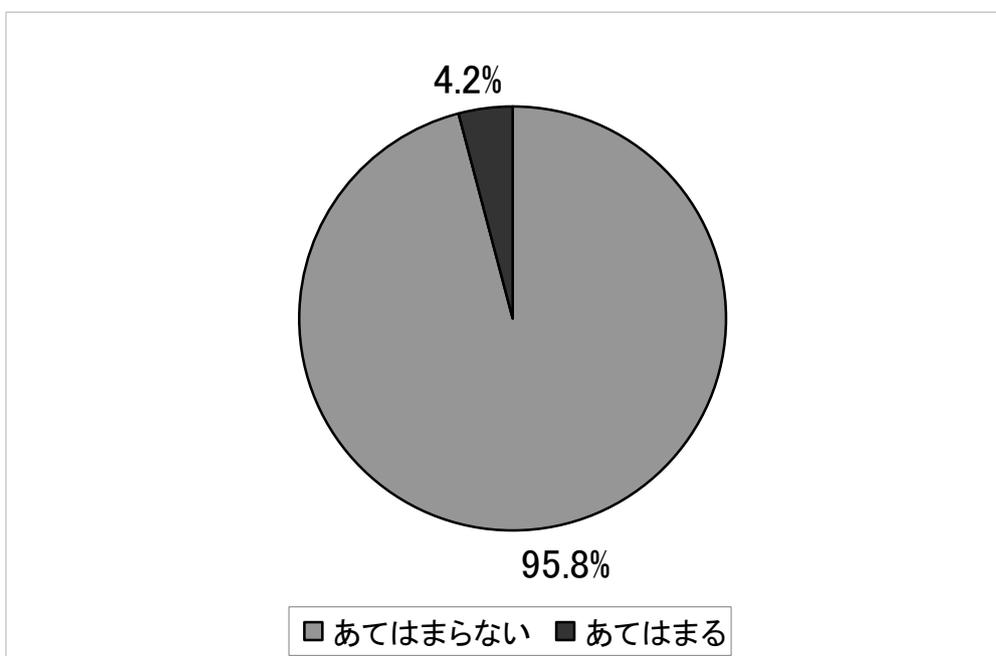
〔10-4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（女性学の授業を履修した）。



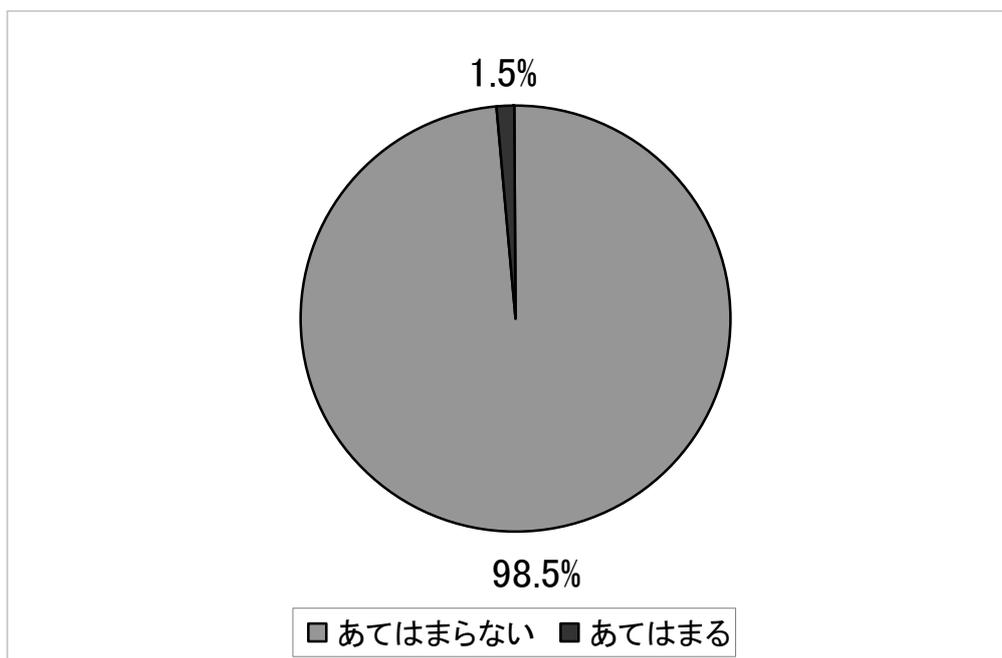
〔10-5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した）。



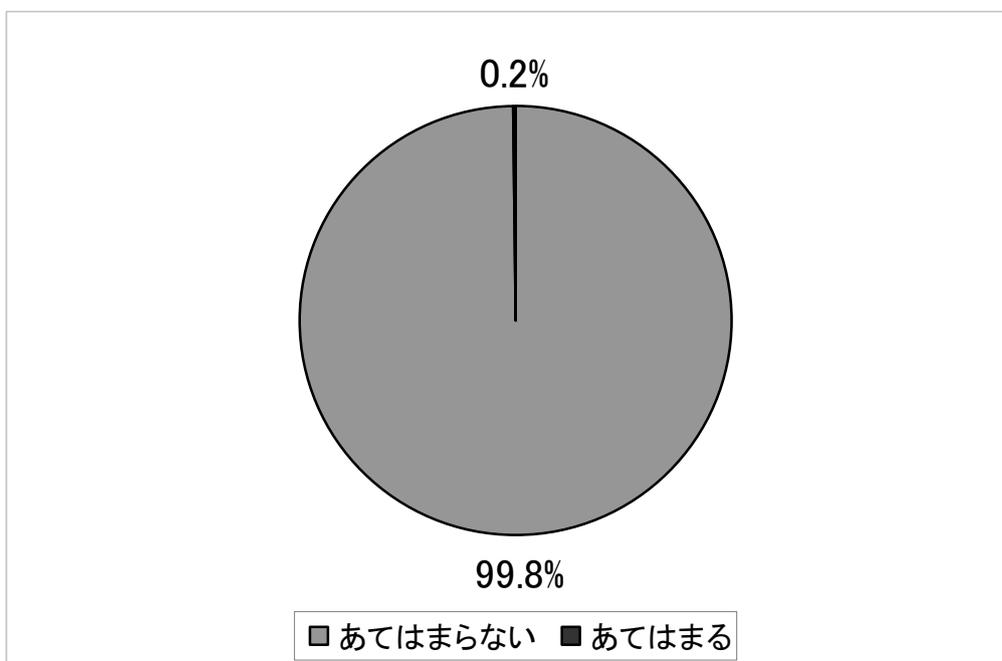
〔10-6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（海外研修プログラムに参加した）。



〔10-7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した）。



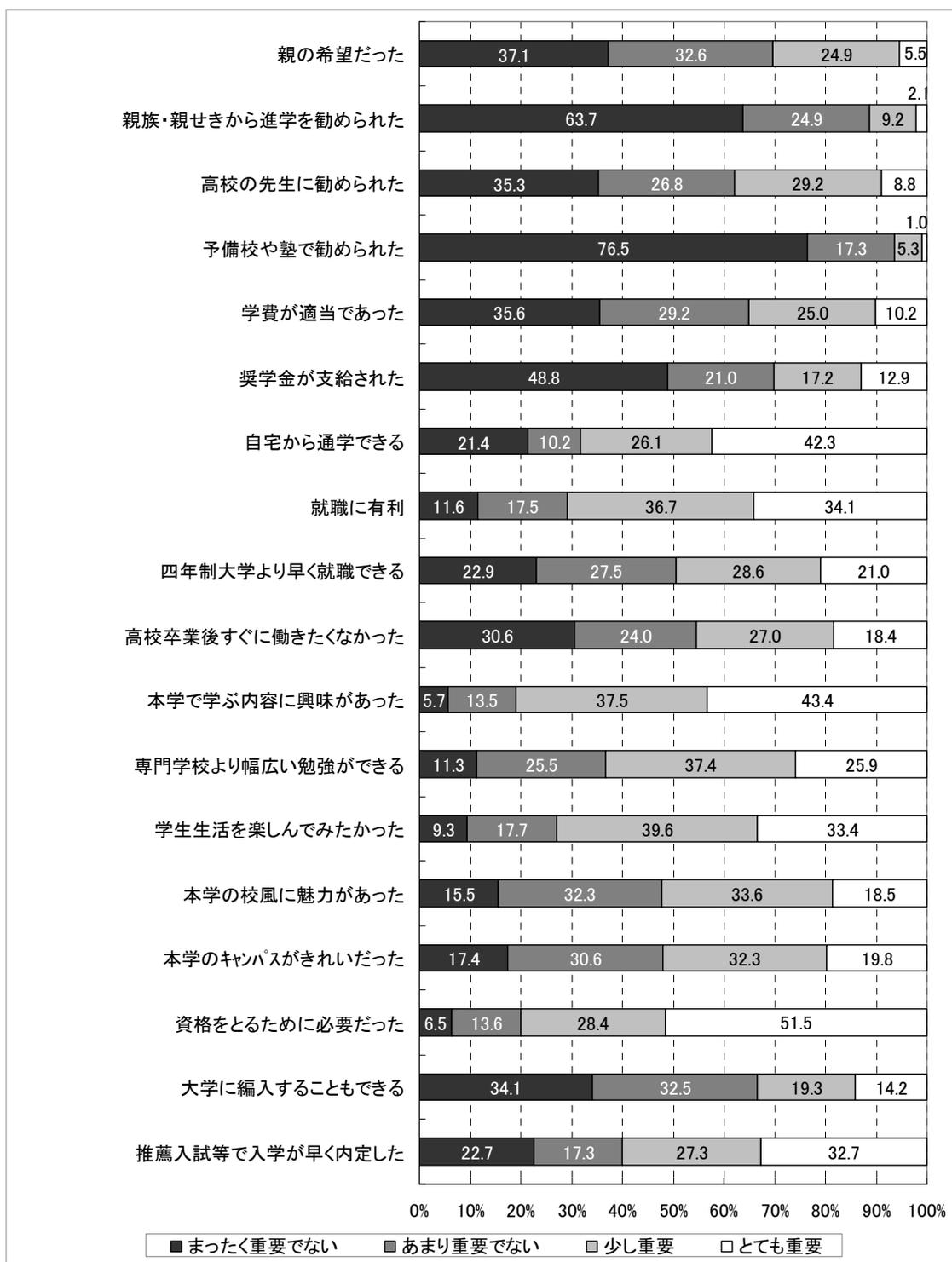
〔10-8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などから転学した）。



問 10 は、学生が短大に入学して以降、経験したことのある事柄を質問している。単位を

取得できなかった授業があったと回答した学生は 16.2%おり、補習授業を履修した学生は 9.6%であった。人権や民族に関する授業を履修した学生は 19.4%、女性学の授業を履修した学生は 14.5%となっていたが、リーダー養成やキャリア開発の訓練は 4.3%、海外研修プログラムへの参加は 4.2%と低いパーセンテージにとどまっていた。他大学の科目履修の卒業履修単位への算入や、他の大学や短大、高等専門学校などからの転学は、ほとんどの学生が経験していなかった。

〔11〕 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。



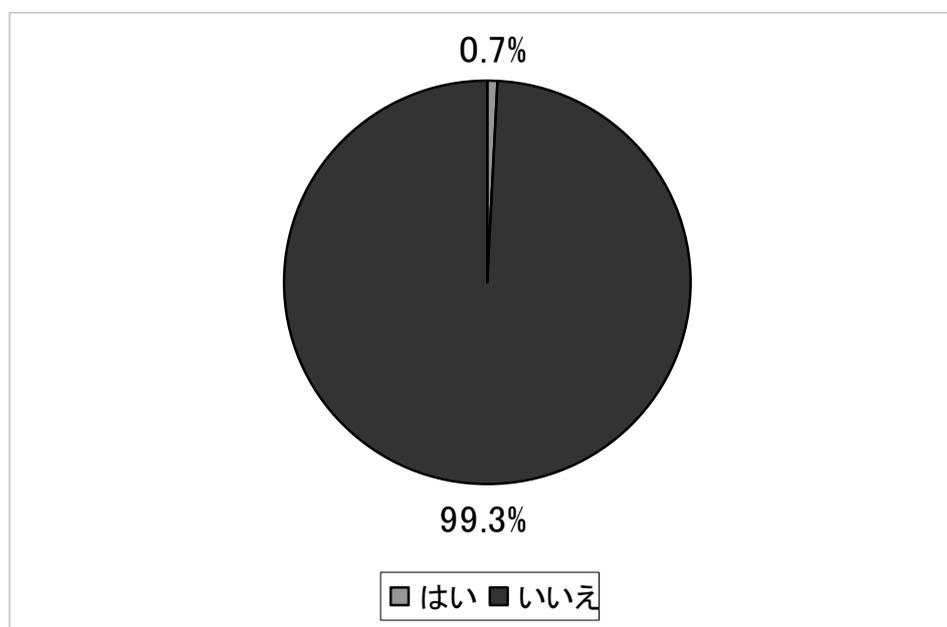
問 11 は、現在通っている短大への進学を決めた理由として、どのような要素が重視されているかを質問したものである。進学を決めた理由として、「少し重要」と「とても重要」を合わせたパーセンテージが、最も多かったものは、「本学で学ぶ内容に興味があった」(80.9%)であった。続いて、「資格をとるために必要だった」(79.9%)、「学生生活を楽し

んでみたかった」(73.0%)、「就職に有利」(70.8%)となっていた。また、「自宅から通学できる」(68.4%)や、「専門学校より幅広い勉強ができる」(63.3%)も高いパーセンテージであった。

「とても重要」のパーセンテージだけを見ると、最も重視されていたのは「資格をとるために必要だった」(51.5%)である。続いて、「本学で学ぶ内容に興味があった」(43.4%)、「自宅から通学できる」(42.3%)となっていた。一方、進学理由として重要視されていないものには、「予備校や塾で勧められた」、「親族・親せきから進学を勧められた」といった、他者からの勧めや希望が挙げられた。ただし、高校の先生の勧めや親の希望は、「少し重要」と「とても重要」のパーセンテージを合わせると、およそ30%程度見られ、一定の影響力があると考えられる。

こうしたことから、短大へ進学した学生は、学生生活を楽してみたいという考えとともに、資格や就職といった卒業後の進路を見据えていると言える。その一方で、短大で学ぶ内容そのものへの興味が最重要視され、さらに専門学校より幅広い勉強ができることを短大に期待している者も多く、資格や就職を重視するとともに、専門学校にはない短大のカリキュラムの充実が望まれているといえるだろう。なお、自宅から通学できることを重視している点については、学生の多くが、実家または親戚の家から通学していることと関連していると推測される。

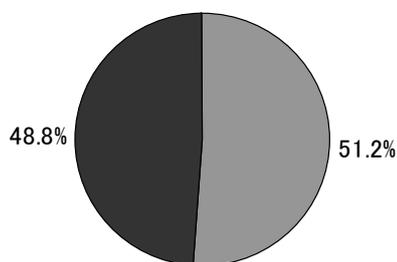
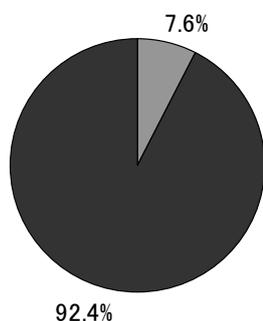
[12] あなたは留学生ですか。(1つだけ選んで○をつけてください)



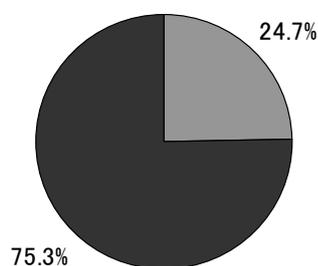
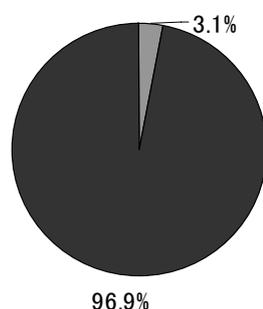
学生のうち、留学生は0.7%であった。

〔13〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

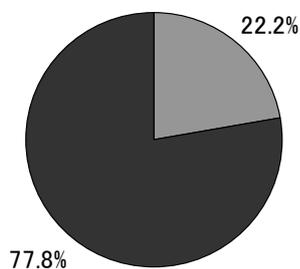
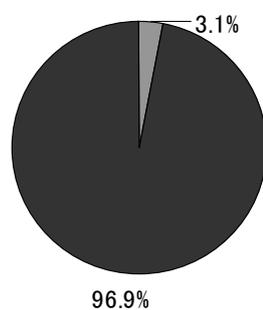
1. 文章表現



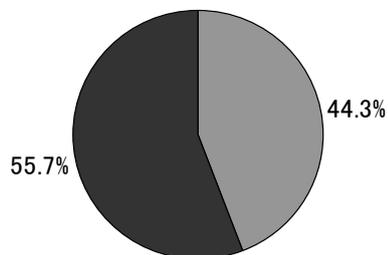
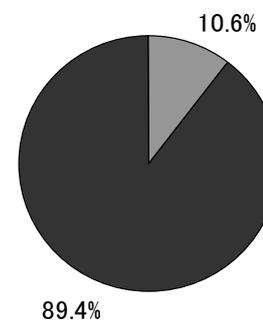
2. 数学



3. 理科



4. 英語

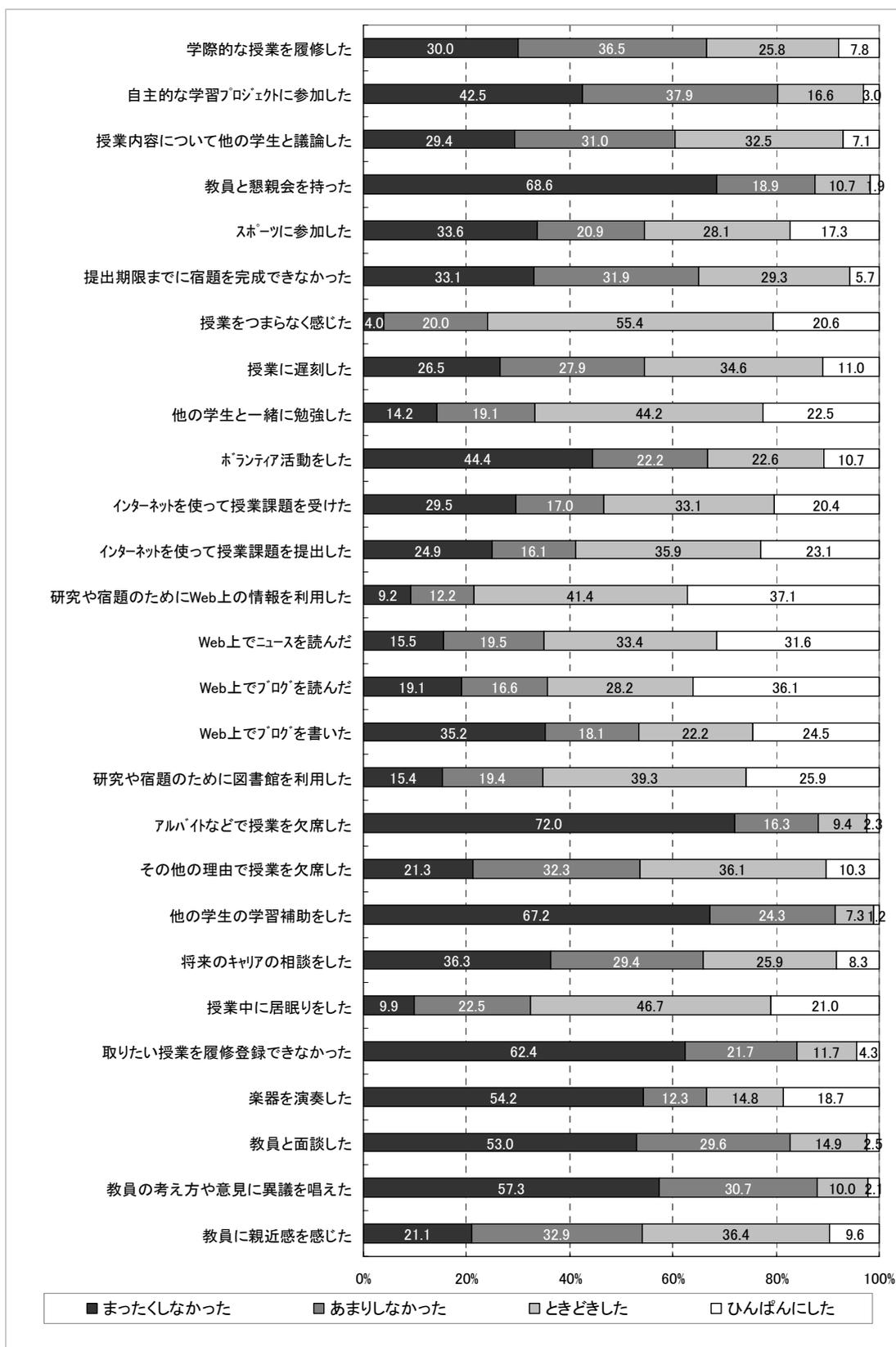


■ 特別な学習支援を受けている  
■ 特別な学習支援は受けていない

■ 特別な学習支援を受けたい  
■ 特別な学習支援を受けたくない

問 13 は、学習支援の現状と、今後そうした支援を希望するかを、科目別に質問したものである。学習支援の現状を見ると、いずれの科目においてもわずかなパーセンテージにとどまっており、英語のみが 10%程度となっている。しかし、今後学習支援を受けたい者の割合は、数学と理科では 20%程度だが、英語では 44.3%、文章表現は 51.2%にのぼっている。これは、学生が基礎的な学力向上の必要性を感じている一方で、短大側の学習支援体制が十分ではないことが推測される。なお、英語と文章表現について、今後学習支援を受けたいと考えている学生の割合は、前年度の本調査と比較しても、およそ 5%増加している。

[14] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。



問 14 は、授業に関する事項、教員との関係、インターネットの利用、課外活動の 4 つに

分類することができるだろう。授業に関する事項の中で、最も大きな問題とみられるものは、「授業をつまらなく感じた」である。「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせると 76.0%に及んでおり、多くの学生が授業に対して、ある程度の不満をもっていると推測される。これは、「授業中に居眠りをした」(67.7%) や、「授業に遅刻した」(45.6%)、「その他の理由で授業を欠席した」(46.4%) の間にも影響している可能性もあるだろう。

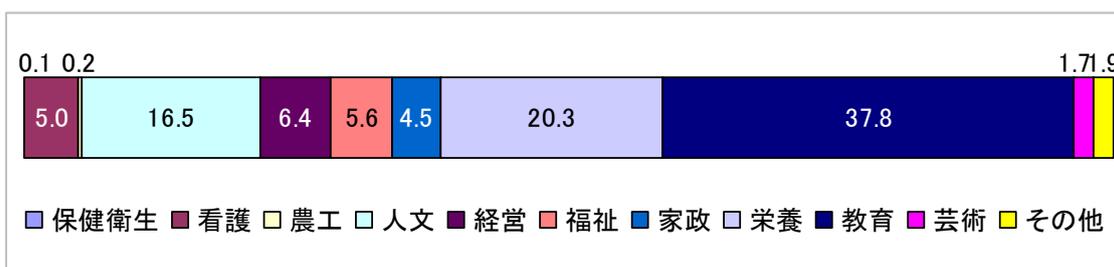
教員との関係については、「教員と懇親会を持った」、「教員と面談した」、「教員の考え方や意見に異議を唱えた」のいずれの問も、「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせても、10%台にとどまっており、教員との十分なコミュニケーションが取れていない可能性が指摘できる。ただし、「教員に親近感を感じた」学生は 46%いることから、懇親会や面談といった機会そのものが少ないと推測されるが、これは学生層の男女差の大きさも影響していると思われる。

インターネットの利用に関する項目は、概ね半数以上の学生が、インターネットを用いた課題の提出や、情報収集を行っていることが示された。ただし、「研究や宿題のために Web 上の情報を利用した」(9.2%) や、「Web 上でニュースを読んだ」(15.5%) のように、まったくウェブを使わなかった学生もみられる。

課外活動については、「自主的な学習プロジェクトに参加した」や「ボランティア活動をした」では、まったくしなかった学生がおよそ 40%となっており、残りの 60%は少なくとも一度は、こうした活動を行っていることが示された。「将来のキャリアの相談をした」は、36.3%がまったくしなかったと回答しているが、進学動機について質問をした問 11 の中で、就職に有利であることを重視した学生が 70.8%いたことを考えれば、妥当な数値であると言えるだろう。

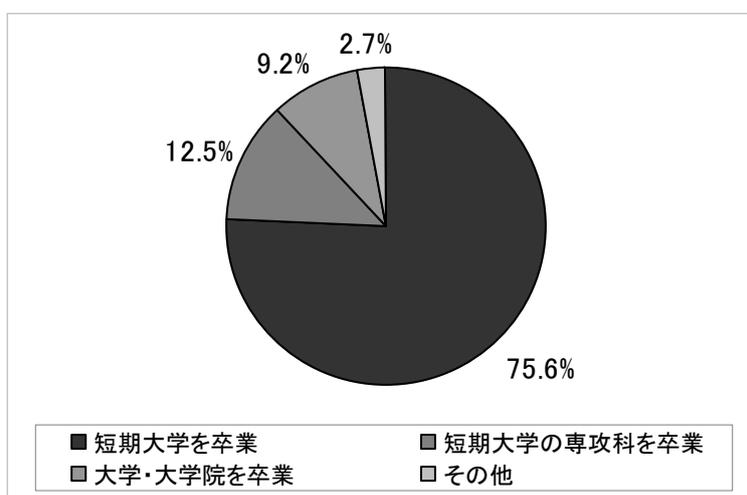
問 14 の重要な問題提起は、授業をつまらなく感じた学生の多さであろう。これは問 11 の中で、進学動機として、80.9%の学生が短大で学ぶ内容に対する興味を重視していることから推測される。また、「取りたい授業を履修登録できなかった」では、まったくしなかった学生が 62.4%にとどまっている。パーセンテージだけを見ると、それほど特異な数字には見えないが、短大生の主な進学理由が資格や就職にあることを考えると、37.6%もの学生が希望する科目を履修できていないことは、学生のキャリアプランや資格取得に影響を与えている可能性があるのではないだろうか。履修人数の制限など、やむを得ない事情もあるが、短大は四年制大学よりも年限が短いため、再び科目を履修できる機会も少ない。そのため、取りたい授業を履修登録ができなかったことによって、希望した資格が取得できなかったことや、希望する職種に関わる科目が履修できなかったなど、将来のキャリアに影響を及ぼす可能性も否定はできないのではないだろうか。

[15] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。



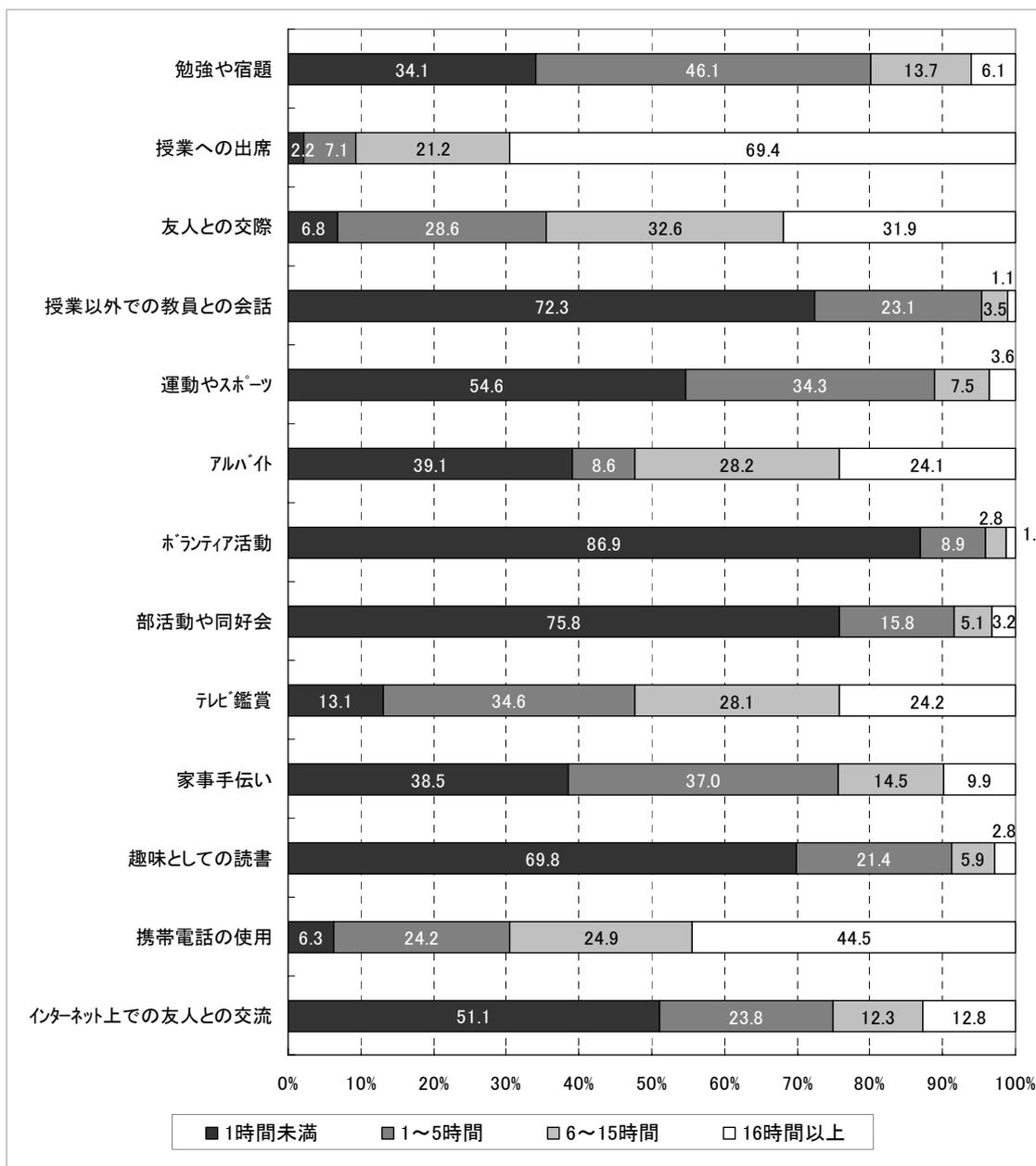
学生の専攻分野は、教育が最も多く 37.8%、続いて、栄養が 20.3%、人文が 16.5%である。以降は、経営、福祉、看護、家政、その他、芸術、農工、保健衛生の順番になっている。

[16] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。



学生の 75.6%が短大の卒業を目標としている。専攻科や大学・大学院の卒業を目指すものは 21.7%にとどまっている。

〔17〕 あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。



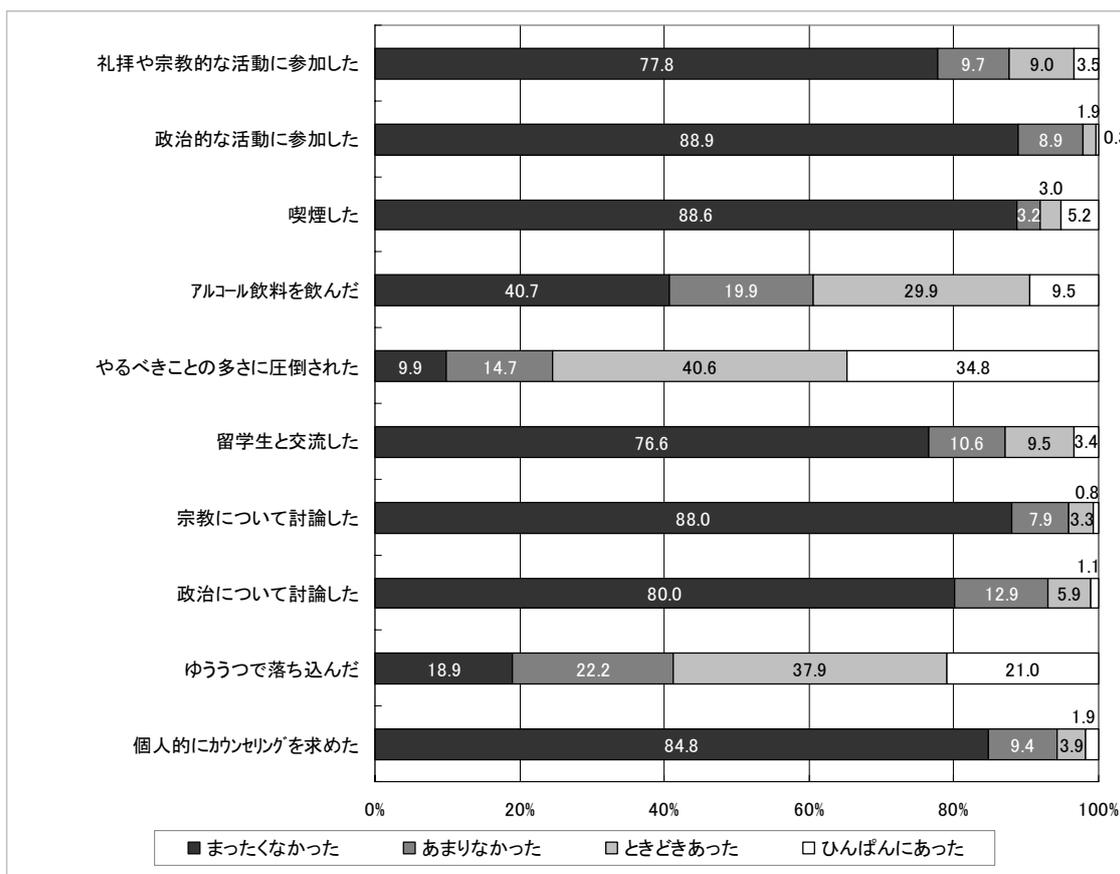
授業関連事項については、「勉強や宿題」に一週間あたり6時間以上費やした学生は、19.8%にとどまっており、これは本来単位を取得するために必要な学習時間が、十分に確保されていないことが推測される。「授業への出席」は、69.4%が16時間以上費やしており、これは問14の授業の参加状況から見ても妥当なパーセンテージであるといえる。「授業以外の教員との会話」についても、同様のことが指摘できるだろう。

授業以外の活動については、「部活動や同好会」、「運動やスポーツ」は少なく、また読書をしない学生も多く見られた。多くの学生が、「友人との交際」や「テレビ鑑賞」に多くの時間を費やしている。「アルバイト」は、一週間に16時間以上働いている学生は24.1%にとどまっていたが、その一方で、一週間あたり少なくとも1時間以上は「家事手伝い」を

している学生が 61.4%いる。これは、実家や親戚の家から通う学生の多さが影響していると考えられる。

「携帯電話の使用」は、44.5%の学生が一週間に 16 時間以上使用している。1 時間未満とほとんど使用しない学生は 6.3%であった。「インターネット上での友人との交流」は、およそ半数が一定の交流を持っており、残りの半数はほとんど交流がないと考えられる。学生のコミュニケーションや情報収集のツールとして、PC よりも携帯電話が主流になっていると推測できる。

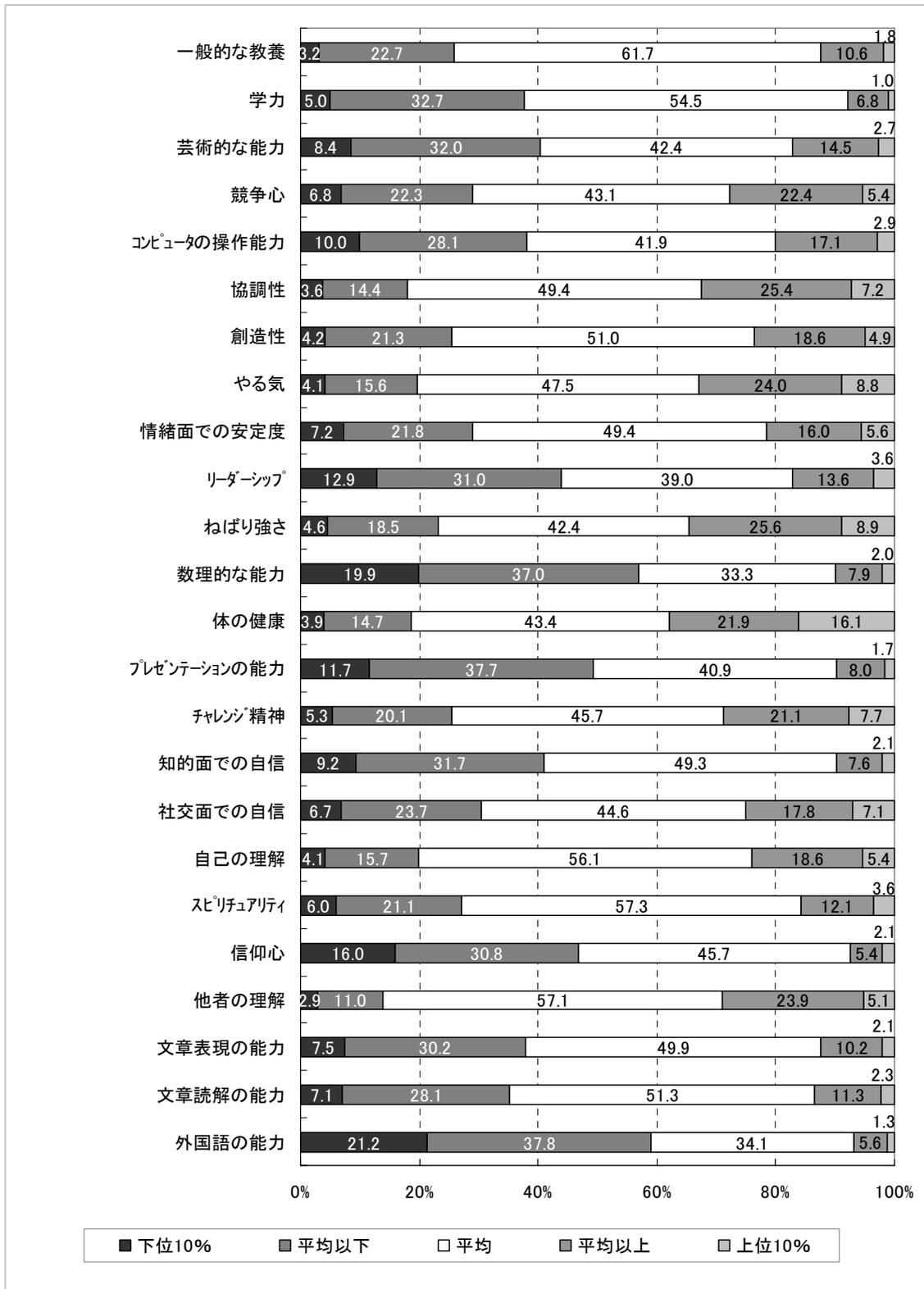
[18] あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。



「礼拝や宗教的な活動に参加した」をはじめ、10項目中7項目の間に対して、「まったくなかった」あるいは「あまりなかった」と回答した学生が80%を超えている。「留学生と交流した」学生も少ないが、本調査の学生にほとんど留学生がいなかったことを考えると、留学生の学生数そのものが少なく、交流機会が基本的に少ない可能性がある。また、宗教や政治といった問題を討論した学生もあまり見られなかった。

その一方で、「やるべきことの多さに圧倒された」と感じた学生は多く、90.1%が一度はこうした体験をしていることが推測される。「ゆううつで落ち込んだ」学生も多くみられるが、「個人的にカウンセリングを求めた」学生のパーセンテージとは相違があることから、重度の落ち込みや不安を感じた学生は限定的であるといえるだろう。

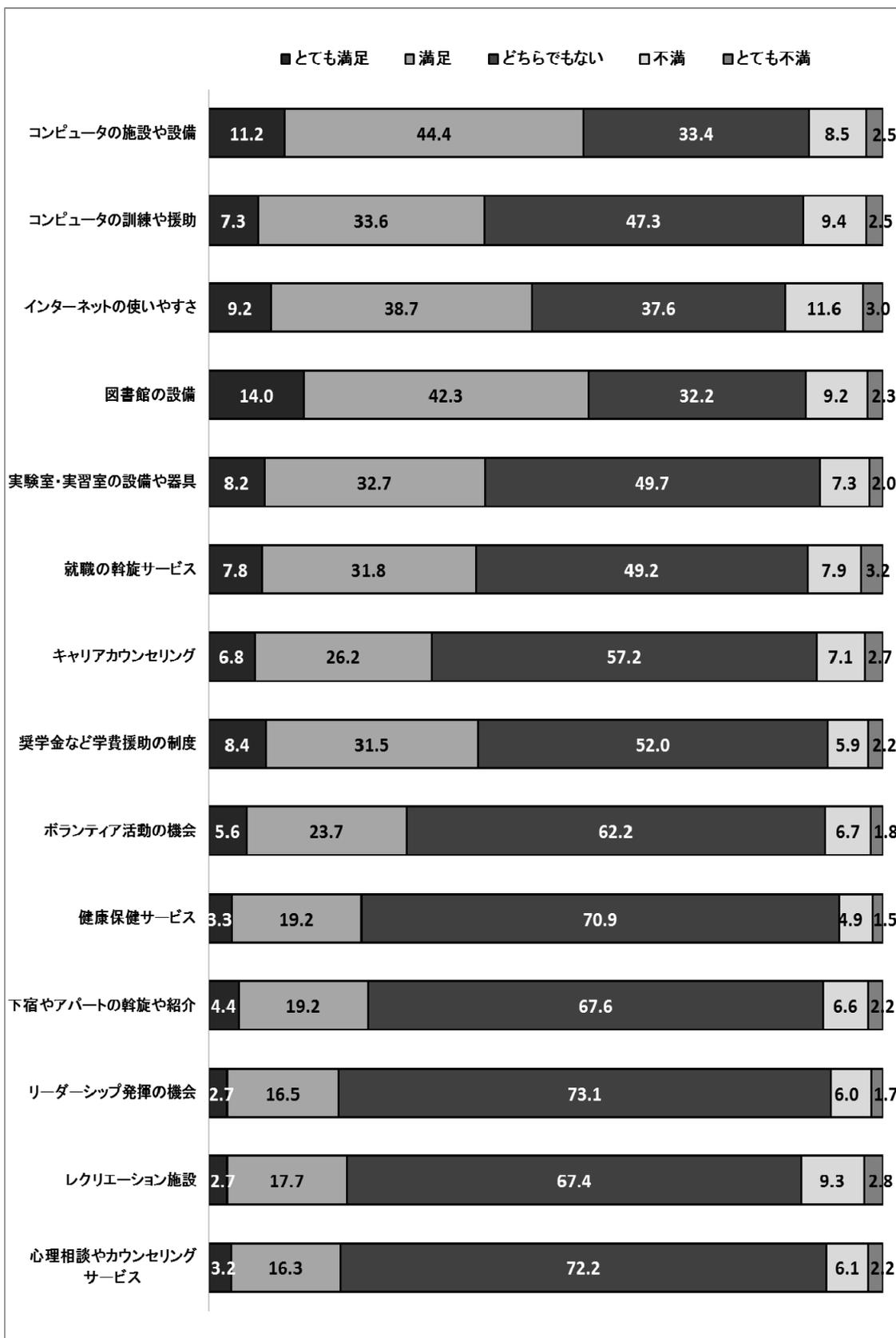
〔19〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。



同年齢の学生と比較して、自己評価が高かった（平均以上、上位10%）問いは、「体の健

康」、「ねばり強さ」、「協調性」、「やる気」、「他者の理解」であった。また、「競争心」や「チャレンジ精神」も、他の問いと比べてやや高い自己評価となっており、精神的・肉体的な充実が推測される。その一方で、自己評価が低かった（平均以下、下位 10%）問いは、「外国語の能力」、「数理的な能力」、「プレゼンテーションの能力」、「信仰心」であった。ほぼ全ての問いにおいて、最も学生が集中したのは平均だが、「外国語の能力」と「数理的な能力」については、平均以下が上回っていた。「学力」や「知的面での自信」も、やや低い傾向にあることから、いわゆる基礎学力の部分に、多くの学生が不安を抱えていると考えられる。「リーダーシップ」は、「学力」に続いて低い傾向にある問いであったが、これは「協調性」や「他者の理解」の自己評価の高さと関連している可能性がある。

[20] あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。



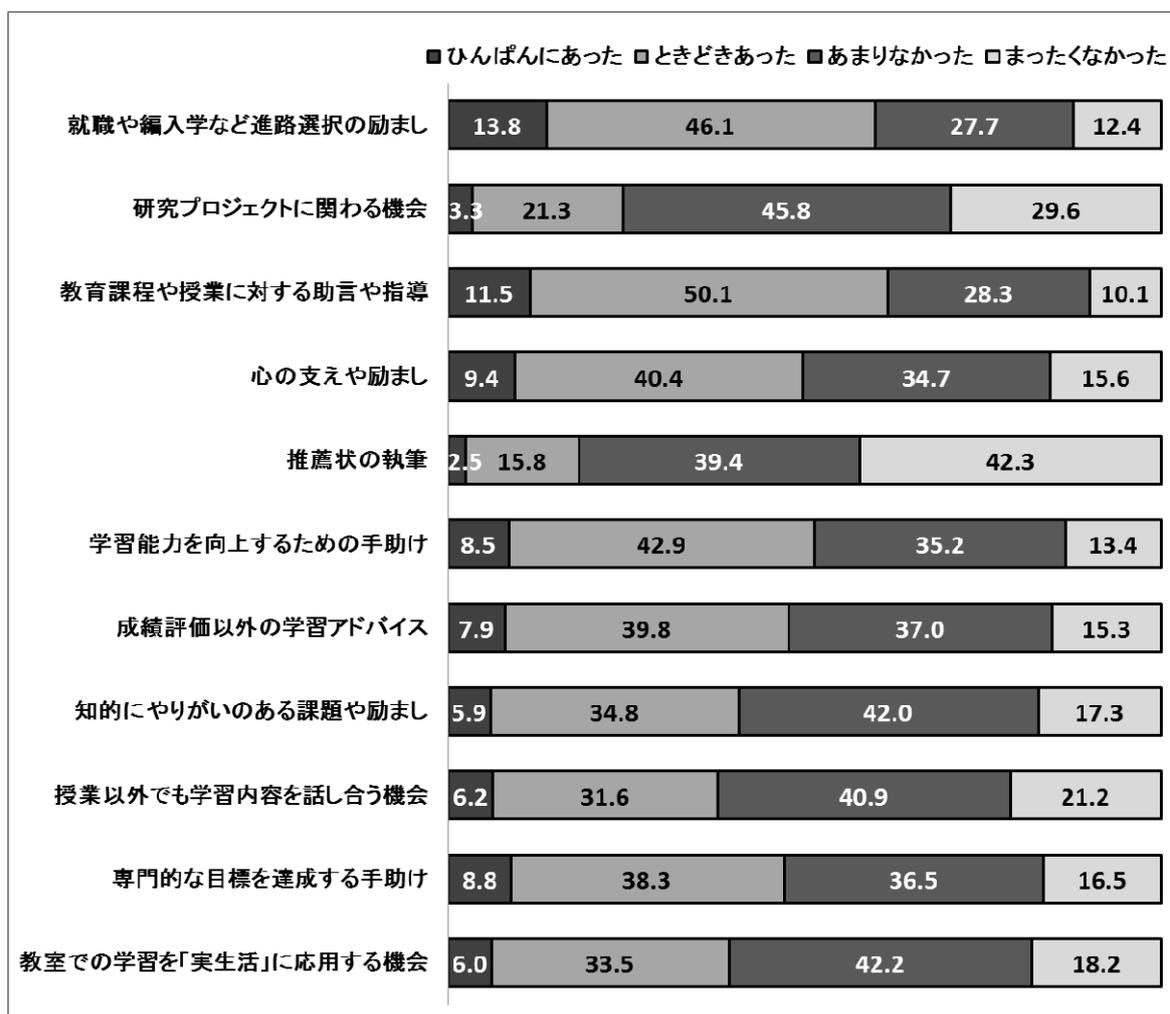
短大での教育や学生のキャンパス・ライフを支える設備や支援制度について、短大生の満足度はどのようになっているのか。上の図は短大の設備や学生支援制度に関する満足度を尋ねた質問に対する回答分布を示している。なお、この設問における評価は「とても満足—満足—どちらでもない—不満—とても不満—わからない」の6段階評価であるが、この図では「わからない」を欠損値として扱って省略している。また、以下に表記する項目の隣の数値は、「とても満足」と「満足」との回答割合である。

短大の設備や学生支援制度については、半数以上の学生が満足していると回答した項目は、満足度が高い順に「図書館の設備」(56.3%)と「コンピュータの施設や設備」(55.6%)である。これに「インターネットの使いやすさ」(47.9%)、「実験室・実習室の設備や器具」(40.9%)、「コンピュータの訓練や援助」(40.9%)、「奨学金など学費援助の制度」(39.9%)が続いている。これらより、授業等で日常的に使用する設備や施設や情報ネットワーク関連設備に関しての満足度が高い傾向にあり、多くの短大生が満足を示している。また奨学金などの学費援助制度も約4割の短大生が満足と答えており、一定のニーズは満たしていると推測できる。ただし、「インターネットの使いやすさ」については満足している人が半数いる反面、15%近くの短大生が不満を感じていることも留意すべきである。

これ以外に就職支援サービスの項目「就職の斡旋サービス」(39.6%)、「キャリアカウンセリング」(33.0%)については、中間回答「どちらでもない」が5割前後あるが、3~4割の短大生は満足を示している。

上記の項目にも言えることだが、特定の学生しか利用しない設備や支援制度については、満足でも不満でもない中間回答の「どちらでもない」といった回答がどうしても多くなる傾向にある。中間回答の割合が回答をした短大生のうち全体の6~7割を占めている項目は、「リーダーシップ発揮の機会」(19.2%)、「心理相談やカウンセリングサービス」(19.5%)、「レクリエーション施設」(20.4%)などである。これらの項目については、単に学生が利用していないか、もしくは学生が望む支援制度を短大側が整備しきれていないかといった可能性が考えられる。

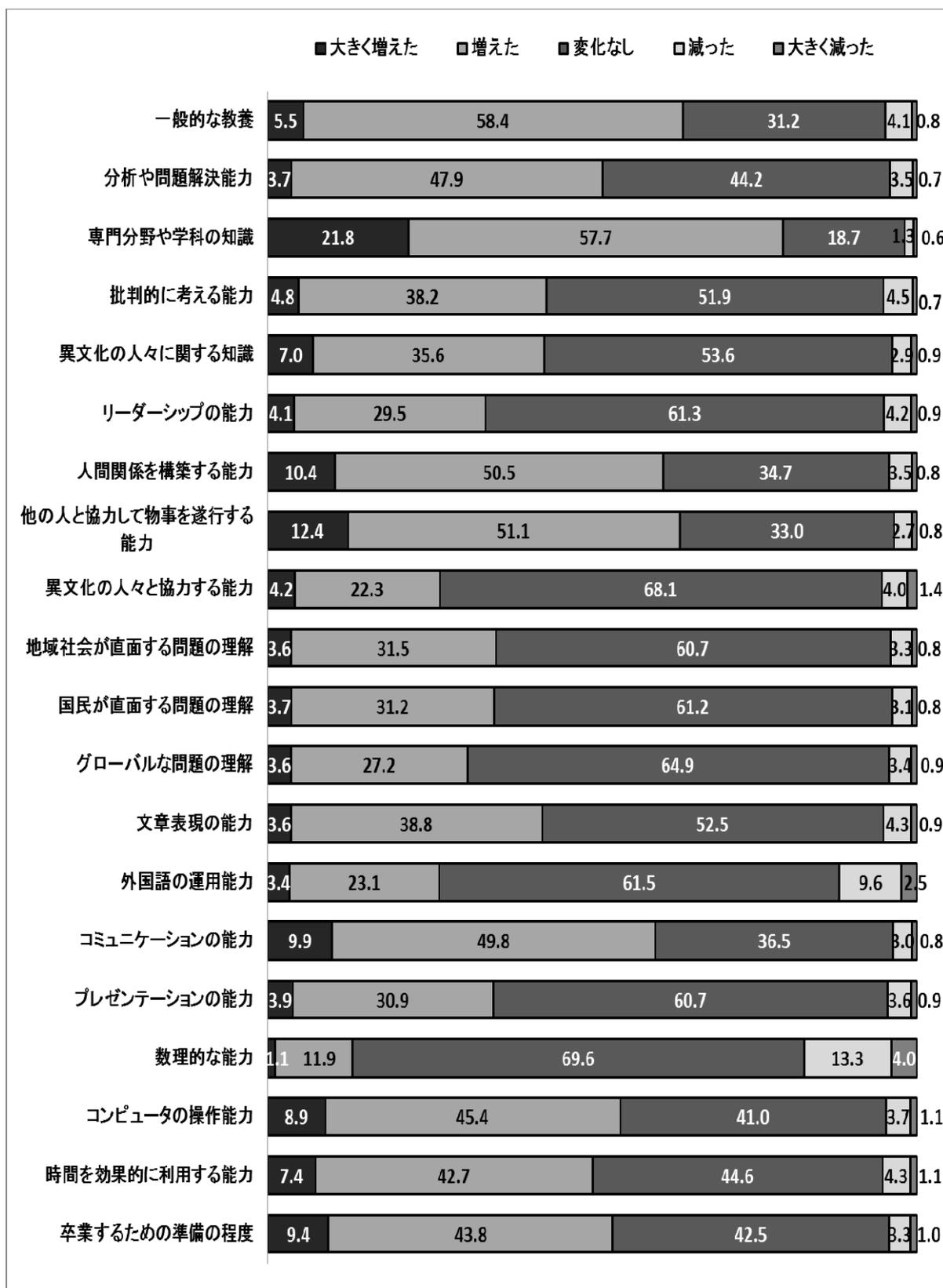
[21] 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。



上の図は、短大教員が学生に対して以下の活動をどれくらい提供しているかについて示したものである。表記する項目の隣の数値は、「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答割合の合計である。

この図を見ると、6割以上の短大生が「教育課程や授業に対する助言や指導」(61.6%)や「就職や編入学など進路選択の励まし」(59.9%)といった活動について、教員から提供されたと答えている。この他に教員からの関わりが多かったものとして、「学習能力を向上するための手助け」(51.4%)や「心の支えや励まし」(49.8%)、「成績評価以外の学習アドバイス」(47.7%)、「専門的な目標を達成する手助け」(47.1%)といった項目があり、約半数の学生がこの種の関与が「あった」と回答している。上記に挙げた項目の特徴として、教員から学習活動を支援する関与を多く受けており、この回答分布を見る限り、短大教員は短大生に対して積極的な関与を行っていることがうかがえる。反対に学生への提供が少ない活動は、「研究プロジェクトに関わる機会」(24.6%)と「推薦状の執筆」(18.3%)であり、そもそもこれらの関与は短大において行う機会そのものが少ないことが考えられる。

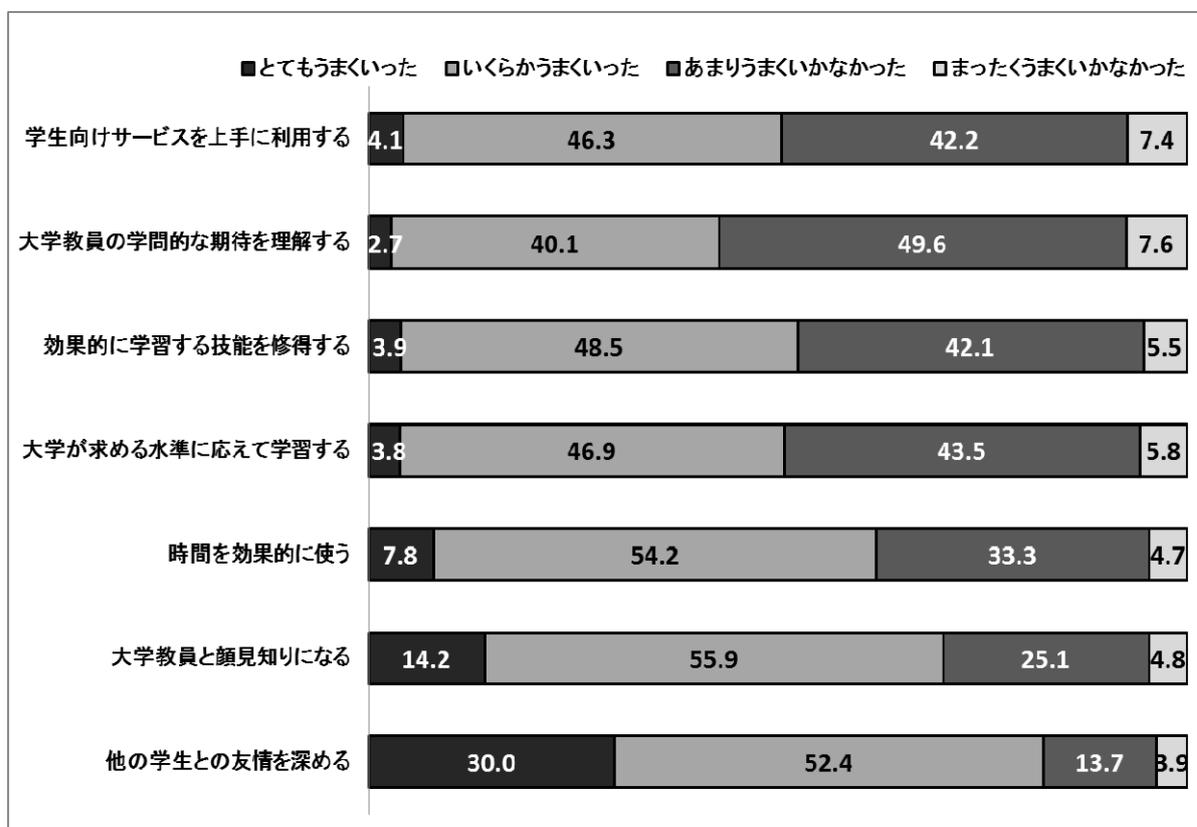
〔22〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



短大入学後の学生の知識・技能の獲得についてその変化状況を尋ねたものである。以下提示する項目内容の横の数値は「大きく増えた」と「増えた」といった増加割合の合計である。

上の図より増加割合が最も高いのは「専門分野や学科の知識」(79.5%)であることから、多くの短大生が自分の進学した学科の専門教育から知識・技能の習得ができていると評価していることがうかがえる。ただ、短大教育が専門教育だけしか行っていないかと言えばそうではなく、「一般的な教養」も63.9%となっているので、教養教育についても短大が力を注いでいることが推測できる。また半数以上の学生が増えたと実感している能力は降順に「他の人と協力して物事を遂行する能力」(63.5%)、「人間関係を構築する能力」(60.9%)、「コミュニケーションの能力」(59.7%)、「コンピュータの操作能力」(54.3%)、「卒業するための準備の程度」(53.2%)、「分析や問題解決能力」(51.6%)、「時間を効果的に利用する能力」(50.1%)となっている。ここで注目すべきは、対人関係を構築する際に必要となる能力が高い割合で獲得されていることである。これ以外に4割以上の学生が増加したとしている能力は降順に、「批判的に考える能力」(43.0%)や「異文化の人々に関する知識」(42.6%)、「文章表現の能力」(42.4%)となっている。先の「分析や問題解決能力」と合わせて考えると、汎用的な技能(ジェネリックスキル)に関する項目について、約半数の学生が短大教育の中でこの種の能力を伸ばしている。しかし、その一方で批判的思考能力などの増加割合が5割以下の項目は「変化なし」と回答した学生が50%以上いることから、これらに関しては知識・技能を伸ばすような取り組みを行う余地が残っている。また増加割合が低い「外国語の運用能力」(26.5%)と「数理的な能力」(13.0%)の2つの項目は、他の項目とは異なり「減少した」と回答した学生が10%以上存在している。この2つの項目については短大のみならず4年制大学に対する大学生調査(JCSS)においても同様の傾向にある。このことから、これら2項目に関しては短大のみならず日本の高等教育自体が十分に教育できていない可能性があり、今後取り組むべき課題として挙げられる。

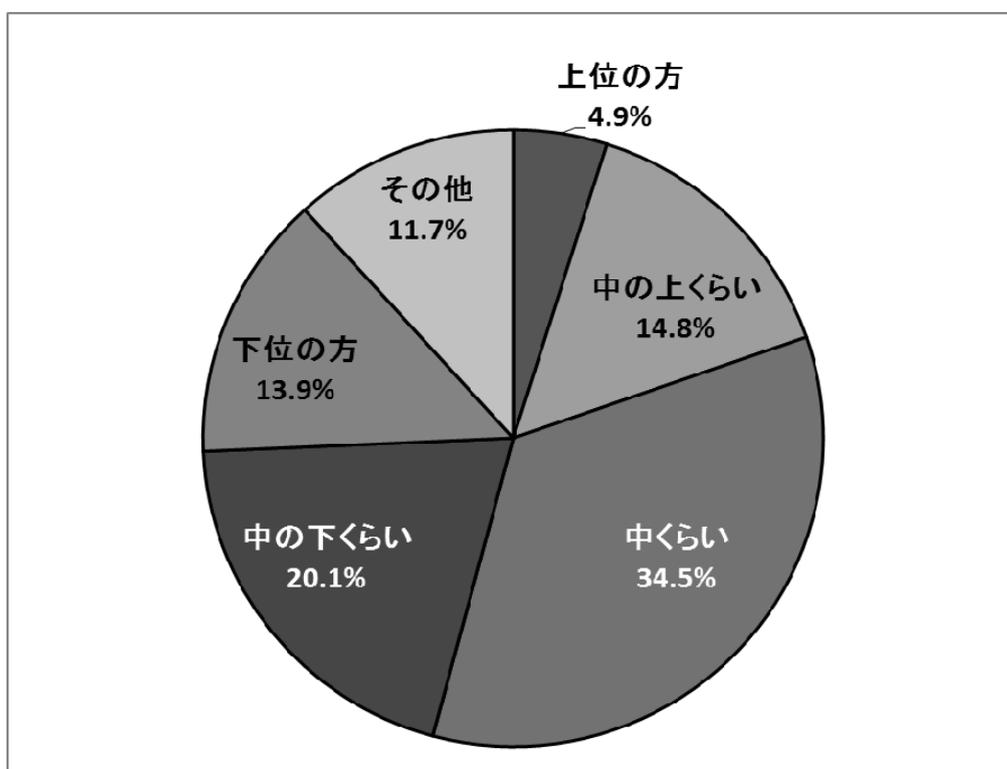
[23] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。



短大生は入学してからどのくらい短大に適応しているのだろうか。それについて尋ねた7つの項目の回答分布が上の図のようになっている。ここでも「とてもうまくいった」と「いづらかううまくいった」の割合を足したものを項目の隣に提示している。

図を見ると、全ての項目で「うまくいった」といった肯定的な回答をした短大生が多くなっている。このうち「他の学生との友情を深める」(82.4%)と「大学教員と顔見知りになる」(70.1%)の2つの項目が特に高い数値を示しており、学生生活において多くの短大生が良好な人間関係を築いていることがうかがえる。これらに続き「時間を効果的に使う」(62.0%)や「効果的に学習する技能を修得する」(52.4%)、「大学が求める水準に応じて学習する」(50.7%)、「学生向けサービスを上手に利用する」(50.4%)といった項目においても、半数以上の学生が学生生活にうまく適応できていると回答している。「大学教員の学問的な期待を理解する」(42.8%)について他の項目より若干肯定回答の割合が低いが、4割以上の短大生は授業等で教員が期待する学習について概ね理解していることがわかる。ただ、注意すべき点として対人関係に関する2項目を除いた項目、例えば「効果的に学習する技能を修得する」や「大学が求める水準に応じて学習する」、「大学教員の学問的な期待を理解する」などでは、半数近くの短大生が「あまりうまくいっていない」と回答している。これらの高等教育における学習の在り方や学術的な期待に対して、短大生をどういったかたちで適応させていくのか、今後も注意深く検証する必要がある。

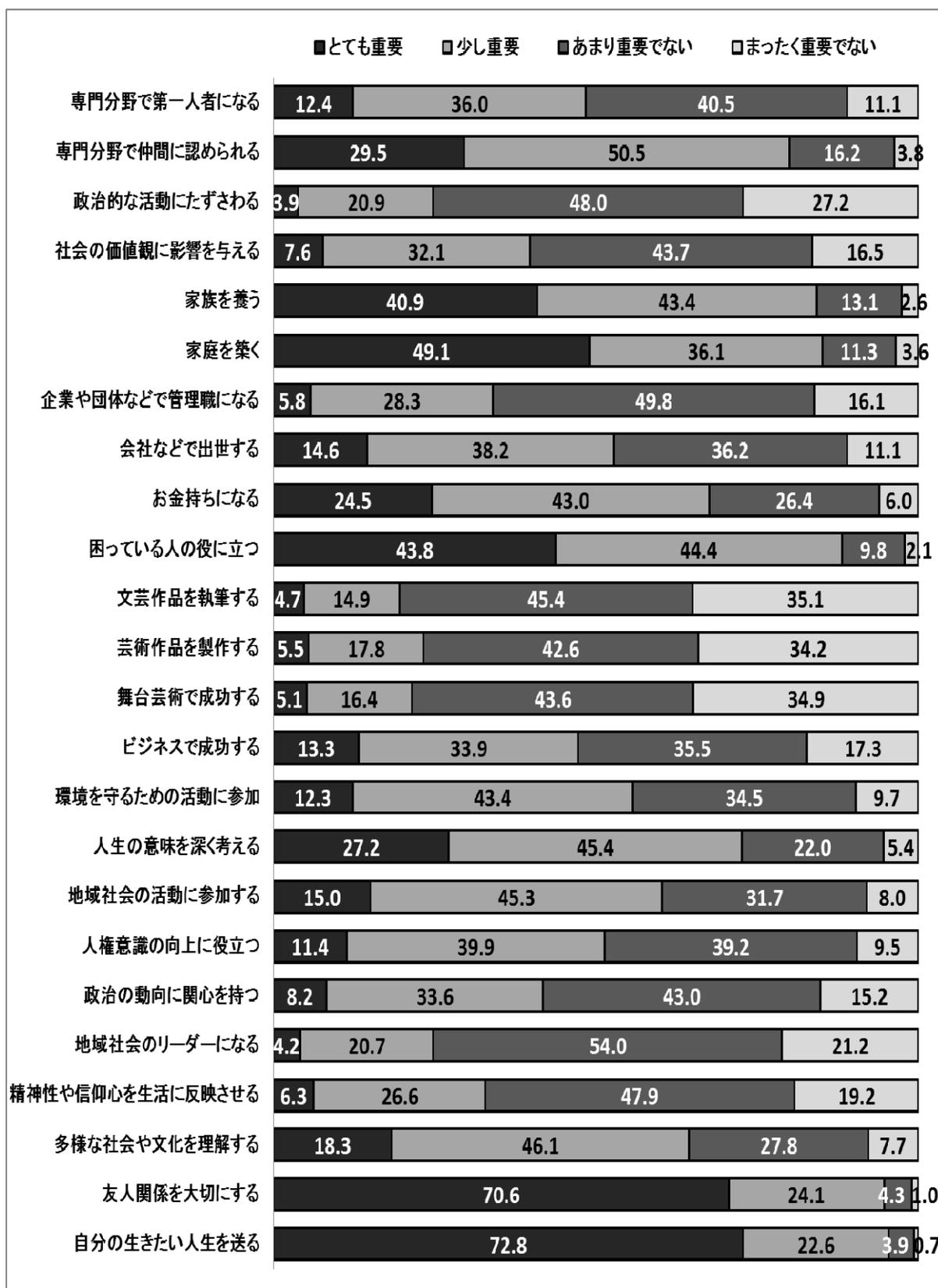
[24] あなたの本学での成績はどれくらいですか。



調査に回答した短大生の成績分布はどのようになっているだろうか。成績の自己評価についての分布を示したのが上の図である。

これを見ると、最も回答が多いのは「中くらい」の34.5%であり、成績中位者が全体の3分の1を占めていることがわかる。また「上位の方(4.9%)」や「中の上くらい(14.8%)」といった成績上位層は4人に1人程度いる。「中の下くらい(20.1%)」と「下位の方(13.9%)」の成績下位者は全体の約3割である。

[25] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

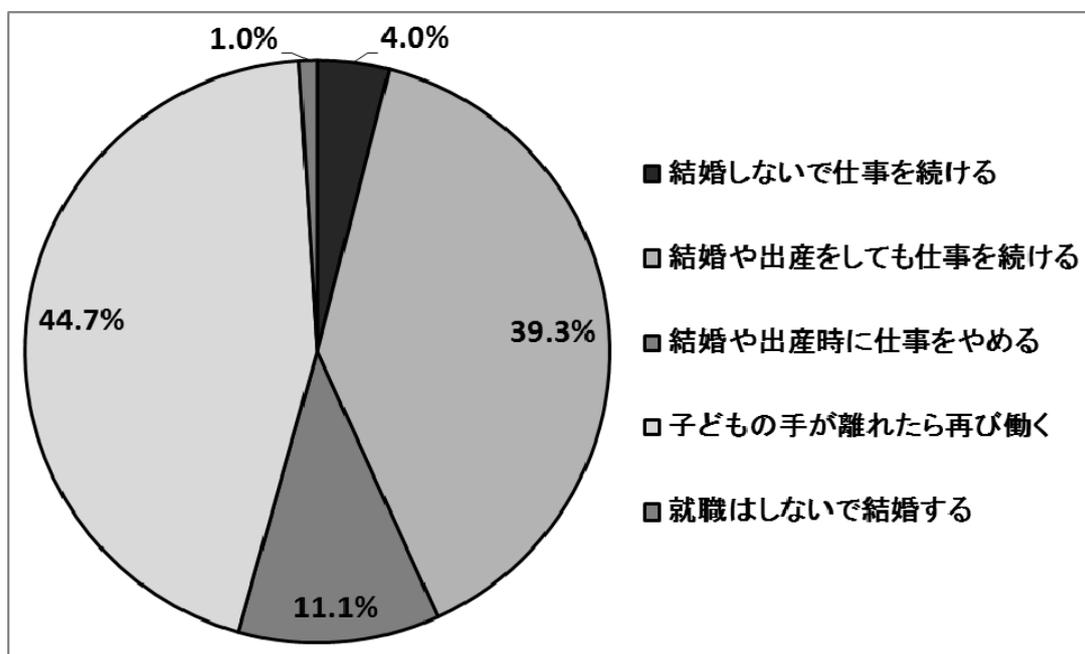


ここでは、短大生が人生を送るうえで重要だと思うものは何かについて、言い換えれば短大生の持つ価値観について尋ねている。その回答分布を示したのが上の図である。なお、項目の隣の数字は「とても重要である」と「少し重要である」を足した割合である。

短大生が特に重要だと考えている項目についてしてみると、重要度が高い順に「自分の生きたい人生を送る」(95.4%)、「友人関係を大切にする」(94.7%)であり、ほぼ全ての学生がこの2つの項目に関して重要だと思っているとわかる。この他に「困っている人の役に立つ」(88.2%)、「家庭を築く」(85.2%)、「家族を養う」(84.3%)、「専門分野で仲間認められる」(80.0%)についても約8割の短大生が重要だとみなしている。上記以外に半数以上の学生が重要だと思っている項目は降順に、「人生の意味を深く考える」(72.6%)、「お金持ちになる」(67.5%)、「多様な社会や文化を理解する」(64.4%)、「地域社会の活動に参加する」(60.3%)、「環境を守るための活動に参加」(55.7%)、「会社などで出世する」(52.8%)、「人権意識の向上に役立つ」(51.3%)となっている。これら重要度が高い項目の特徴としては、しっかりと自分の人生の意義を考え、自己決定を下すことを重視しながらも、その一方で家族や友人、仲間を中心に良好な関係を築きたいという願望が垣間見える。それと同時に自分以外の他者に対してや地域社会、また環境に対して何らかの貢献をしたいという意識を持っていると思われる。ただそれ以外にも「お金持ちになる」や「会社などで出世する」などから、経済的・社会的地位の上昇も達成したいとも考えていることがうかがえる。

上記とは反対に短大生から重要度が低いとみなされている項目は、「文芸作品を執筆する」(19.6%)や「舞台芸術で成功する」(21.5%)、「芸術作品を製作する」(23.3%)、「地域社会のリーダーになる」(24.9%)、「政治的な活動にたずさわる」(24.8%)である。これらの項目から、文化・芸術に関するものや政治活動に関するもの、またリーダーになるといったことをあまり重要だと思わない傾向にある。

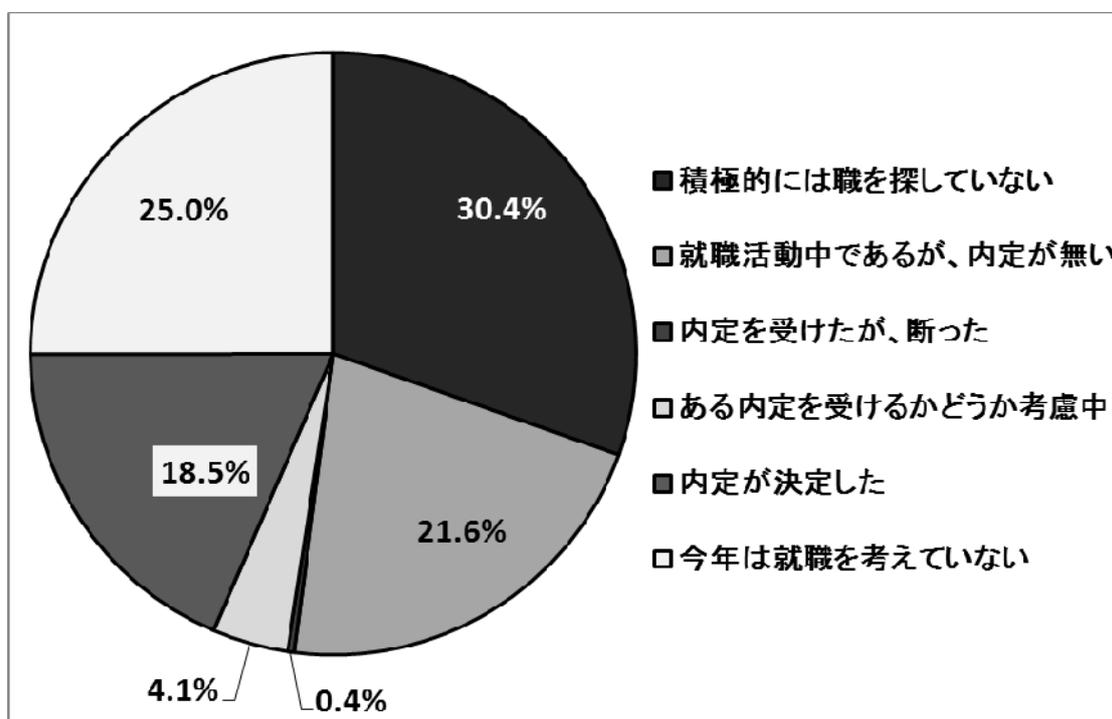
[26] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。



今後社会へと進む短大生は一体どのようなキャリア・イメージを持っているのか。それについて尋ねた項目の回答結果は上図のようになっている。なお、この項目は 7257 名の短大生が回答しているが、設問内容から男子学生を除いた女子学生 6526 名を分析の対象としている。なお、6526 人の女子学生のうち、無回答を除いた有効回答は 6469 名であった。

回答の分布は、「結婚しないで仕事を続ける」(4.0%)、「結婚や出産をしても仕事を続ける」(39.3%)、「結婚や出産時に仕事をやめる」(11.1%)、「子どもの手が離れたら再び働く」(44.7%)、「就職はしないで結婚する」(1.0%) となっている。これらの回答から察するに、結婚や出産の有無、一時離職したとしても何らかの形で働き続けたいと思っている女子学生がほとんどであることがわかる。ただ、この結果だけでは判断できないが、短大生にとって、結婚より出産とその後の子育てが仕事の継続を左右する大きな要因であると考えている傾向にある。

[27] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。



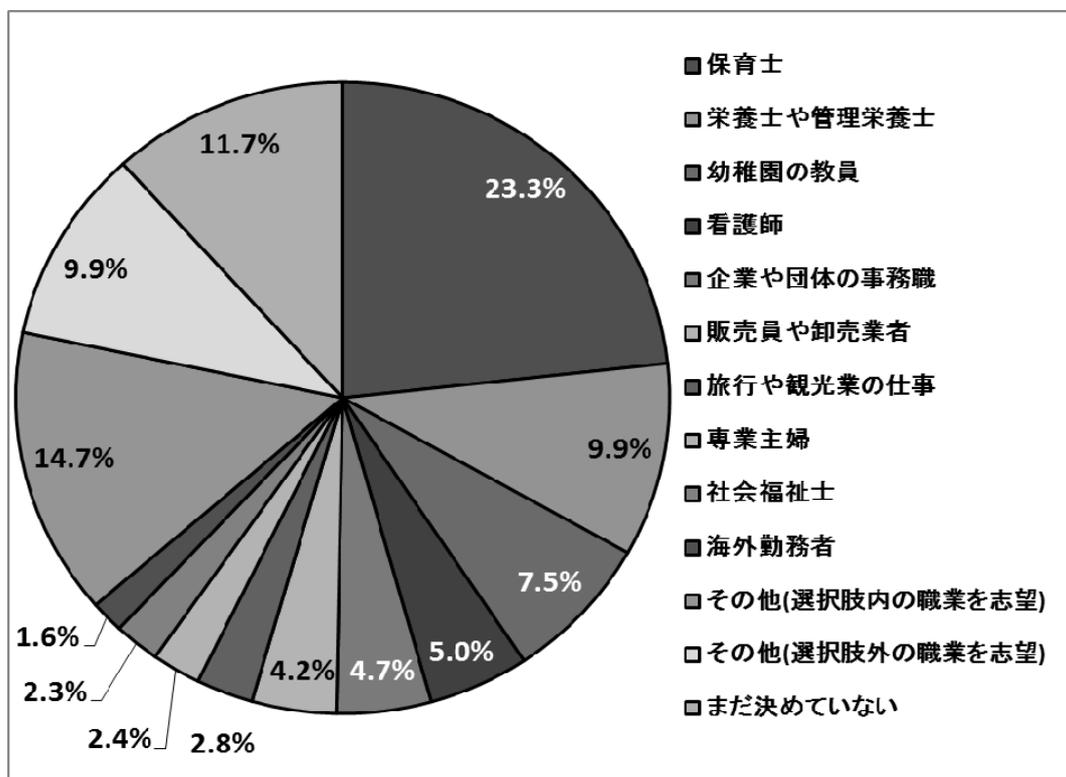
現在就職活動をしている（した）学生を対象に、現在の活動状況を尋ねたものが上の図のようになっている。

この図をみると、回答割合は「積極的に職を探していない」（30.4%）、「就職活動中であるが、内定が無い」（21.6%）、「内定を受けたが、断った」（0.4%）、「ある内定を受けるかどうか考慮中」（4.1%）、「内定が決定した」（18.5%）、「今年は就職を考えていない」（25.0%）となっている。これらより、何らかの内定を受けた経験がある短大生は回答全体の約 3 割いることがうかがえる。その一方で「積極的に職を探していない」（30.4%）と「今年は就職を考えていない」（25.0%）より、回答時点で就職活動を一切行っていない短大生が 5 割以上いることが読み取れる。ただし、主に就職活動をしているのは「2 年生以上」であると考えられるので、学年別の傾向を見る必要がある。下の表は各選択肢の回答状況を学年別に提示している。これをみると、「積極的に職を探していない」（1 年生 79.2%、2 年生以上 20.8%）や「活動中であるが、内定がない」（1 年生 28.1%、2 年生以上 71.9%）、「今年は就職を考えていない」（1 年生 77.3%、2 年生以上 22.7%）より、現在就職活動をしていない学生の多くが 1 年生であることがわかる。また内定が決定した短大生のうち、学年別の内訳は 1 年生が 3.6%であるのに対して 2 年生以上は 96.4%である。

表 学年別の就職活動状況

	1年生		2年生以上		計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1683	79.2	443	20.8	2126	100.0
就職活動中であるが、内定が無い	425	28.1	1085	71.9	1510	100.0
内定を受けたが、断った	4	16.0	21	84.0	25	100.0
ある内定を受けるかどうか考慮中	175	61.6	109	38.4	284	100.0
内定が決定した	47	3.6	1247	96.4	1294	100.0
今年は就職を考えていない	1353	77.3	397	22.7	1750	100.0
計	3687	52.8	3302	47.2	6989	100.0

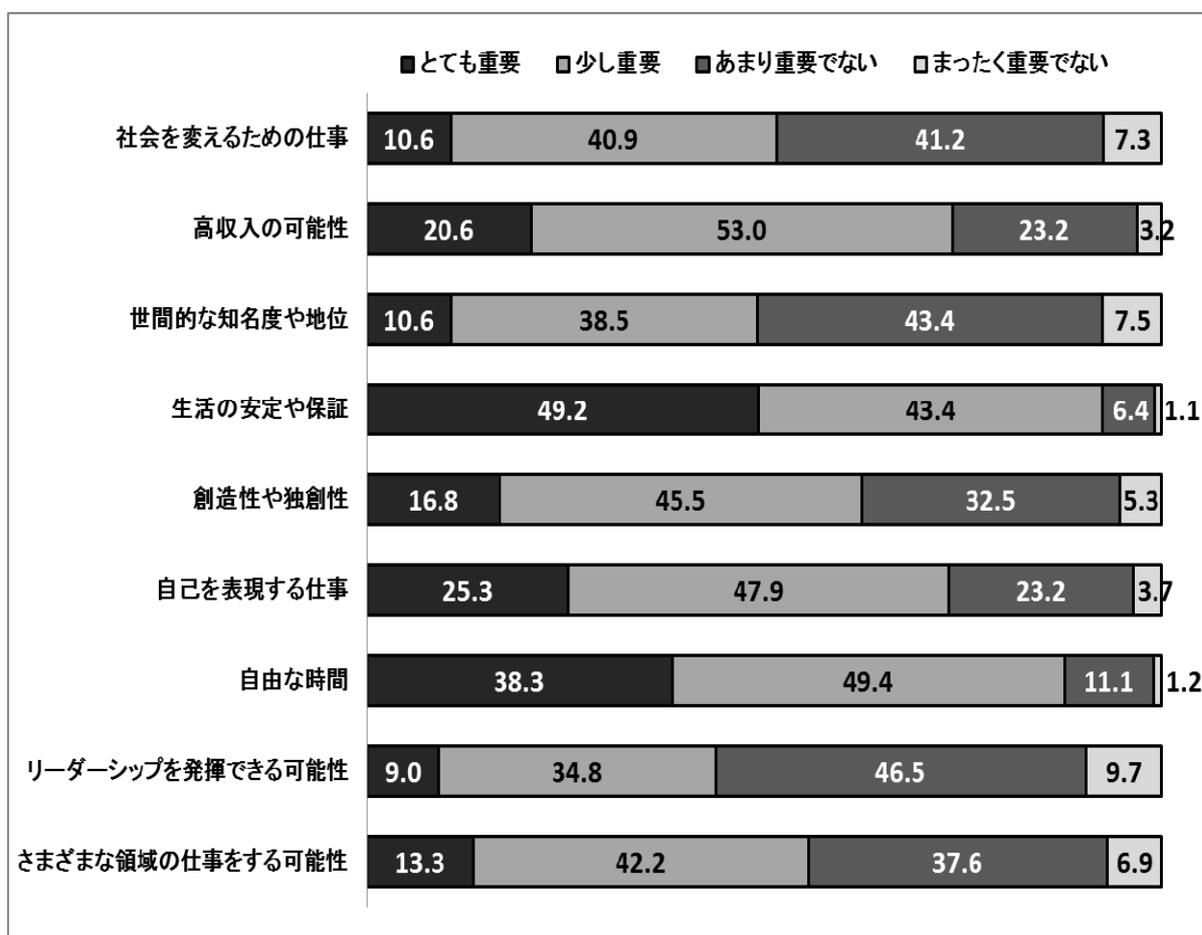
[28] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。



上の図は将来どのような職業やキャリアに就きたいかを尋ねた設問の回答分布である。この設問では55の職業のうち1つを選択するよう求めているが、そのままでは全体の回答傾向が把握しにくいので、特に回答割合が高い職業のうち上位10位までを整理し図示した。なお、この図では無回答者380人を除いている。この設問の全体の回答状況は後に掲載する集計一覧(第2部 頁68)を参照いただきたい。

この図を見ると、回答時点で何らかの職業・キャリアを志望している短大生は全体の88.3%であり、キャリア未決定の短大生は11.7%のみである。志望度が高い上位10の職業は、順に「保育士」(23.3%)、「栄養士や管理栄養士」(9.9%)、「幼稚園の教員」(7.5%)、「看護師」(5.0%)、「企業や団体の事務職」(4.7%)、「販売員や卸売業者」(4.2%)、「旅行や観光業の仕事」(2.8%)、「専業主婦」(2.4%)、「社会福祉士」(2.3%)、「海外勤務者」(1.6%)となっている。これらから「保育士」や「幼稚園の教員」といった就学前機関に関連する職業志望が全体の3割を占めている。このような職業志望は、現在所属している学科や専攻と高い相関があると考えられる。特にこの傾向が高い専門分野として「教育」と「看護」、「栄養」が挙げられる。まず専門分野「教育」とした短大生2602人のうち、「保育士」を選択したのが1591人(61.1%)、また「幼稚園の教員」を選んだのは516人(19.8%)となっている。これより、専門分野「教育」の短大生の約8割が就学前に関連機関での職を志望していることが確認できる。同様に専門分野「看護」とした短大生356人の中で「看護師」を選んだ短大生は325人(91.3%)であり、この他に専門分野「栄養」1413人中672人(47.6%)が「栄養士や管理栄養士」を志望している。

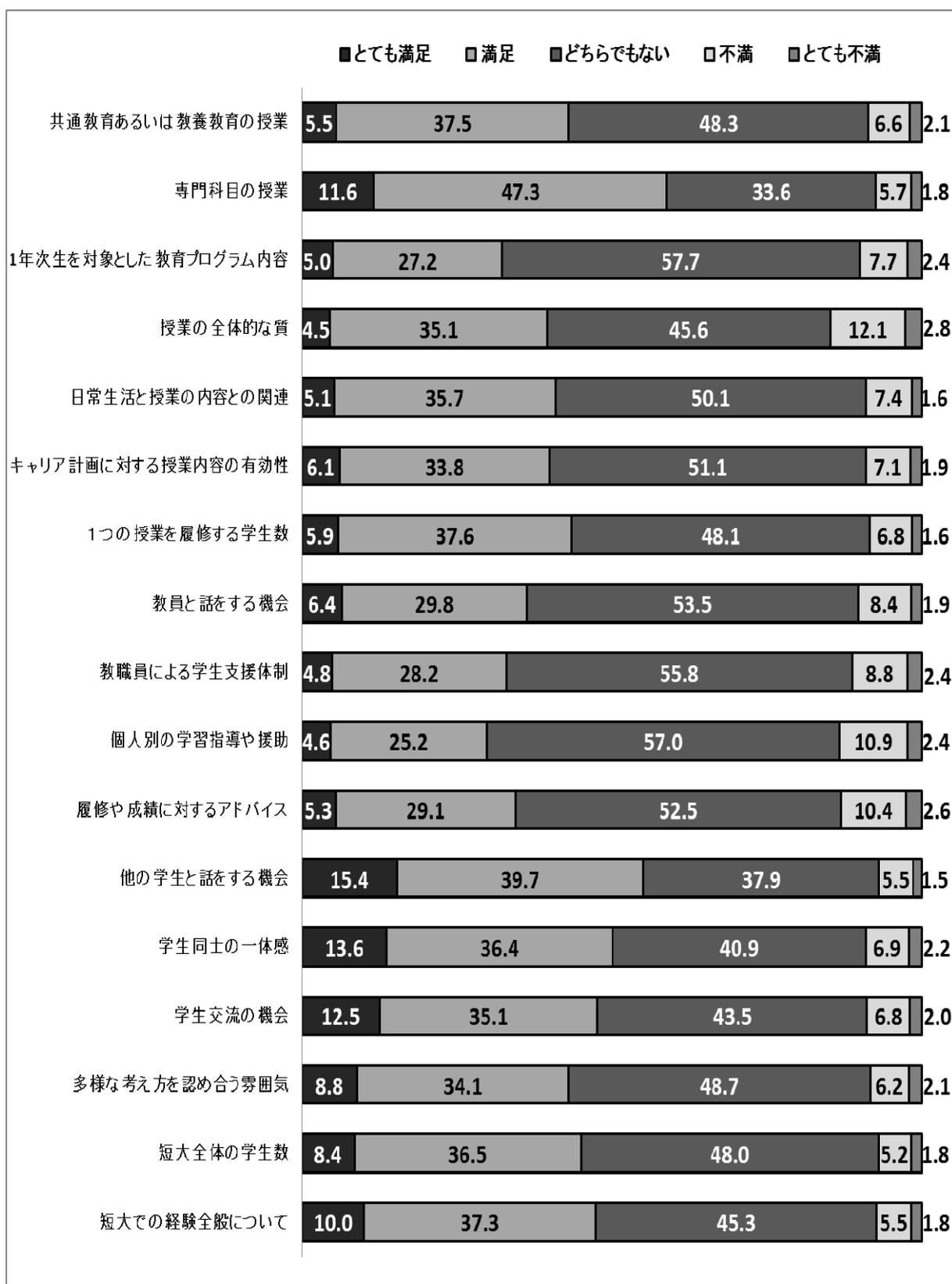
〔29〕 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。



キャリアを選択する際に、どのようなことがらを重視するのかを尋ねた 9 つの項目に関する回答分布は上の図の通りである。なお、項目の隣の数字は「とても重要である」と「重要である」の合計割合である。

上図より、キャリアを考えるにあたって 7 割以上の学生が重要だとみなしている項目は、「生活の安定や保証」(92.6%)、「自由な時間」(87.7%)、「高収入の可能性」(73.6%)、「自己を表現する仕事」(73.2%) である。これより、生活の基盤となる収入が十分に保障され、自己実現可能な仕事ができ、余暇などの時間が確保できるのを重視する傾向にある。この他に半数以上の学生が重要だと思っている項目は、「創造性や独創性」(62.3%) と「さまざまな領域の仕事をする可能性」(55.5%) である。仕事に自分独自の感性や発想を求める一方で、様々な仕事をこなすことも求める短大生が 6 割前後いることがわかる。「社会を変えるための仕事」(51.5%) と「世間的な知名度や地位」(49.1%) は「重要—非重要」の回答割合が拮抗しているが、「リーダーシップを発揮できる可能性」(43.8%) を重要でないと考える短大生がやや多いようである。

[30] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。



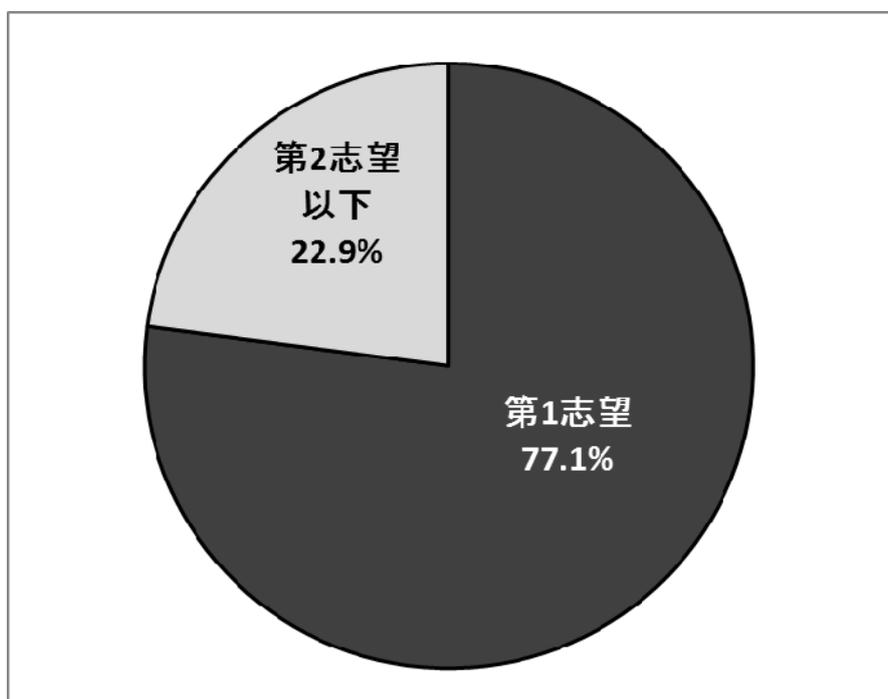
短大の教育全般に対して短大生はどの程度満足しているのか。これについて尋ねた 17 項目の回答状況を示したのが上の図である。なお、各設問項目は「とても満足－満足－どちらでもない－不満－とても不満－わからない」の 6 段階評価で構成されているが、この図では「わからない」は欠損値として扱って省略している。また各項目名の隣にある数字は「とても満足」と「満足」と回答した割合の合計値である。

図を見ると、半数以上の学生が満足感を得ている項目は「専門科目の授業」(58.9%)と「他の学生と話をする機会」(55.1%)、「学生同士の一体感」(50.0%)の 3 項目である。またこれらに続き満足度の高い項目は、「学生交流の機会」(47.6%)、「短大での経験全般について」(47.3%)、「短大全体の学生数」(44.9%)、「1 つの授業を履修する学生数」(43.5%)、「共通教育あるいは教養教育の授業」(43.0%)、「多様な考え方を認め合う雰囲気」(42.9%)、「日常生活と授業の内容との関連」(40.8%)といった 7 項目で 40%以上の短大生が満足を示している。

これ以外に 3 割以上の短大生が満足を示しているのは順に「キャリア計画に対する授業内容の有効性」(39.9%)や「授業の全体的な質」(39.6%)、「教員と話をする機会」(36.2%)、「履修や成績に対するアドバイス」(34.4%)、「教職員による学生支援体制」(33.0%)、「1 年次生を対象とした教育プログラム内容」(32.2%)となっている。「個人別の学習指導や援助」(29.8%)もほぼ 3 割であることから、ほとんどすべての項目について 3 割以上の短大生が短大の教育や教育支援制度に満足を示している。これは「とても不満」と「不満」の回答割合が 2 割を超える項目がないことからもうかがえる。ただし、これら満足度に関する項目においては「どちらでもない」という中間回答を選ぶ短大生が多くなる傾向にあり、この設問においても中間回答が 4 割以上の項目は全 17 項目中 15 項目に及んでいる。

上記の項目のうち、特に 4 割以上の短大生が満足を示したのから推測すると、まず専門科目や共通教育といった短大教育に対しては一応の満足度を示していると考えられる。短大の学生規模についても、1 クラスあたりの受講者数や短大全体の学生数の満足度が高いので、多くの学生が現状の規模に満足しているようである。また学生間の交流の満足も 4 割を超えているので、学生生活をより良いものにする友人や仲間とのつながりについても十分だと思っている短大生が多い。最後に短大での経験全般の満足度について、満足が 5 割弱、中間回答も 5 割弱なので、短大において有意義な経験ができていると感じている学生が約半数はいると思われる。

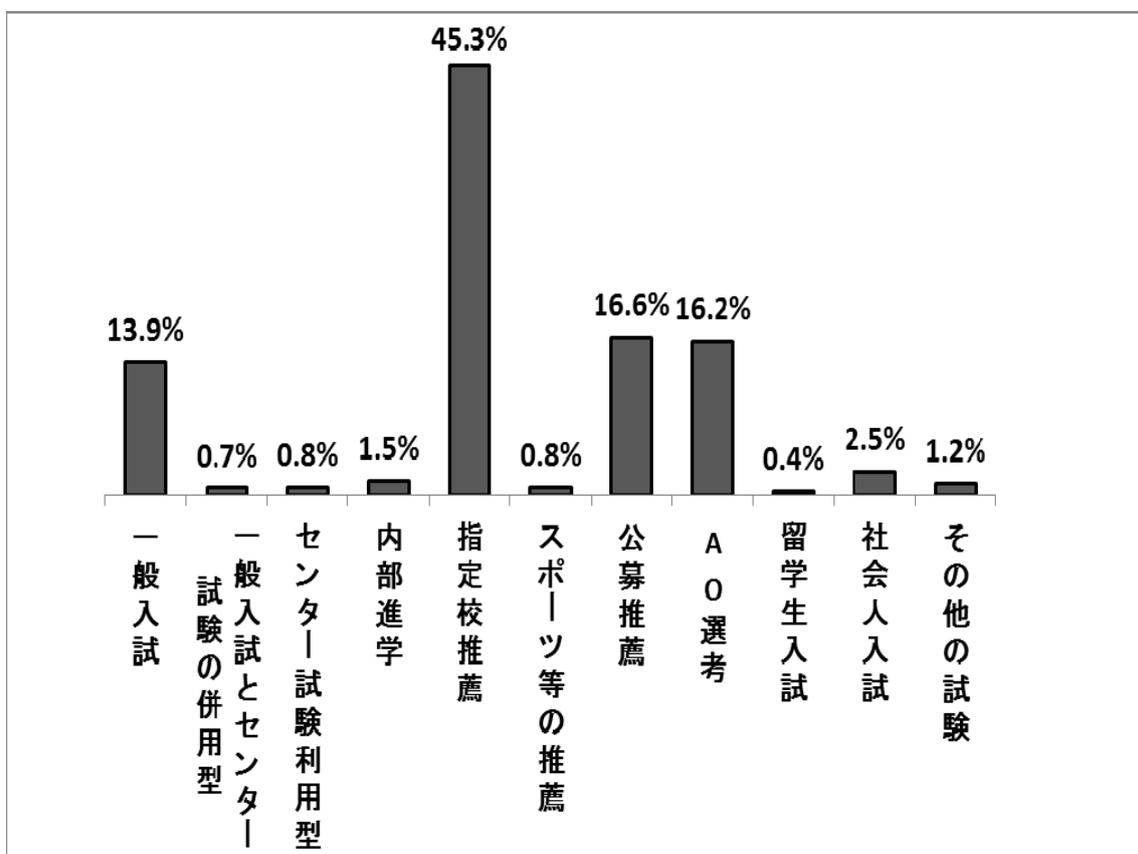
[31] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。



現在進学している短大の志望順位はどのくらいだったのか。それに関する回答状況を表したのが上の図である。

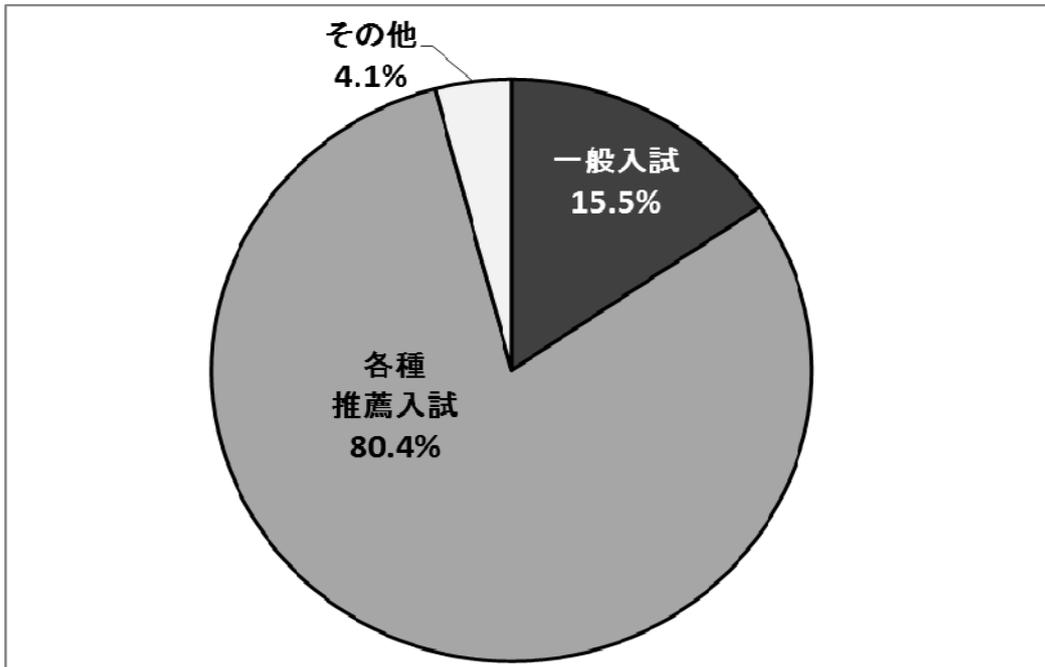
「第1志望」として答えた短大生は全体の77.1%、「第2志望以下」として答えた短大生は22.9%となっている。このことから、4人のうち3人の短大生が現在所属している短大を志望して進学してきたことがわかる。

[32] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。



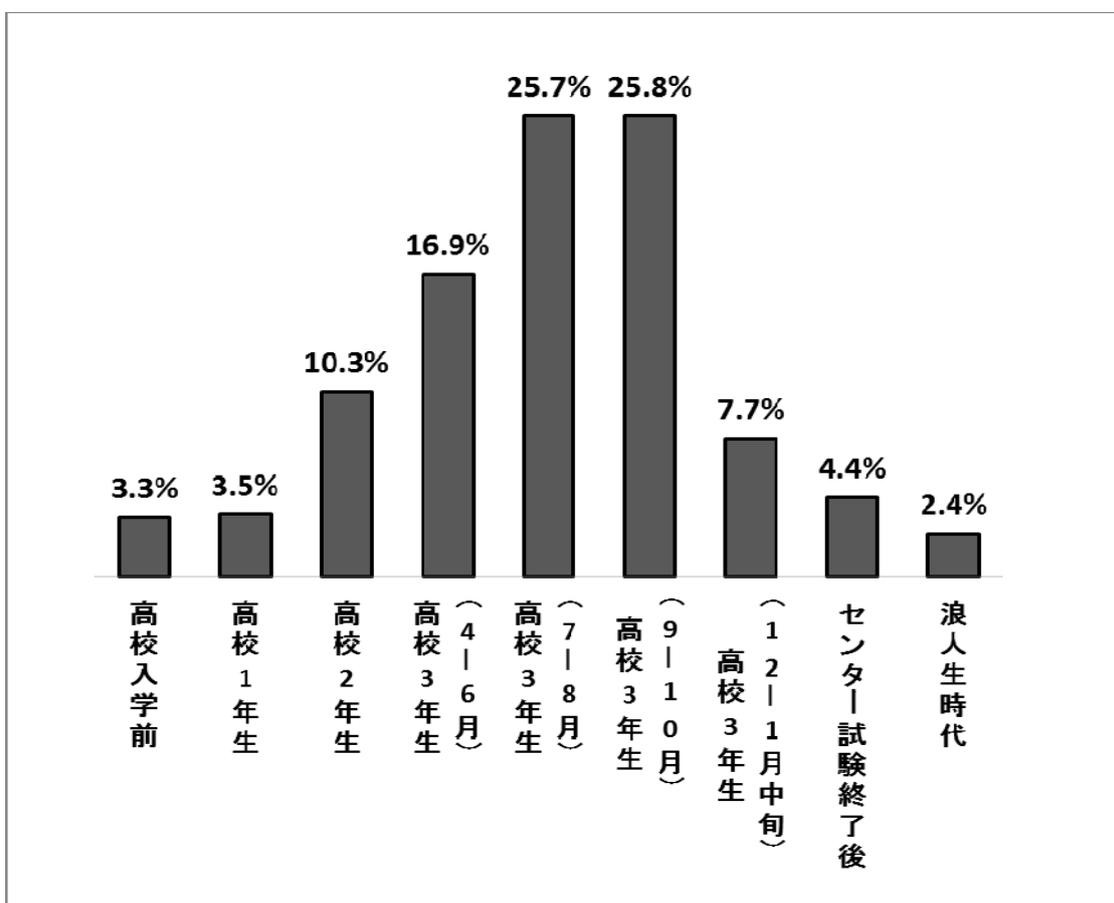
先の設問において多くの短大生が第1志望の短大に進学しているが、それではどのような入試方式を通して進学してきたのだろうか。その回答状況を示したのが上の図である。

この図より、最も多いのは「指定校推薦」(45.3%)で、4割以上の短大生がこの方式によって進学していることがわかる。これに「公募推薦」(16.6%)や「AO選考」(16.2%)、「一般入試」(13.9%)が続いている。この4つの入試方式によって短大生の9割以上が入学している。ここで、入試方式を3つに分類したのが下の図である。この分類は、1つ目は一般入試、一般入試とセンター試験の併用、センター試験利用をひとくくりとする学力入試を伴った「一般入試」区分である。2つ目は「各種推薦入試」であり、これは内部進学、指定校推薦、スポーツ等の推薦、公募推薦、AO選考の5つの入試方式をまとめている。そして3つ目は「その他」の入試であり、留学生入試と社会人入試、その他の入試を合わせている。この3区分によると学力選抜試験を伴った「一般入試」による進学者は全体の15.4%にすぎないが、「各種推薦入試」の進学者は80.4%を占めている。このことより、5人中4人が学力選抜によらない入試方式で短大に進学していることがうかがえる。



入試方式 3 分類

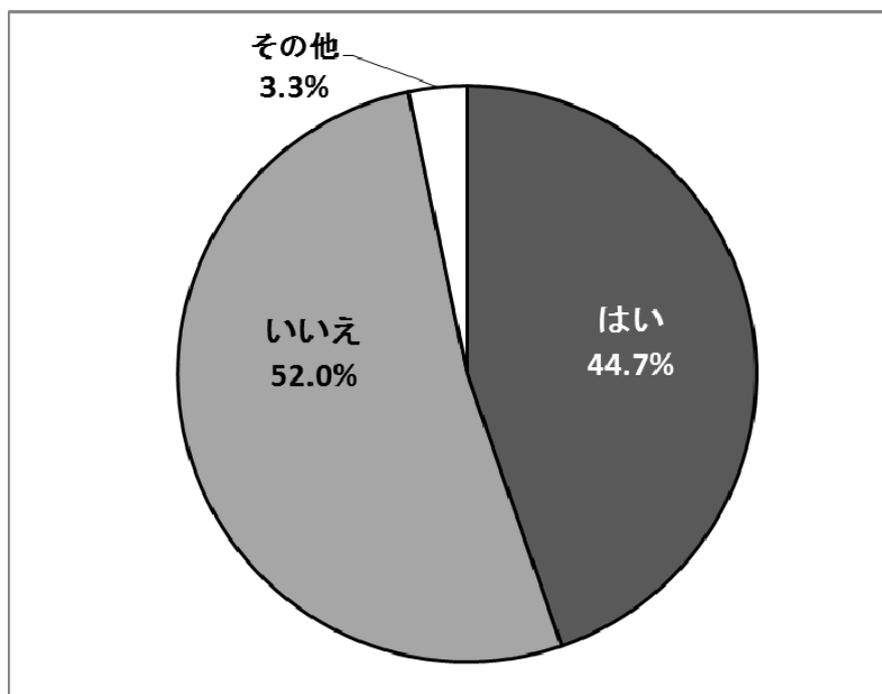
[33] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。



短大生がいつ現在の短大に進学を決めたのかについて尋ねたところ、上の図のような回答になった。

この図より、進学決定時期の回答割合が最も高いのは「高校3年生の9～10月」の25.8%であり、次いで「高校3年生の7～8月」の25.7%である。また「高校3年生の4～6月」も16.9%となっている。これらから、高校3年生の始業から夏休みまでに受験を決定した短大生が全体の42.6%であり、早い段階で進学先を決めている。このことは一体何を意味するのか考えてみると、先の設問により各種推薦入試による進学者は全体の8割である。この種の入試が本格的に始まるのが8月以降だとすると、余裕をもって試験対策等の準備をするために、高校3年生の1学期前後には進学する短大の受験を決定するケースが多くなると推測される。また夏休み前後はオープンキャンパスも数多く実施されるので、そこで入試に関する情報を収集し、進学を後押ししている可能性も考えられる。

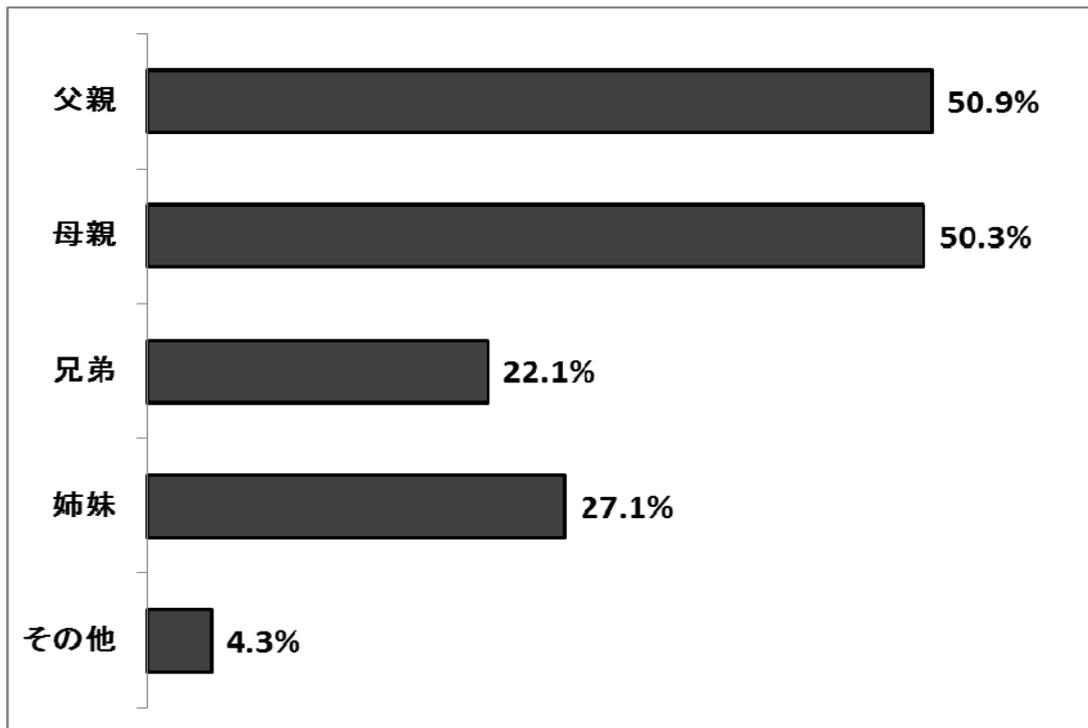
〔34-1〕 あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。



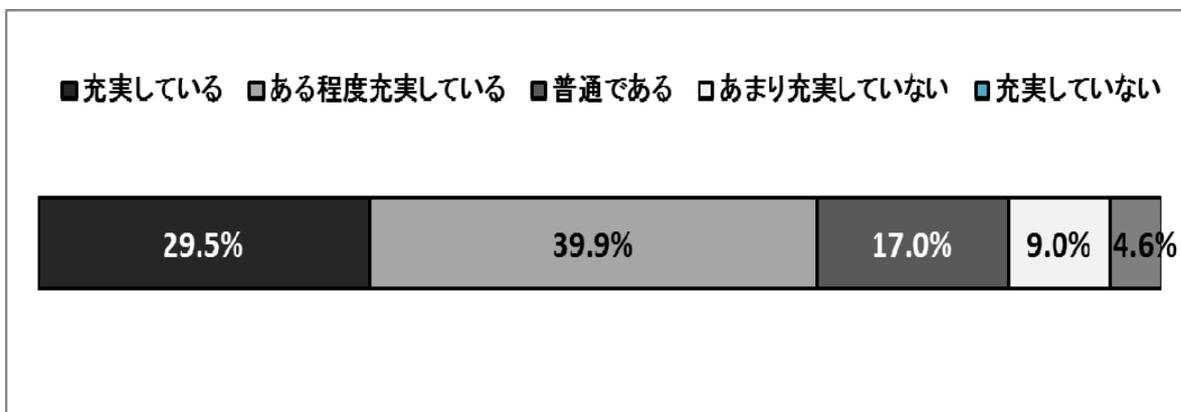
短大生の家族内に大学や短大といった高等教育機関卒業者がいるかどうか尋ねた結果について示しているのが上の図である。これを見ると、家族内に高等教育機関卒業者がいると回答した短大生は44.7%で、誰もいないのが52.0%となっている。

〔34-2〕 ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

次に〔34-1〕で家族内に高等教育機関卒業者がいると答えた短大生（該当者3237名）に対して、家族のうち誰が卒業しているのか聞いたところ、下の図のような回答状況になった。なお、この設問は複数回答可としている。下の図を見ると、「父親」が50.9%、「母親」が50.3%となっている。「兄弟」は22.1%、「姉妹」は27.1%である。父母の半数が大学及び短大を卒業しており、子どもに対しても自分たちと同じように高等教育機関に進学させていると考えられる。



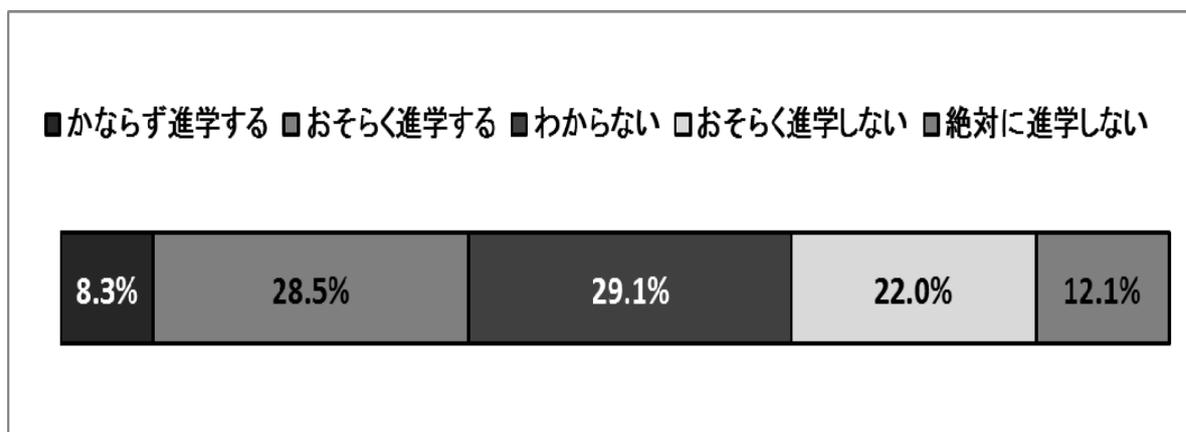
[35] あなたの学生生活は充実していますか。



短大生の学生生活全般に対する充実感について尋ねた結果、上の図のような回答結果が得られた。

この図を見ると「充実している」と回答した短大生は29.5%、「ある程度充実している」と回答したのが39.9%であることから、7割近くの短大生は、現在充実した学生生活を送っていることがわかる。それとは反対に「充実していない」と答えた短大生は4.6%、「あまり充実していない」は9.0%である。この回答結果から、多くの短大生が短大での生活に充実感を感じている一方で、約7人に1人の割合で充実した学生生活を送れていない短大生がいることが読み取れる。

[36] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。



短大生に対して「もし選び直せたら、もう一度本学に進学するか」どうかを尋ねたところ、上の図に示した結果が得られた。

この図によると「かならず進学する」と回答した短大生は8.3%、「おそらく進学する」は28.5%となっている。このことから3人に1人の割合で、現在所属している短大に再度進学する意向があることがわかる。その一方で、「絶対に進学しない」と答えた短大生が12.1%、「おそらく進学しない」は22.0%となっており、3割以上の短大生が今の短大に進学するとは限らないと考えている。また「わからない」と答えた短大生も29.1%もいて、回答時点で現在の短大が再度入学するにふさわしいかどうか、判断できない人も3割弱いる。

## 第2部 集計一覧

〔1〕 あなたの性別をお答えください。

	度数	パーセント
男性	614	8.6
女性	6526	91.4
無回答	(228)	
合計	7140	100.0

〔2〕 今年度（2010年4月～2011年3月）、あなたは何歳になりますか。

	度数	パーセント
18歳以下	7	0.1
19歳	3642	49.5
20歳	2957	40.2
21-23歳	488	6.6
24-29歳	135	1.8
30-39歳	69	0.9
40-54歳	39	0.5
55歳以上	14	0.2
無回答	17	
合計	7351	100.0

〔3〕 あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2010(平成22)年度	3919	53.5
2009(平成21)年度	3100	42.3
2008(平成20)年度か、それ以前	312	4.3
無回答	37	
合計	7331	100.0

〔4〕 あなたの現在の在学状況を教えてください。

	度数	パーセント
1年生	3950	53.6
2年生	3136	42.6
3年生以上	278	3.8
その他(科目等履修生など)	2	0.0
無回答	2	
合計	7366	100.0

〔5〕 あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。

	度数	パーセント
実家または親戚の家	5312	72.3
アパートやマンション	1298	17.7
大学の寮や下宿	667	9.1
その他	71	1.0
無回答	20	
合計	7348	100.0

〔6〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	度数	パーセント
30分未満	2694	36.6
30分以上－1時間未満	1983	27.0
1時間以上－1時間30分未満	1463	19.9
1時間30分以上－2時間未満	998	13.6
2時間以上	215	2.9
無回答	15	
合計	7353	100.0

〔7〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	度数	パーセント
上位の方	864	11.8
中の上くらい	1673	22.8
中くらい	2371	32.3
中の下くらい	1296	17.6
下位の方	808	11.0
その他	335	4.6
無回答	21	
合計	7347	100.0

〔8(1)〕 あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。

	度数	パーセント
公立	5190	70.5
私立	2079	28.2
国立	35	0.5
その他	57	0.8
無回答	7	
合計	7361	100.0

〔8(2)〕 あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

	度数	パーセント
共学	6391	86.8
別学	968	13.2
無回答	9	
合計	7359	100.0

〔9-1〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（日本学生支援機構の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	4804	65.2
受けている	2564	34.8
合計	7368	100.0

〔9-2〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（地方自治体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	7171	97.3
受けている	197	2.7
合計	7368	100.0

〔9-3〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（民間団体の奨学金）。

	度数	パーセント
受けていない	7306	99.2
受けている	62	0.8
合計	7368	100.0

〔9-4〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（短大の奨学金や授業料免除）。

	度数	パーセント
受けていない	6605	89.6
受けている	763	10.4
合計	7368	100.0

〔9-5〕あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか（その他の経済的援助）。

	度数	パーセント
受けていない	7049	95.7
受けている	319	4.3
合計	7368	100.0

〔10-1〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（単位を取得できなかった授業があった）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6178	83.8
あてはまる	1190	16.2
合計	7368	100.0

〔10-2〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（学力不足を補うため補習授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6658	90.4
あてはまる	710	9.6
合計	7368	100.0

〔10-3〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（人権や民族に関する授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	5940	80.6
あてはまる	1428	19.4
合計	7368	100.0

〔10-4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（女性学の授業を履修した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	6303	85.5
あてはまる	1065	14.5
合計	7368	100.0

〔10-5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	7053	95.7
あてはまる	315	4.3
合計	7368	100.0

〔10-6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（海外研修プログラムに参加した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	7055	95.8
あてはまる	313	4.2
合計	7368	100.0

〔10-7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	7256	98.5
あてはまる	112	1.5
合計	7368	100.0

〔10-8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか（他の大学や短大、高等専門学校などから転学した）。

	度数	パーセント
あてはまらない	7354	99.8
あてはまる	14	0.2
合計	7368	100.0

〔11〕 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し重要	とても重要	合計	無回答
親の希望だった	2711 37.1	2382 32.6	1820 24.9	399 5.5	7312 100.0	56
親族・親せきから進学を勧められた	4643 63.7	1819 24.9	674 9.2	155 2.1	7291 100.0	77
高校の先生に勧められた	2572 35.3	1952 26.8	2127 29.2	644 8.8	7295 100.0	73
予備校や塾で勧められた	5530 76.5	1252 17.3	381 5.3	70 1.0	7233 100.0	135
学費が適当であった	2587 35.6	2118 29.2	1811 25.0	742 10.2	7258 100.0	110
奨学金が支給された	3517 48.8	1514 21.0	1242 17.2	930 12.9	7203 100.0	165
自宅から通学できる	1563 21.4	744 10.2	1901 26.1	3081 42.3	7289 100.0	79
就職に有利	848 11.6	1278 17.5	2676 36.7	2485 34.1	7287 100.0	81
四年制大学より早く就職できる	1669 22.9	2003 27.5	2078 28.6	1525 21.0	7275 100.0	93
高校卒業後すぐに働きたくなかった	2216 30.6	1742 24.0	1957 27.0	1336 18.4	7251 100.0	117
本学で学ぶ内容に興味があった	414 5.7	985 13.5	2737 37.5	3165 43.4	7301 100.0	67
専門学校より幅広い勉強ができる	822 11.3	1855 25.5	2721 37.4	1885 25.9	7283 100.0	85
学生生活を楽しんでみたかった	680 9.3	1293 17.7	2892 39.6	2440 33.4	7305 100.0	63
本学の校風に魅力があった	1133 15.5	2361 32.3	2457 33.6	1351 18.5	7302 100.0	66
本学のキャンパスがきれいだった	1267 17.4	2229 30.6	2352 32.3	1445 19.8	7293 100.0	75
資格をとるために必要だった	471 6.5	993 13.6	2070 28.4	3750 51.5	7284 100.0	84
大学に編入することもできる	2473 34.1	2358 32.5	1399 19.3	1028 14.2	7258 100.0	110
推薦入試等で入学が早く内定した	1657 22.7	1265 17.3	1998 27.3	2387 32.7	7307 100.0	61

〔12〕 あなたは留学生ですか。（1つだけ選んで○をつけてください）

	度数	パーセント
はい	54	0.7
いいえ	7212	99.3
無回答	102	
合計	7266	100.0

〔13〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

	特別な学習支援を現在		合計	特別な学習支援を今後		合計
	受けている	受けていない		受けたい	受けたくない	
文章表現	436	5297	5733	2164	2061	4225
	7.6	92.4	100	51.2	48.8	100
数学	173	5492	5665	1062	3230	4292
	3.1	96.9	100	24.7	75.3	100
理科	178	5516	5694	945	3303	4248
	3.1	96.9	100	22.2	77.8	100
英語	598	5034	5632	1915	2408	4323
	10.6	89.4	100	44.3	55.7	100

〔14〕 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

	まったく しなかった	あまり しなかった	ときどき した	ひんばんに した	合計
学際的な授業を履修した	2143 30.0	2609 36.5	1844 25.8	558 7.8	7154 100
自主的な学習プロジェクトに参加した	3097 42.5	2757 37.9	1212 16.6	216 3.0	7282 100
授業内容について他の学生と議論した	2145 29.4	2263 31.0	2369 32.5	518 7.1	7295 100
教員と懇親会を持った	4978 68.6	1371 18.9	777 10.7	135 1.9	7261 100
スポーツに参加した	2447 33.6	1521 20.9	2045 28.1	1259 17.3	7272 100
提出期限までに宿題を完成できなかった	2412 33.1	2320 31.9	2133 29.3	415 5.7	7280 100
授業をつまらなく感じた	294 4.0	1466 20.0	4049 55.4	1503 20.6	7312 100
授業に遅刻した	1937 26.5	2040 27.9	2526 34.6	802 11.0	7305 100
他の学生と一緒に勉強した	1039 14.2	1393 19.1	3229 44.2	1640 22.5	7301 100
ボランティア活動をした	3223 44.4	1612 22.2	1643 22.6	777 10.7	7255 100
インターネットを使って授業課題を受けた	2160 29.5	1245 17.0	2419 33.1	1489 20.4	7313 100
インターネットを使って授業課題を提出した	1820 24.9	1178 16.1	2618 35.9	1685 23.1	7301 100
研究や宿題のためにWeb上の情報を利用した	675 9.2	889 12.2	3026 41.4	2713 37.1	7303 100
Web上でニュースを読んだ	1131 15.5	1428 19.5	2441 33.4	2312 31.6	7312 100
Web上でブログを読んだ	1400 19.1	1218 16.6	2061 28.2	2640 36.1	7319 100
Web上でブログを書いた	2565 35.2	1318 18.1	1620 22.2	1782 24.5	7285 100
研究や宿題のために図書館を利用した	1125 15.4	1419 19.4	2874 39.3	1891 25.9	7309 100
アルバイトなどで授業を欠席した	5239 72.0	1184 16.3	687 9.4	170 2.3	7280 100
その他の理由で授業を欠席した	1552 21.3	2354 32.3	2630 36.1	747 10.3	7283 100
他の学生の学習補助をした	4879 67.2	1767 24.3	528 7.3	86 1.2	7260 100
将来のキャリアの相談をした	2635 36.3	2136 29.4	1878 25.9	604 8.3	7253 100
授業中に居眠りをした	723 9.9	1641 22.5	3410 46.7	1534 21.0	7308 100
取りたい授業を履修登録できなかった	4549 62.4	1580 21.7	851 11.7	314 4.3	7294 100
楽器を演奏した	3951 54.2	898 12.3	1083 14.8	1363 18.7	7295 100
教員と面談した	3866 53.0	2161 29.6	1084 14.9	181 2.5	7292 100
教員の考え方や意見に異議を唱えた	4193 57.3	2245 30.7	729 10.0	156 2.1	7323 100
教員に親近感を感じた	1538 21.1	2401 32.9	2659 36.4	704 9.6	7302 100

〔15〕あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

	度数	パーセント
保健衛生	10	0.1
看護	365	5.0
農工	16	0.2
人文	1195	16.5
経営	463	6.4
福祉	406	5.6
家政	328	4.5
栄養	1470	20.3
教育	2743	37.8
芸術	126	1.7
その他	136	1.9
合計	7258	100.0

〔16〕あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。

	短期大学 を卒業	短期大学の 専攻科を卒業	大学・大学院 を卒業	その他	合計	無回答
度数	5536	918	671	196	7321	47
パーセント	75.6	12.5	9.2	2.7	100.0	

〔17〕あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。

	0時間	1時間 未満	1-2 時間	3-5 時間	6-10 時間	11-15 時間	16-20 時間	20時間 以上	合計	無回答
勉強や宿題	643 8.8	1846 25.3	1799 24.6	1565 21.4	726 9.9	275 3.8	160 2.2	288 3.9	7302 100.0	66
授業への出席	82 1.1	80 1.1	154 2.1	363 5.0	677 9.3	856 11.8	1183 16.3	3848 53.1	7243 100.0	125
友人との交際	125 1.7	369 5.1	668 9.2	1398 19.4	1507 20.9	851 11.8	622 8.6	1684 23.3	7224 100.0	144
授業以外での教員との会話	1256 17.3	3998 55.1	1199 16.5	476 6.6	183 2.5	72 1.0	37 0.5	41 0.6	7262 100.0	106
運動やスポーツ	1787 24.7	2159 29.9	1607 22.3	868 12.0	376 5.2	167 2.3	76 1.1	181 2.5	7221 100.0	147
アルバイト	2683 37.0	152 2.1	116 1.6	507 7.0	993 13.7	1049 14.5	838 11.6	912 12.6	7250 100.0	118
ボランティア活動	5445 75.2	853 11.8	349 4.8	297 4.1	164 2.3	42 0.6	27 0.4	68 0.9	7245 100.0	123
部活動や同好会	4939 68.0	573 7.9	636 8.8	509 7.0	271 3.7	103 1.4	71 1.0	165 2.3	7267 100.0	101
テレビ鑑賞	283 3.9	670 9.2	991 13.6	1525 21.0	1277 17.6	765 10.5	509 7.0	1252 17.2	7272 100.0	96
家事手伝い	945 13.0	1857 25.5	1524 21.0	1171 16.1	689 9.5	369 5.1	194 2.7	525 7.2	7274 100.0	94
趣味としての読書	3507 48.3	1568 21.6	893 12.3	663 9.1	303 4.2	125 1.7	73 1.0	134 1.8	7266 100.0	102
携帯電話の使用	73 1.0	384 5.3	699 9.6	1061 14.6	1068 14.7	743 10.2	646 8.9	2586 35.6	7260 100.0	108
インターネット上での友人との交流	2343 32.0	1397 19.1	944 12.9	798 10.9	568 7.8	332 4.5	231 3.2	703 9.6	7316 100.0	52

〔18〕 あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどきあつ た	ひんばんに あつた	合計	無回答
礼拝や宗教的な活動に参加した	5709 77.8	714 9.7	659 9.0	254 3.5	7336 100.0	32
政治的な活動に参加した	6517 88.9	650 8.9	141 1.9	21 0.3	7329 100.0	39
喫煙した	6474 88.6	236 3.2	218 3.0	377 5.2	7305 100.0	63
アルコール飲料を飲んだ	2976 40.7	1453 19.9	2189 29.9	696 9.5	7314 100.0	54
やるべきことの多さに圧倒された	728 9.9	1074 14.7	2971 40.6	2549 34.8	7322 100.0	46
留学生と交流した	5609 76.6	776 10.6	695 9.5	247 3.4	7327 100.0	41
宗教について討論した	6448 88.0	582 7.9	240 3.3	59 0.8	7329 100.0	39
政治について討論した	5843 80.0	945 12.9	430 5.9	83 1.1	7301 100.0	67
ゆううつで落ち込んだ	1386 18.9	1628 22.2	2770 37.9	1533 21.0	7317 100.0	51
個人的にカウンセリングを求めた	6213 84.8	692 9.4	284 3.9	136 1.9	7325 100.0	43

〔19〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。

	下位 10%	平均 以下	平均	平均 以上	上位 10%	合計	無回答
一般的な教養	233 3.2	1663 22.7	4517 61.7	779 10.6	132 1.8	7324 100.0	44
学力	368 5.0	2395 32.7	3994 54.5	498 6.8	75 1.0	7330 100.0	38
芸術的な能力	617 8.4	2342 32.0	3098 42.4	1057 14.5	198 2.7	7312 100.0	56
競争心	495 6.8	1627 22.3	3149 43.1	1634 22.4	397 5.4	7302 100.0	66
コンピュータの操作能力	727 10.0	2050 28.1	3053 41.9	1251 17.1	214 2.9	7295 100.0	73
協調性	266 3.6	1057 14.4	3612 49.4	1859 25.4	525 7.2	7319 100.0	49
創造性	306 4.2	1556 21.3	3731 51.0	1363 18.6	360 4.9	7316 100.0	52
やる気	300 4.1	1139 15.6	3476 47.5	1755 24.0	647 8.8	7317 100.0	51
情緒面での安定度	524 7.2	1592 21.8	3612 49.4	1172 16.0	407 5.6	7307 100.0	61
リーダーシップ	941 12.9	2263 31.0	2851 39.0	992 13.6	263 3.6	7310 100.0	58
ねばり強さ	339 4.6	1351 18.5	3097 42.4	1870 25.6	654 8.9	7311 100.0	57
数理的な能力	1452 19.9	2704 37.0	2431 33.3	576 7.9	145 2.0	7308 100.0	60
体の健康	284 3.9	1076 14.7	3174 43.4	1598 21.9	1178 16.1	7310 100.0	58
プレゼンテーションの能力	854 11.7	2758 37.7	2996 40.9	588 8.0	122 1.7	7318 100.0	50
チャレンジ精神	388 5.3	1471 20.1	3341 45.7	1542 21.1	563 7.7	7305 100.0	63
知的面での自信	675 9.2	2321 31.7	3608 49.3	560 7.6	157 2.1	7321 100.0	47
社交面での自信	494 6.7	1737 23.7	3265 44.6	1307 17.8	522 7.1	7325 100.0	43
自己の理解	300 4.1	1150 15.7	4103 56.1	1361 18.6	396 5.4	7310 100.0	58
スピリチュアリティ	437 6.0	1541 21.1	4189 57.3	884 12.1	261 3.6	7312 100.0	56
信仰心	1169 16.0	2253 30.8	3344 45.7	394 5.4	150 2.1	7310 100.0	58
他者の理解	215 2.9	802 11.0	4166 57.1	1741 23.9	375 5.1	7299 100.0	69
文章表現の能力	552 7.5	2214 30.2	3650 49.9	747 10.2	157 2.1	7320 100.0	48
文章読解の能力	519 7.1	2057 28.1	3749 51.3	824 11.3	166 2.3	7315 100.0	53
外国語の能力	1551 21.2	2761 37.8	2490 34.1	407 5.6	97 1.3	7306 100.0	62

〔20〕あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。（※「わからない」を欠損値扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値)	
							わからない	無回答
コンピュータの施設や設備	175 2.5%	605 8.5%	2370 33.4%	3145 44.4%	794 11.2%	7089 100.0%	245	34
コンピュータの訓練や援助	173 2.5%	660 9.4%	3332 47.3%	2363 33.6%	512 7.3%	7040 100.0%	288	40
インターネットの使いやすさ	209 3.0%	815 11.6%	2650 37.6%	2732 38.7%	648 9.2%	7054 100.0%	257	57
図書館の設備	164 2.3%	643 9.2%	2261 32.2%	2973 42.3%	982 14.0%	7023 100.0%	289	56
実験室・実習室の設備や器具	126 2.0%	455 7.3%	3093 49.7%	2035 32.7%	512 8.2%	6221 100.0%	1088	59
就職の斡旋サービス	211 3.2%	517 7.9%	3215 49.2%	2074 31.8%	511 7.8%	6528 100.0%	788	52
キャリアカウンセリング	168 2.7%	443 7.1%	3565 57.2%	1634 26.2%	422 6.8%	6232 100.0%	1073	63
奨学金など学費援助の制度	135 2.2%	358 5.9%	3138 52.0%	1900 31.5%	509 8.4%	6040 100.0%	1261	67
ボランティア活動の機会	111 1.8%	411 6.7%	3809 62.2%	1455 23.7%	342 5.6%	6128 100.0%	1185	55
健康保健サービス	88 1.5%	282 4.9%	4044 70.9%	1097 19.2%	189 3.3%	5700 100.0%	1606	62
下宿やアパートの斡旋や紹介	120 2.2%	355 6.6%	3619 67.6%	1028 19.2%	234 4.4%	5356 100.0%	1956	56
リーダーシップ発揮の機会	102 1.7%	350 6.0%	4283 73.1%	968 16.5%	156 2.7%	5859 100.0%	1451	58
レクリエーション施設	163 2.8%	536 9.3%	3888 67.4%	1023 17.7%	155 2.7%	5765 100.0%	1557	46
心理相談やカウンセリングサービス	123 2.2%	334 6.1%	3952 72.2%	892 16.3%	175 3.2%	5476 100.0%	1845	47

〔20〕あなたは、本学の次のことから、どの程度満足していますか。（※「わからない」を有効回答扱い）

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
コンピュータの施設や設備	175 2.4%	605 8.2%	2370 32.3%	3145 42.9%	794 10.8%	245 3.3%	7334 100.0%	34
コンピュータの訓練や援助	173 2.4%	660 9.0%	3332 45.5%	2363 32.2%	512 7.0%	288 3.9%	7328 100.0%	40
インターネットの使いやすさ	209 2.9%	815 11.1%	2650 36.2%	2732 37.4%	648 8.9%	257 3.5%	7311 100.0%	57
図書館の設備	164 2.2%	643 8.8%	2261 30.9%	2973 40.7%	982 13.4%	289 4.0%	7312 100.0%	56
実験室・実習室の設備や器具	126 1.7%	455 6.2%	3093 42.3%	2035 27.8%	512 7.0%	1088 14.9%	7309 100.0%	59
就職の斡旋サービス	211 2.9%	517 7.1%	3215 43.9%	2074 28.3%	511 7.0%	788 10.8%	7316 100.0%	52
キャリアカウンセリング	168 2.3%	443 6.1%	3565 48.8%	1634 22.4%	422 5.8%	1073 14.7%	7305 100.0%	63
奨学金など学費援助の制度	135 1.8%	358 4.9%	3138 43.0%	1900 26.0%	509 7.0%	1261 17.3%	7301 100.0%	67
ボランティア活動の機会	111 1.5%	411 5.6%	3809 52.1%	1455 19.9%	342 4.7%	1185 16.2%	7313 100.0%	55
健康保健サービス	88 1.2%	282 3.9%	4044 55.4%	1097 15.0%	189 2.6%	1606 22.0%	7306 100.0%	62
下宿やアパートの斡旋や紹介	120 1.6%	355 4.9%	3619 49.5%	1028 14.1%	234 3.2%	1956 26.8%	7312 100.0%	56
リーダーシップ発揮の機会	102 1.4%	350 4.8%	4283 58.6%	968 13.2%	156 2.1%	1451 19.8%	7310 100.0%	58
レクリエーション施設	163 2.2%	536 7.3%	3888 53.1%	1023 14.0%	155 2.1%	1557 21.3%	7322 100.0%	46
心理相談やカウンセリングサービス	123 1.7%	334 4.6%	3952 54.0%	892 12.2%	175 2.4%	1845 25.2%	7321 100.0%	47

〔21〕 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんばんに あった	合計	無回答
就職や編入学など進路選択の励まし	904 12.4%	2024 27.7%	3373 46.1%	1010 13.8%	7311 100.0%	57
研究プロジェクトに関わる機会	2162 29.6%	3342 45.8%	1551 21.3%	241 3.3%	7296 100.0%	72
教育課程や授業に対する助言や指導	734 10.1%	2068 28.3%	3655 50.1%	839 11.5%	7296 100.0%	72
心の支えや励まし	1136 15.6%	2529 34.7%	2944 40.4%	683 9.4%	7292 100.0%	76
推薦状の執筆	3064 42.3%	2856 39.4%	1148 15.8%	180 2.5%	7248 100.0%	120
学習能力を向上するための手助け	975 13.4%	2570 35.2%	3129 42.9%	621 8.5%	7295 100.0%	73
成績評価以外の学習アドバイス	1118 15.3%	2698 37.0%	2903 39.8%	580 7.9%	7299 100.0%	69
知的にやりがいのある課題や励まし	1259 17.3%	3059 42.0%	2537 34.8%	432 5.9%	7287 100.0%	81
授業以外でも学習内容を話し合う機会	1550 21.2%	2988 40.9%	2308 31.6%	456 6.2%	7302 100.0%	66
専門的な目標を達成する手助け	1204 16.5%	2661 36.5%	2793 38.3%	642 8.8%	7300 100.0%	68
教室での学習を「実生活」に応用する機会	1332 18.2%	3086 42.2%	2450 33.5%	439 6.0%	7307 100.0%	61

〔22〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 減った	減った	変化なし	増えた	大きく 増えた	合計	無回答
一般的な教養	58 0.8%	298 4.1%	2288 31.2%	4280 58.4%	404 5.5%	7328 100.0%	40
分析や問題解決能力	48 0.7%	256 3.5%	3236 44.2%	3510 47.9%	271 3.7%	7321 100.0%	47
専門分野や学科の知識	41 0.6%	96 1.3%	1369 18.7%	4216 57.7%	1591 21.8%	7313 100.0%	55
批判的に考える能力	52 0.7%	327 4.5%	3785 51.9%	2785 38.2%	349 4.8%	7298 100.0%	70
異文化の人々に関する知識	65 0.9%	215 2.9%	3917 53.6%	2601 35.6%	513 7.0%	7311 100.0%	57
リーダーシップの能力	66 0.9%	304 4.2%	4484 61.3%	2154 29.5%	303 4.1%	7311 100.0%	57
人間関係を構築する能力	58 0.8%	258 3.5%	2544 34.7%	3701 50.5%	761 10.4%	7322 100.0%	46
他の人と協力して物事を遂行する能力	59 0.8%	198 2.7%	2407 33.0%	3735 51.1%	905 12.4%	7304 100.0%	64
異文化の人々と協力する能力	103 1.4%	293 4.0%	4978 68.1%	1632 22.3%	307 4.2%	7313 100.0%	55
地域社会が直面する問題の理解	59 0.8%	242 3.3%	4442 60.7%	2307 31.5%	265 3.6%	7315 100.0%	53
国民が直面する問題の理解	60 0.8%	225 3.1%	4476 61.2%	2279 31.2%	269 3.7%	7309 100.0%	59
グローバルな問題の理解	67 0.9%	250 3.4%	4741 64.9%	1987 27.2%	263 3.6%	7308 100.0%	60
文章表現の能力	68 0.9%	313 4.3%	3839 52.5%	2837 38.8%	262 3.6%	7319 100.0%	49
外国語の運用能力	179 2.5%	698 9.6%	4493 61.5%	1691 23.1%	245 3.4%	7306 100.0%	62
コミュニケーションの能力	56 0.8%	217 3.0%	2670 36.5%	3644 49.8%	723 9.9%	7310 100.0%	58
プレゼンテーションの能力	66 0.9%	265 3.6%	4438 60.7%	2260 30.9%	285 3.9%	7314 100.0%	54
数理的な能力	294 4.0%	975 13.3%	5080 69.6%	872 11.9%	83 1.1%	7304 100.0%	64
コンピュータの操作能力	77 1.1%	267 3.7%	2993 41.0%	3317 45.4%	650 8.9%	7304 100.0%	64
時間を効果的に利用する能力	78 1.1%	311 4.3%	3262 44.6%	3118 42.7%	539 7.4%	7308 100.0%	60
卒業するための準備の程度	73 1.0%	241 3.3%	3106 42.5%	3197 43.8%	687 9.4%	7304 100.0%	64

〔23〕 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。

	まったく うまくい なかつた	あまり うまくい なかつた	いづらか うまくい つた	とても うまくい つた	合計	無回答
学生向けサービスを上手に利用する	542 7.4%	3082 42.2%	3382 46.3%	301 4.1%	7307 100.0%	61
大学教員の学問的な期待を理解する	553 7.6%	3619 49.6%	2920 40.1%	198 2.7%	7290 100.0%	78
効果的に学習する技能を修得する	399 5.5%	3071 42.1%	3534 48.5%	282 3.9%	7286 100.0%	82
大学が求める水準に応じて学習する	426 5.8%	3166 43.5%	3419 46.9%	274 3.8%	7285 100.0%	83
時間を効果的に使う	346 4.7%	2425 33.3%	3947 54.2%	571 7.8%	7289 100.0%	79
大学教員と顔見知りになる	350 4.8%	1833 25.1%	4081 55.9%	1033 14.2%	7297 100.0%	71
他の学生との友情を深める	284 3.9%	1003 13.7%	3829 52.4%	2188 30.0%	7304 100.0%	64

〔24〕 あなたの本学での成績はどれくらいですか。

	度数	パーセント
上位の方	356	4.9%
中の上くらい	1081	14.8%
中くらい	2517	34.5%
中の下くらい	1469	20.1%
下位の方	1018	13.9%
その他	857	11.7%
合計	7298	100.0%
無回答	70	

[25] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
専門分野で第一人者になる	811 11.1%	2962 40.5%	2631 36.0%	905 12.4%	7309 100.0%	59
専門分野で仲間に認められる	275 3.8%	1186 16.2%	3688 50.5%	2158 29.5%	7307 100.0%	61
政治的な活動にたずさわる	1989 27.2%	3505 48.0%	1531 20.9%	284 3.9%	7309 100.0%	59
社会の価値観に影響を与える	1204 16.5%	3184 43.7%	2341 32.1%	557 7.6%	7286 100.0%	82
家族を養う	189 2.6%	961 13.1%	3174 43.4%	2987 40.9%	7311 100.0%	57
家庭を築く	260 3.6%	825 11.3%	2630 36.1%	3578 49.1%	7293 100.0%	75
企業や団体などで管理職になる	1180 16.1%	3636 49.8%	2066 28.3%	425 5.8%	7307 100.0%	61
会社などで出世する	810 11.1%	2640 36.2%	2788 38.2%	1064 14.6%	7302 100.0%	66
お金持ちになる	439 6.0%	1925 26.4%	3140 43.0%	1790 24.5%	7294 100.0%	74
困っている人の役に立つ	151 2.1%	705 9.8%	3209 44.4%	3162 43.8%	7227 100.0%	141
文芸作品を執筆する	2562 35.1%	3315 45.4%	1085 14.9%	343 4.7%	7305 100.0%	63
芸術作品を製作する	2498 34.2%	3108 42.6%	1298 17.8%	400 5.5%	7304 100.0%	64
舞台芸術で成功する	2545 34.9%	3179 43.6%	1198 16.4%	375 5.1%	7297 100.0%	71
ビジネスで成功する	1257 17.3%	2589 35.5%	2473 33.9%	967 13.3%	7286 100.0%	82
環境を守るための活動に参加	711 9.7%	2519 34.5%	3167 43.4%	899 12.3%	7296 100.0%	72
人生の意味を深く考える	396 5.4%	1602 22.0%	3311 45.4%	1982 27.2%	7291 100.0%	77
地域社会の活動に参加する	584 8.0%	2311 31.7%	3301 45.3%	1097 15.0%	7293 100.0%	75
人権意識の向上に役立つ	695 9.5%	2857 39.2%	2911 39.9%	834 11.4%	7297 100.0%	71
政治の動向に関心を持つ	1108 15.2%	3137 43.0%	2449 33.6%	600 8.2%	7294 100.0%	74
地域社会のリーダーになる	1544 21.2%	3934 54.0%	1505 20.7%	304 4.2%	7287 100.0%	81
精神性や信仰心を生活に反映させる	1400 19.2%	3485 47.9%	1934 26.6%	457 6.3%	7276 100.0%	92
多様な社会や文化を理解する	560 7.7%	2016 27.8%	3342 46.1%	1326 18.3%	7244 100.0%	124
友人関係を大切にする	73 1.0%	316 4.3%	1759 24.1%	5160 70.6%	7308 100.0%	60
自分の生きたい人生を送る	51 0.7%	283 3.9%	1653 22.6%	5320 72.8%	7307 100.0%	61

[26] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合（全体傾向）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	284	3.9%
結婚や出産をしても仕事を続ける	2858	39.4%
結婚や出産時に仕事をやめる	855	11.8%
子どもの手が離れたら再び働く	3183	43.9%
就職はしないで結婚する	77	1.1%
合計	7257	100.0%
無回答	111	

女性の生き方の回答割合（女子学生のみ）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	257	4.0%
結婚や出産をしても仕事を続ける	2540	39.3%
結婚や出産時に仕事をやめる	719	11.1%
子どもの手が離れたら再び働く	2890	44.7%
就職はしないで結婚する	63	1.0%
合計	6469	100.0%
無回答	57	

[27] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

現在の就職活動の状況（全体傾向）

	度数	パーセント
積極的には職を探していない	2129	30.4%
就職活動中であるが、内定が無い	1511	21.6%
内定を受けたが、断った	25	0.4%
ある内定を受けるかどうか考慮中	284	4.1%
内定が決定した	1294	18.5%
今年は就職を考えていない	1750	25.0%
合計	6993	100.0%
無回答	375	

現在の就職活動の状況（学年別傾向）

	1年生		2年生以上		計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1683	79.2%	443	20.8%	2126	100.0%
就職活動中であるが、内定が無い	425	28.1%	1085	71.9%	1510	100.0%
内定を受けたが、断った	4	16.0%	21	84.0%	25	100.0%
ある内定を受けるかどうか考慮中	175	61.6%	109	38.4%	284	100.0%
内定が決定した	47	3.6%	1247	96.4%	1294	100.0%
今年は就職を考えていない	1353	77.3%	397	22.7%	1750	100.0%
計	3687	52.8%	3302	47.2%	6989	100.0%

[28] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

	度数	パーセント
建築士や都市設計士	7	0.1%
エンジニア	7	0.1%
プログラマー	15	0.2%
歯科医	6	0.1%
医師	6	0.1%
獣医	8	0.1%
薬剤師	3	0.0%
看護師	348	5.0%
医療技師や衛生士	9	0.1%
理学療法士や作業療法士、言語聴覚士	3	0.0%
栄養士や管理栄養士	692	9.9%
社会福祉士	158	2.3%
ホームヘルパー	53	0.8%
保育士	1625	23.3%
弁護士や裁判官	2	0.0%
会計士や税理士	8	0.1%
幼稚園の教員	523	7.5%
小学校の教員	37	0.5%
中学校や高校の教員	59	0.8%
大学や短大の教員	4	0.1%
その他学校の教員	12	0.2%
学校外の各種の教員職	16	0.2%
学校や大学の職員	4	0.1%
学校長や学校経営者	1	0.0%
学校のカウンセラー	12	0.2%
臨床心理士	14	0.2%
聖職者	2	0.0%
芸術家	47	0.7%
インテリアデザイナー	45	0.6%
作家やジャーナリスト	32	0.5%
演奏家や作曲家	22	0.3%
俳優や演出家	58	0.8%
国や地方自治体の議員	2	0.0%
国家公務員	21	0.3%
地方公務員	98	1.4%
自衛隊員	6	0.1%
警察官	11	0.2%
消防士	7	0.1%
パイロットや客室乗務員	91	1.3%
海外勤務者	115	1.6%
ベンチャービジネス	12	0.2%
科学研究者	4	0.1%
旅行や観光業の仕事	197	2.8%
新聞や放送関係の仕事	37	0.5%
インターネット関係の仕事	25	0.4%
企業や団体の事務職	328	4.7%
企業や団体の経営者	33	0.5%
小売店の自営業者	48	0.7%
販売員や卸売業者	291	4.2%
農林水産業の従事者	2	0.0%
製造業の技能工	104	1.5%
専業主婦	169	2.4%
フリーター	35	0.5%
その他	695	9.9%
まだ決めていない	819	11.7%
合計	6988	100.0%
無回答	380	

[28] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。(上位 10 位まで)

	度数	パーセント
保育士	1625	23.3%
栄養士や管理栄養士	692	9.9%
幼稚園の教員	523	7.5%
看護師	348	5.0%
企業や団体の事務職	328	4.7%
販売員や卸売業者	291	4.2%
旅行や観光業の仕事	197	2.8%
専業主婦	169	2.4%
社会福祉士	158	2.3%
海外勤務者	115	1.6%
その他(選択肢内の職業を志望)	1028	14.7%
その他(選択肢外の職業を志望)	695	9.9%
まだ決めていない	819	11.7%
合計	6988	100.0%
無回答	380	

[29] 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
社会を変えるための仕事	534 7.3%	3001 41.2%	2976 40.9%	771 10.6%	7282 100.0%	86
高収入の可能性	234 3.2%	1686 23.2%	3857 53.0%	1500 20.6%	7277 100.0%	91
世間的な知名度や地位	546 7.5%	3147 43.4%	2795 38.5%	769 10.6%	7257 100.0%	111
生活の安定や保証	77 1.1%	465 6.4%	3155 43.4%	3578 49.2%	7275 100.0%	93
創造性や独創性	386 5.3%	2360 32.5%	3307 45.5%	1219 16.8%	7272 100.0%	96
自己を表現する仕事	266 3.7%	1684 23.2%	3482 47.9%	1837 25.3%	7269 100.0%	99
自由な時間	84 1.2%	806 11.1%	3592 49.4%	2787 38.3%	7269 100.0%	99
リーダーシップを発揮できる可能性	703 9.7%	3383 46.5%	2533 34.8%	653 9.0%	7272 100.0%	96
さまざまな領域の仕事をする可能性	502 6.9%	2731 37.6%	3067 42.2%	970 13.3%	7270 100.0%	98

〔30〕あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を欠損値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値) わからない 無回答	
共通教育あるいは教養教育の授業	146 2.1%	463 6.6%	3399 48.3%	2636 37.5%	389 5.5%	7033 100.0%	251	84
専門科目の授業	128 1.8%	407 5.7%	2393 33.6%	3366 47.3%	826 11.6%	7120 100.0%	157	91
1年次生を対象とした教育プログラム内容	156 2.4%	503 7.7%	3763 57.7%	1777 27.2%	325 5.0%	6524 100.0%	663	181
授業の全体的な質	198 2.8%	856 12.1%	3238 45.6%	2490 35.1%	321 4.5%	7103 100.0%	175	90
日常生活と授業の内容との関連	115 1.6%	516 7.4%	3508 50.1%	2501 35.7%	359 5.1%	6999 100.0%	267	102
キャリア計画に対する授業内容の有効性	132 1.9%	492 7.1%	3535 51.1%	2340 33.8%	422 6.1%	6921 100.0%	335	112
1つの授業を履修する学生数	115 1.6%	475 6.8%	3369 48.1%	2633 37.6%	411 5.9%	7003 100.0%	260	105
教員と話をする機会	130 1.9%	586 8.4%	3733 53.5%	2077 29.8%	449 6.4%	6975 100.0%	295	98
教職員による学生支援体制	167 2.4%	603 8.8%	3821 55.8%	1927 28.2%	326 4.8%	6844 100.0%	412	112
個人別の学習指導や援助	165 2.4%	744 10.9%	3898 57.0%	1722 25.2%	314 4.6%	6843 100.0%	419	106
履修や成績に対するアドバイス	181 2.6%	725 10.4%	3650 52.5%	2026 29.1%	372 5.3%	6954 100.0%	300	114
他の学生と話をする機会	104 1.5%	389 5.5%	2670 37.9%	2794 39.7%	1083 15.4%	7040 100.0%	217	111
学生同士の一体感	153 2.2%	485 6.9%	2878 40.9%	2564 36.4%	958 13.6%	7038 100.0%	229	101
学生交流の機会	141 2.0%	479 6.8%	3051 43.5%	2464 35.1%	875 12.5%	7010 100.0%	250	108
多様な考え方を認め合う雰囲気	149 2.1%	436 6.2%	3405 48.7%	2388 34.1%	618 8.8%	6996 100.0%	265	107
短大全体の学生数	123 1.8%	364 5.2%	3342 48.0%	2543 36.5%	588 8.4%	6960 100.0%	312	96
短大での経験全般について	128 1.8%	387 5.5%	3171 45.3%	2613 37.3%	699 10.0%	6998 100.0%	261	109

[30] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(※「わからない」を有効回答扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	146 2.0%	463 6.4%	3399 46.7%	2636 36.2%	389 5.3%	251 3.4%	7284 100.0%	84
専門科目の授業	128 1.8%	407 5.6%	2393 32.9%	3366 46.3%	826 11.4%	157 2.2%	7277 100.0%	91
1年次生を対象とした教育プログラム内容	156 2.2%	503 7.0%	3763 52.4%	1777 24.7%	325 4.5%	663 9.2%	7187 100.0%	181
授業の全体的な質	198 2.7%	856 11.8%	3238 44.5%	2490 34.2%	321 4.4%	175 2.4%	7278 100.0%	90
日常生活と授業の内容との関連	115 1.6%	516 7.1%	3508 48.3%	2501 34.4%	359 4.9%	267 3.7%	7266 100.0%	102
キャリア計画に対する授業内容の有効性	132 1.8%	492 6.8%	3535 48.7%	2340 32.2%	422 5.8%	335 4.6%	7256 100.0%	112
1つの授業を履修する学生数	115 1.6%	475 6.5%	3369 46.4%	2633 36.3%	411 5.7%	260 3.6%	7263 100.0%	105
教員と話をする機会	130 1.8%	586 8.1%	3733 51.3%	2077 28.6%	449 6.2%	295 4.1%	7270 100.0%	98
教職員による学生支援体制	167 2.3%	603 8.3%	3821 52.7%	1927 26.6%	326 4.5%	412 5.7%	7256 100.0%	112
個人別の学習指導や援助	165 2.3%	744 10.2%	3898 53.7%	1722 23.7%	314 4.3%	419 5.8%	7262 100.0%	106
履修や成績に対するアドバイス	181 2.5%	725 10.0%	3650 50.3%	2026 27.9%	372 5.1%	300 4.1%	7254 100.0%	114
他の学生と話をする機会	104 1.4%	389 5.4%	2670 36.8%	2794 38.5%	1083 14.9%	217 3.0%	7257 100.0%	111
学生同士の一体感	153 2.1%	485 6.7%	2878 39.6%	2564 35.3%	958 13.2%	229 3.2%	7267 100.0%	101
学生交流の機会	141 1.9%	479 6.6%	3051 42.0%	2464 33.9%	875 12.1%	250 3.4%	7260 100.0%	108
多様な考え方を認め合う雰囲気	149 2.1%	436 6.0%	3405 46.9%	2388 32.9%	618 8.5%	265 3.6%	7261 100.0%	107
短大全体の学生数	123 1.7%	364 5.0%	3342 46.0%	2543 35.0%	588 8.1%	312 4.3%	7272 100.0%	96
短大での経験全般について	128 1.8%	387 5.3%	3171 43.7%	2613 36.0%	699 9.6%	261 3.6%	7259 100.0%	109

[31] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。

	度数	パーセント
第1志望	5590	77.1%
第2志望以下	1661	22.9%
合計	7251	100.0%
無回答	117	

[32] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

	度数	パーセント
一般入試	1014	13.9%
一般と大学入試センター試験の併用型	54	0.7%
大学入試センター試験利用型	61	0.8%
内部進学	107	1.5%
指定校推薦	3295	45.3%
スポーツや課外活動の推薦	60	0.8%
公募推薦	1207	16.6%
AO選考	1176	16.2%
留学生入試	31	0.4%
社会人入試	181	2.5%
その他の試験	88	1.2%
合計	7274	100.0%
無回答	94	

入試方式の3分類

	度数	パーセント
一般入試	1129	15.5%
各種推薦入試	5845	80.4%
その他	300	4.1%

※[一般入試]…「一般入試」+「一般入試とセンター試験併用型」+「センター入試利用」

[各種推薦入試]…「内部進学」+「指定校推薦」+「スポーツ等推薦」+「公募推薦」+「AO入試」

[その他]…「留学生入試」+「社会人入試」+「その他の入試」

[33] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

	度数	パーセント
高校入学前	236	3.3%
高校1年生	246	3.5%
高校2年生	734	10.3%
高校3年生(4月～6月)	1201	16.9%
高校3年生(7月～8月)	1828	25.7%
高校3年生(9月～10月)	1831	25.8%
高校3年生(12月から1月中旬)	547	7.7%
大学入試センター試験終了後	312	4.4%
浪人生時代	168	2.4%
合計	7103	100.0%
無回答	265	

[34-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
はい	3237	44.7%
いいえ	3768	52.0%
その他	236	3.3%
合計	7241	100.0%
無回答	127	

[34-2] ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

	度数	パーセント
父親	1647	50.9%
母親	1629	50.3%
兄弟	716	22.1%
姉妹	877	27.1%
その他	139	4.3%
合計	5008	

[35] あなたの学生生活は充実していますか。

	度数	パーセント
充実している	2130	29.5%
ある程度充実している	2882	39.9%
普通である	1231	17.0%
あまり充実していない	654	9.0%
充実していない	330	4.6%
合計	7227	100.0%
無回答	141	

[36] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。

	度数	パーセント
かならず進学する	603	8.3%
おそらく進学する	2060	28.5%
おそらく進学しない	1591	22.0%
絶対に進学しない	872	12.1%
わからない	2106	29.1%
合計	7232	100.0%
無回答	136	

### 第3部 参加校の意見

本調査では、調査参加校に対して、データ入力作業等の整理が終了した平成23年3月に短期大学ごとの集計結果を提供したが、同年の8月中に全体集計結果を中間報告としてまとめ、8月30日付で、それを参加校に送付したのにあわせ、以下のアンケートにより、意見の提出を依頼した。

#### 「短大生調査2010年（JJCSS2010）」についてのアンケート

##### 1. 調査項目について

調査項目が貴学の学生への質問として、

- 適切であった
- 大旨適切であった
- あまり適切でなかった
- 不適切であった

適切でなかった、あるいは改善を要すると感じられた項目について、具体的にご指摘ください。

##### 2. 実施時期について

実施時期について、ご意見等をお書き下さい。

##### 3. 実施方法について

実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

##### 4. 2010年JJCSS調査全体集計結果・中間報告書について

全体集計結果の中間報告をどのように活用される（活用されている）かについて、お書き下さい。

##### 5. その他

その他、何でもご意見、ご感想等をお願いいたします。

その結果、締め切りとした9月26日までに合計17校からの回答を得た。下記は、そのアンケートの集計結果である。

#### [アンケート集計結果]

##### 1. 調査項目について

調査項目が貴学の学生への質問として、

- ① 適切であった.....4校
- ② 大旨適切であった.....12校
- ③ あまり適切でなかった.....0校
- ④ 不適切であった.....0校
- ⑤ 回答なし.....1校

適切でなかった、あるいは改善を要すると感じられた項目について、具体的にご指摘ください。

- 質問項目が多すぎる。
- 調査項目数がやや多いのではなからうか。回答に時間がかかったようだ。また、補習授業と民族に関する授業は、本学では該当なし。
- 調査項目は数を減らし、文章の翻訳調を改め、回答しやすくすることが必要。
- あなたの高校について、高校の教育課程についての設問があってもいい。(ただし、年1回の調査の現状では設問を増やすことは不可能。) 選択肢：普通課程・総合課程・職業課程(工業・商業・農業・その他)・単位制高校・定時制高校・その他
- 奨学金について貸与と贈与をわけて、金額を記入させてもいいかもしれない。(ただし、年1回の調査の現状では設問を増やすことは不可能。)
- 調査項目[16]の「2. 短期大学の専攻科を卒業する」は、学科に専攻という組織がある短大では学生に通常の短大卒と誤解される恐れがあります。
- アクティブラーニングや教職員による支援、学友関係の設問は、減らすのではなく、拡充する方向で問いを設置してほしい。
- 調査項目は大旨適切であると思うが、語句、表現が学生にとって難解である為、有効な回答を引き出せているかは若干疑問である。
- 調査項目[20]について：学内施設に対する利用率や認識度をはかった上で、満足度を調査するべきである。また、満足度を測る項目に「クラブ・サークル活動」がなく、突然ボランティア活動が入るなど、質問の情景がやや不明確である。
- 調査項目[25], [26], [29]について：本学を望む学生の特徴を知る上で有益な質問である。できれば本学と同質な他大学のデータとの比較ができれば望ましい。
- 調査項目[28] 職業やキャリアについて：「社会福祉士」は福祉系短期大学で取得できる「介護福祉士」がよいのでは。社会福祉士の受験資格は短大卒業後1年又は2年の相談援助実務が必要です。また、「栄養士・管理栄養士」の管理栄養士も短大卒業後2年または3年の実務経験が必要です。まとめると、「介護福祉士・社会福祉士」とするか、どちらも短大で目指すことができる「介護福祉士」、「栄養士」とした方が分かりやすいと思います。
- 調査項目[36]について：同じ大学、学科かなど、こういった形での再進学なのかで回答は大きく変わると考える。
- 調査項目[37]はマス目に学籍番号を記入してもらった方が調査する側には使い勝手がいい。しかし、回答率が落ちるようなら現状でいいです。

## 2. 実施時期について

- 適切であった。(他3校)
- 問題ありません。
- 1年次生を対象に実施している。4月・5月であれば2年次になってから実施でき、学生の回答ももっとしっかりするように思う。しかし就職活動で忙しくなり全員が揃わなくなる可能性も高いので、この時期が適切ではないか。
- 現在は11月-12月に1回だけの実施。年1回の実施なら時期はベストです。理想は、5月上旬までに新入生を対象とした調査を実施、12月に1年次生、2年次生、大学教員を対象とした調査をそれぞれ実施。経費がかさみます。
- 冬期休業前は忙しくなりますので、12月前半には実施終了したい。
- 短期大学は2年間と短い。また、最近は春休みにもキャリア支援、教育支援等の行事も多く、是非、2年生の4月の初め以降に実施していただきたい。
- 10月がよい。回収率の高さと授業への影響のなさを考えると、後期オリエンテーションの時間中に実施するのが望ましく思われるからである。
- アンケート結果のデータをもう少し早くいただきたいこと、及びアンケートの実施に授業時間の一部を使用することを考慮すると、可能ならば、11月中・下旬に実施したいと思います。
- 1年生が授業や学生生活について回答でき、2年生がキャリアについて回答できるのは現行の11~12月が適切かと思います。参加校へのデータ提供が1~2月になるとデータ活用が進むと考えます。

## 3. 実施方法について

- 適切であった。(他3校)
- 現状の紙ベースでOKです。しかし、Webからの回答も選べるようになればさらにいいと思います。
- 授業に関する調査や事務局に関する調査は毎年実施していますが、本調査のような広範囲な調査はやっていないので基礎データとして活用できると考えます。
- コア科目として、クラス担任が担当する幅広い内容の「ガイダンス」(授業科目名)を配置している。クラス担任がこの時間を利用して実施するので、特に問題はなかった。
- 現在の規模でのアンケートは、大学の実施負担、学生の回答負担が大きい。質問項目を厳選し、より負担の少ない形で実施する方がよい。
- 現在、学生委員会の担当教科の時間に実施しております。授業時間を使用しない方法を検討中です。

## 4. 2010年JJCSS調査全体集計結果・中間報告書について：

全体集計結果の中間報告をどのように活用される(活用されている)かについて、お書き下さい。

- 自己点検評価で利用している。
- 幹部教員及び入試広報部において情報を共有し、今後の教育活動、学生募集業務に生

かす予定。

- 集計結果の中間報告から知り得た学生の状況を踏まえて、募集活動や学生指導の参考にしています。
- 学長、学科長、各課長に回覧。
- 教職員へ回覧する。
- 今後の授業計画や学生へのガイダンスで活用したい。また、第三者評価の備付資料にする予定。
- 2012年度より改組（リニューアル）を予定しており、多様なリサーチを実施している折ですので、大変参考になる項目が多く、色々と学ばせていただきました。
- 全体結果と本学との比較、また本学独自に実施している在学生アンケートにより関連項目の比較分析ができる。これらによって本学の特徴や実態が見えてくるものと期待している。
- 本学データとの比較を行い、FD、SD 活動につなげていきたいと考える。本学と同様の規模、定員、学科構成をもった他大学との比較ができれば、より望ましい。
- (1) 本学で行っている学生・保護者へのアンケートの結果と合わせて、学生へのサービス改善に利用。  
(2) 全国的な短大の動向や実態を知る資料として、短期・中期の将来計画策定に利用。
- 全体の集計結果は、所属短大・学科の集計結果と比較して、特色や強みと弱みなどを検討してもらう材料にします。学科研究会の場を使い、FD 活動の一環として検討してもらいます。
- 学生の学習傾向等の変化及び他大学との傾向の相違について比較し、改善につなげたいと思っています。
- 1. クラス運営や相談業務の基礎知識として活用
  - ① FD 活動の一環として、FD ニュースに要約を掲載し、全教職員が「短期大学学生の今」を共有するために活用したい。
  - ② 写しを学科長、教務委員、学生委員、入試委員に配付し、学生を理解するための資料としたい。
- 2. 本学学生の結果と併せて、現在実施中の自己点検・評価に活用したい。
- 1. 授業研究の資料として活用している。  
2. 調査項目[22]の知識・技能の獲得状況の変化については、「批判的思考能力」の増加割合が他と比べて低いという点が本学の大きな課題と一致していたことから、FD 活動の中でとりあげ検討している。
- 現状は閲覧するにとどまっていますが、経年変化をみることにより、FD に活用できると考えます。
- 現在中間報告は活用しておりません。
- 未定。(1校)

## 5. その他

- 貴重なデータになると思いますが、全体分と本学分の対比をするだけでも実は大変な

労力を必要とします。その上でそれを分析するとなるとなかなか手がかからないのが正直なところです。全体と自大学分をデータで容易に比較しうるような提供の仕方をご検討いただければ幸いです。

- 大変貴重なアンケートであると思います。ただし、やや表層的である部分も（アンケート形式の為いたしかたないかもしれませんが）あります。授業が面白くないならば、その内容を掘り下げられるとよいかと存じます（→ その後はこちらの仕事かもしれませんが）。
- アンケート結果の短大ホームページへの公開の仕方や短大教育の改善への活用の仕方などを示せたらいいなと思っています。また、国語（漢字や文章）や算数（統計）、外国語、一般教養などは試験ができるかもしれません。学生はいやがりませんが、就職や資格取得のための試験はあります。
- 継続実施が可能となるようお願いしたいと思います。
- 1年次生を調査の対象としてきたので、今年度中に学生の変化をまとめたいと考えている。（昨年度は認証評価で余裕がなかったのです）

この集計結果によれば、今回の学生調査は、その質問内容においては全体としておおむね適切であったとの判断を得ている。しかし、質問項目数の多さや各項目で使用されている語句や表現の難解さなどの点で、学生の回答負担が大きくなっていることがうかがえる。

調査の実施時期や実施方法については、適切であったとする意見がある一方、参加校の個々の状況によって、希望実施時期にばらつきがみられ、また、調査実施に係る学校側の負担も大きくなっていることが分かる。

さらに、アンケートの質問項目第4番目にある「2010年 JJCSS 調査全体集計結果・中間報告書の活用方法」としては、FD 活動、学生募集業務、学生指導、あるいは学生へのサービスの改善等に生かすとともに、他大学との比較によって自大学の特徴や実態を把握するのに役立つといった意見がみられる。また、自己点検・評価や短期・中期の将来計画策定に利用することなどが挙げられ、各短期大学の置かれた状況によって、その活用の仕方は様々である。

以上のことから、本調査の今後については、①調査内容と実施方法は、今回のものを基本としつつも、調査項目を精査し、分量の軽減、使用語句・表現の平易化といった点を検討していく必要がある。②また、参加校からの広範な要請に対して、より柔軟に対処できる工夫が求められていると考えられる。

### JCIRP 短期大学学生調査チーム メンバー一覧(○:研究総括)

氏名	所属機関/職名
○山田 礼子	同志社大学/教授
相原 総一郎	大阪薫英女子短期大学/教授
江原 昭博	同志社大学高等教育・学生研究センター/研究員
森 利枝	大学評価・学位授与機構/准教授

### 研究協力者

氏名	所属機関/職名
堺 完	同志社大学大学院社会学研究科 博士後期課程 [執筆担当:設問 20~36]
山崎 慎一	桜美林大学高等教育研究所/研究員 [執筆担当:設問 1~19]

### 調査研究委員会 委員一覧(○:委員長)

氏名	所属機関/職名
○舘 昭	桜美林大学大学院/教授
阿部 幸子	青山学院女子短期大学/名誉教授
草原 克豪	拓殖大学/名誉教授
小林 雅之	東京大学 大学総合教育研究センター/教授
清水 一彦	筑波大学/理事・副学長
田中 義郎	桜美林大学/教授
早田 幸政	大阪大学 大学教育実践センター/教授
春山 志郎	東京工業大学/名誉教授
溝上 智恵子	筑波大学/教授
藪 敏晴	佐賀女子短期大学/教授
山田 礼子	同志社大学/教授
吉本 圭一	九州大学大学院/教授